

令和5年度 文京区子ども・子育て支援に関する実態調査報告書

～ 概要版 ～

<調査の目的>

文京区に居住する子どもを養育する家庭の生活実態、ニーズ量及び子育ての状況等を把握し、「文京区子育て支援計画(令和7年度～11年度)」の基礎資料等を得ることを目的とする。

<調査の概要>

(1)調査区域:文京区全域

(2)調査対象及び標本数:区内に居住する以下の者

①未就学児の保護者	1,800人
②小学生の保護者	1,500人
③中学生の保護者	700人
④高校生世代の保護者	700人
⑤小学生本人	700人
⑥中学生本人	700人
⑦高校生世代本人	700人
⑧児童扶養手当受給保護者	529人
⑨就学援助受給世帯保護者	586人
⑩就学援助受給世帯小学生本人	376人
⑪就学援助受給世帯中学生本人	431人

(3)抽出方法:①から⑦までは住民基本台帳から無作為抽出、⑧から⑪までは全数調査

(4)調査方法:インターネットによる回答及び自記式調査票による郵送配布、郵送回収

(5)調査時期:令和5年10月25日から令和5年11月30日まで

(6)回収結果:

	配布数	不在返送数	有効配送数	有効回収数	有効回収率
①未就学児保護者	1,800人	25人	1,775人	769人	43.3%
②小学生保護者	1,500人	2人	1,498人	598人	39.9%
③中学生保護者	700人	2人	698人	352人	50.4%
④高校生世代保護者	700人	4人	696人	334人	48.0%
⑤小学生本人	700人	4人	696人	274人	39.4%
⑥中学生本人	700人	4人	696人	254人	36.5%
⑦高校生世代本人	700人	4人	696人	226人	32.5%
⑧児童扶養手当受給保護者	529人	4人	525人	192人	36.6%
⑨就学援助受給世帯保護者	586人	4人	582人	251人	43.1%
⑩就学援助受給世帯小学生本人	376人	2人	374人	112人	29.9%
⑪就学援助受給世帯中学生本人	431人	3人	428人	93人	21.7%
合計	8,722人	58人	8,664人	3,455人	39.9%

～調査結果の見方～

- ◇各項目にある「未就学児」「小学生」「中学生」「高校生世代」「小学生本人」「中学生本人」「高校生世代本人」「児童扶養手当」「就学援助」「就学援助小学生本人」「就学援助中学生本人」の表示は、それぞれ未就学児の保護者、小学生の保護者、中学生の保護者、高校生世代の保護者、小学生本人、中学生本人、高校生世代本人、児童扶養手当受給保護者、就学援助受給世帯保護者、就学援助受給世帯小学生本人、就学援助受給世帯中学生本人を対象とした回答項目であることを示している。
 - ◇図・表中のnは該当質問における回答者の総数を表す。
 - ◇複数回答と記載のあるものは質問に対する回答がいくつでもよい質問を表し、特にことわり書きのない場合は質問に対する回答が1つの単数回答を表す。
 - ◇回答はnを 100%として百分率で算出してある。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体の示す数値と一致しないことがある。
 - ◇グラフに表示される数値が 0.0 の場合は、回答数 0 件を表す。
 - ◇複数回答ができる質問では、回答比率の合計が 100%を超えることがある。
-

1 基本属性

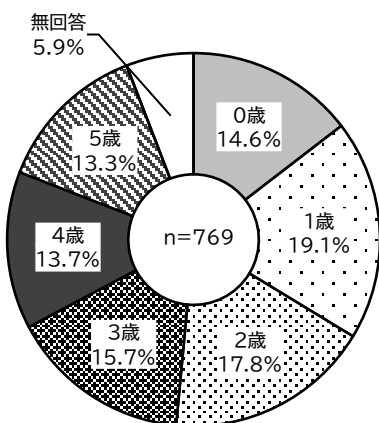
未就学児 小学生 中学生 高校生世代 小学生本人 中学生本人 高校生世代本人

(1)子どもの年齢・年代・学年

児童扶養手当 就学援助 就学援助小学生本人 就学援助中学生本人

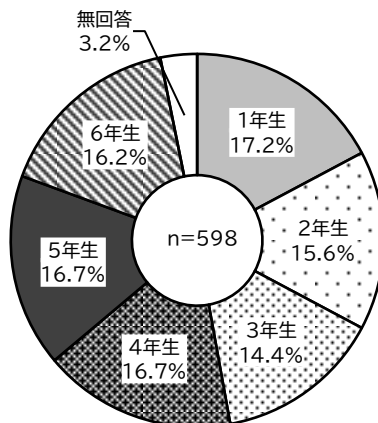
未就学児

令和5年4月1日現在の年齢



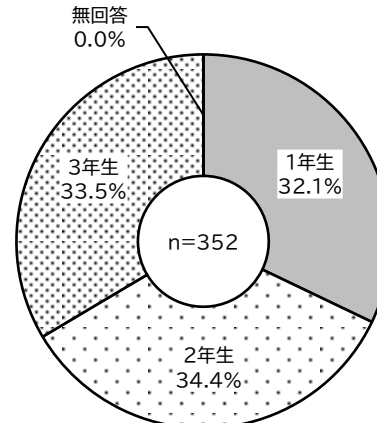
小学生

令和5年10月現在の学年



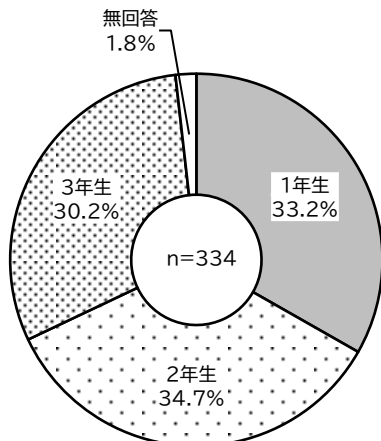
中学生

令和5年10月現在の学年



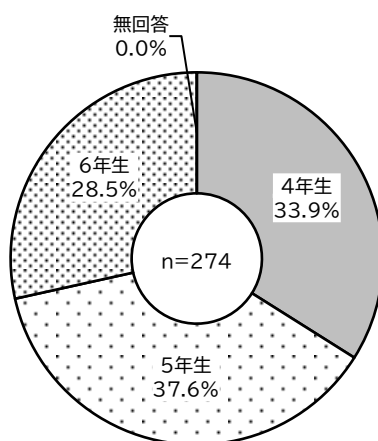
高校生世代

令和5年10月現在の学年



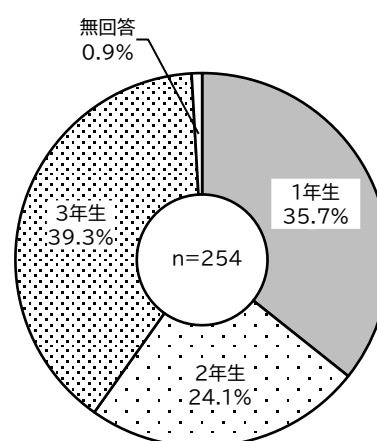
小学生本人

令和5年10月現在の学年



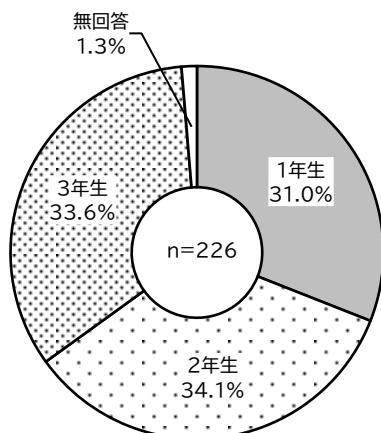
中学生本人

令和5年10月現在の学年



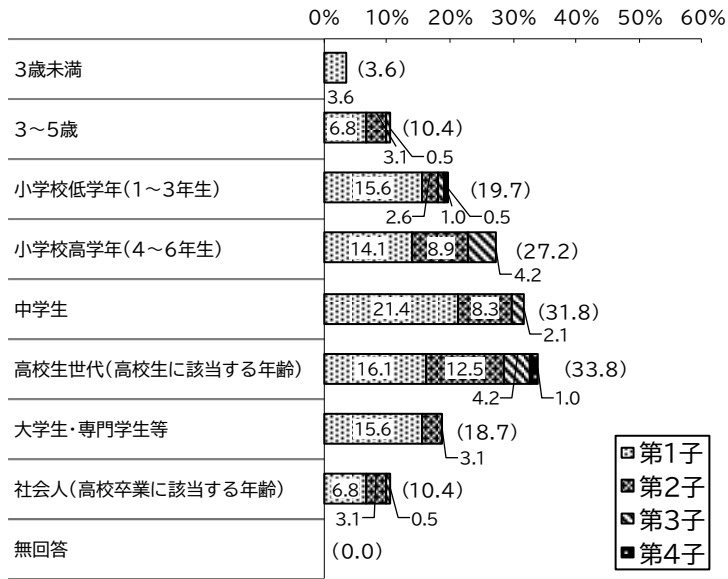
高校生世代本人

令和5年10月現在の学年



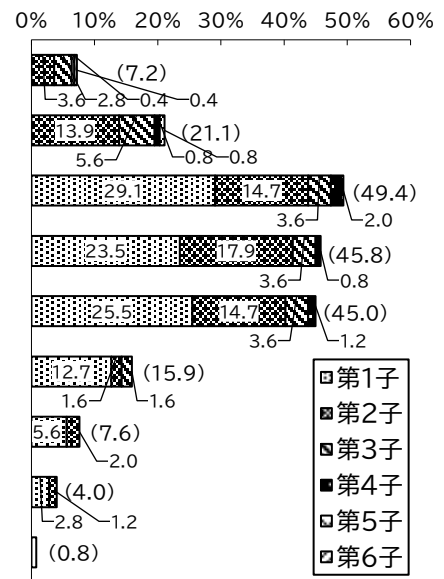
児童扶養手当 n=192

令和5年4月1日現在の年代



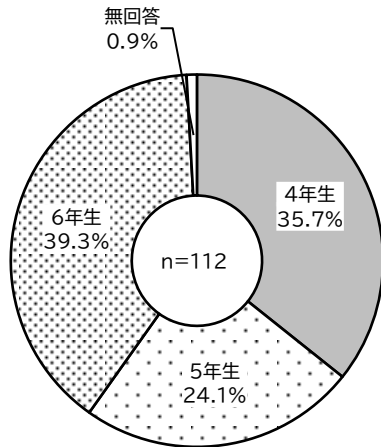
就学援助 n=251

令和5年4月1日現在の年代



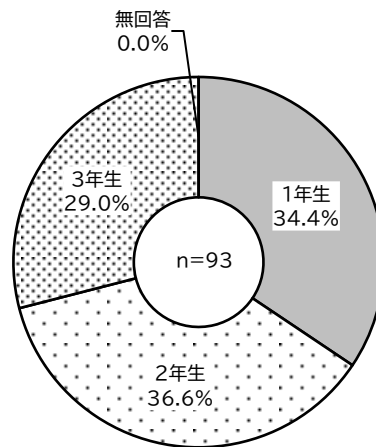
就学援助小学生本人

令和5年10月現在の学年

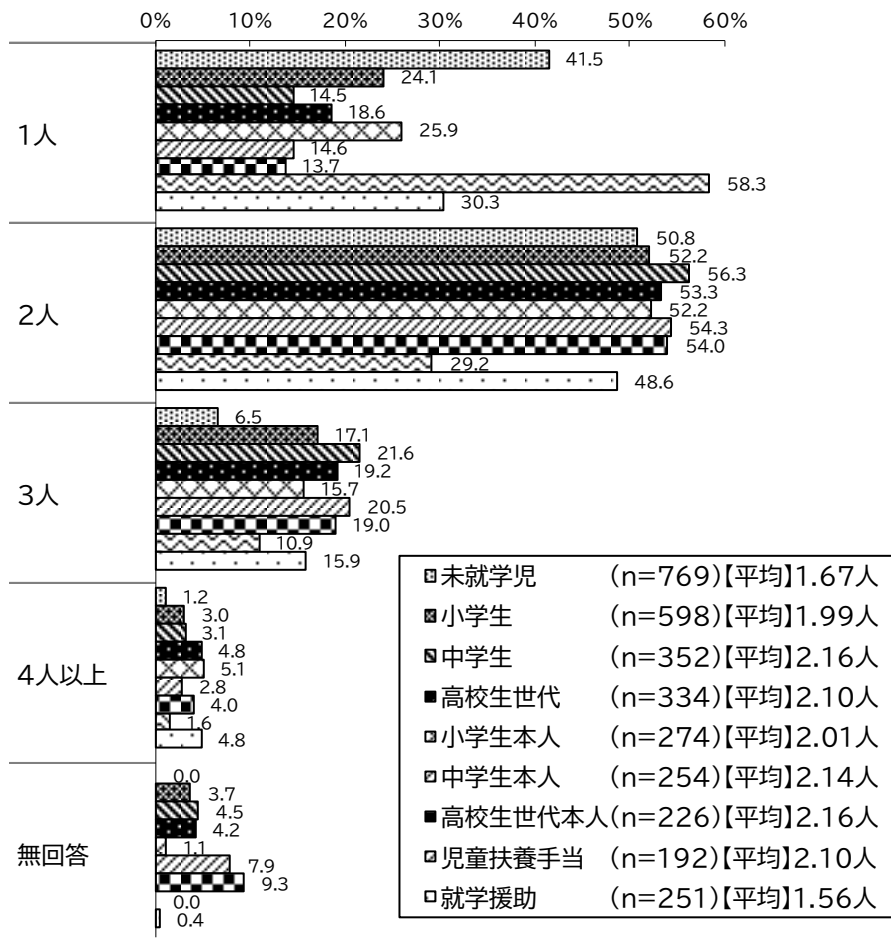


就学援助中学生本人

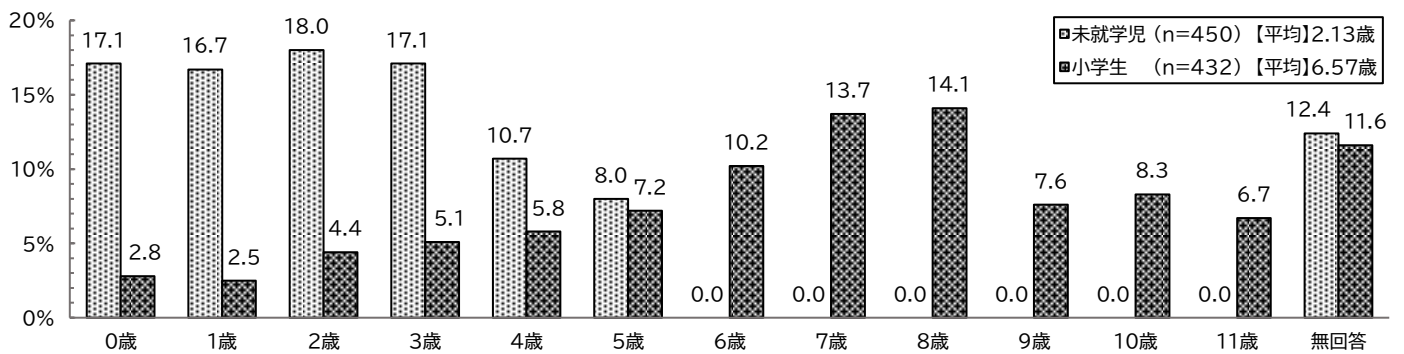
令和5年10月現在の学年



(2)子どもの人数



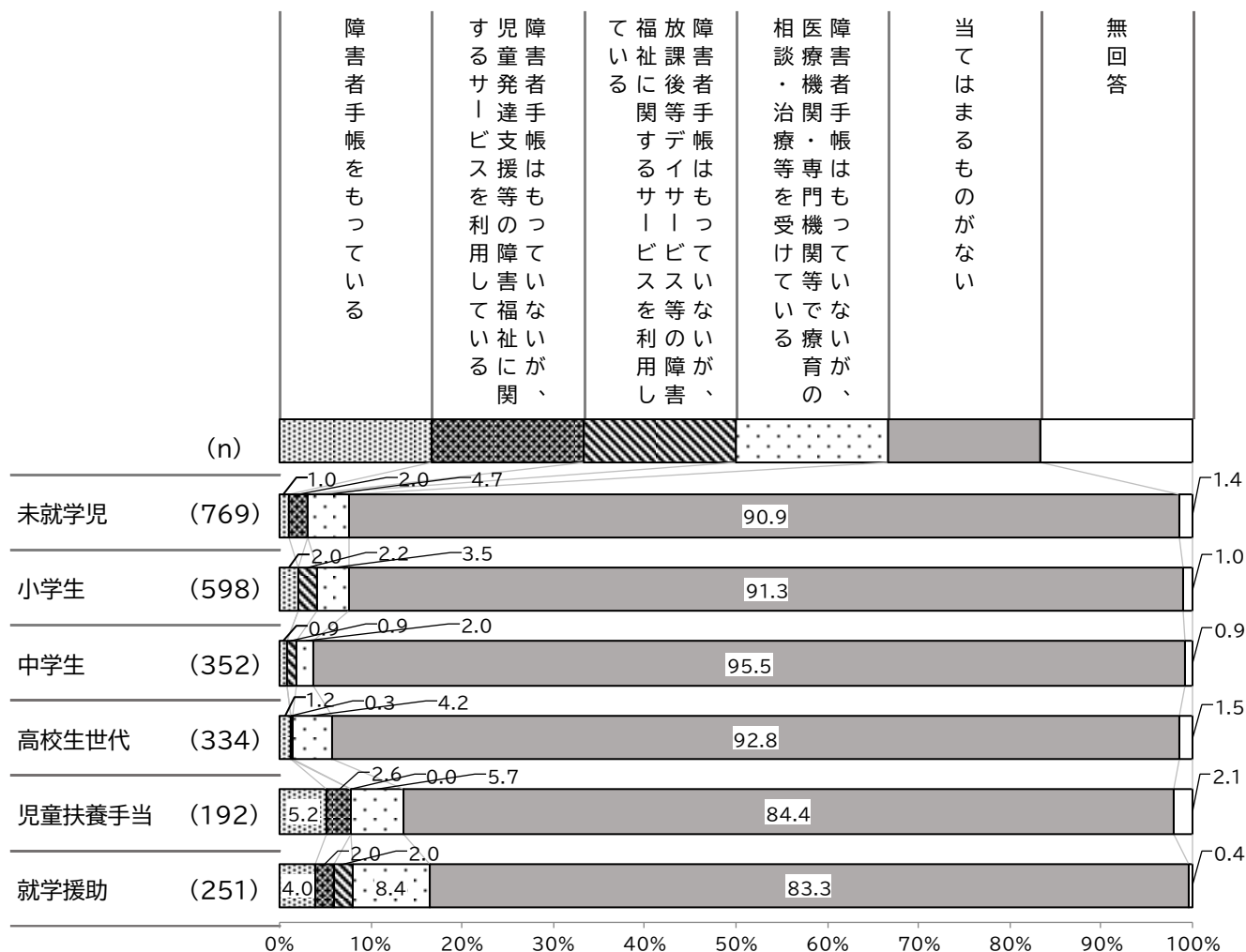
(3)未子の年齢



(4)障害者手帳の有無

未就学児 小学生 中学生 高校生世代 児童扶養手当 就学援助

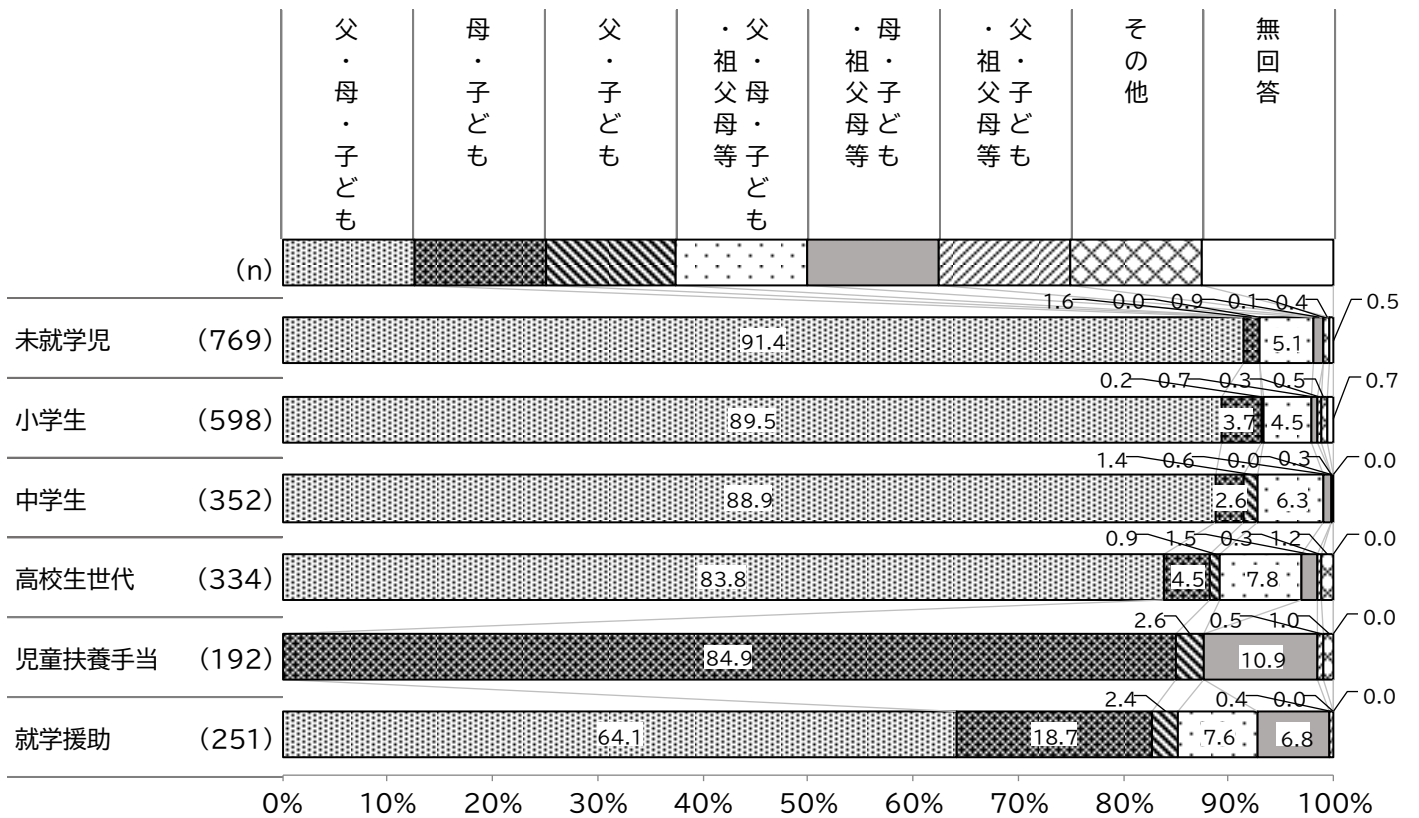
障害者手帳の有無について尋ねたところ、「障害者手帳をもっている」は児童扶養手当受給保護者が5.2%、就学援助受給世帯保護者が4.0%、小学生の保護者が2.0%、未就学児、中学生及び高校生世代の保護者が約1%となっている。また、「障害者手帳はもっていないが、医療機関・専門機関等で療育の相談・治療等を受けている」は児童扶養手当受給保護者が5.7%、就学援助受給世帯保護者が8.4%となっている。



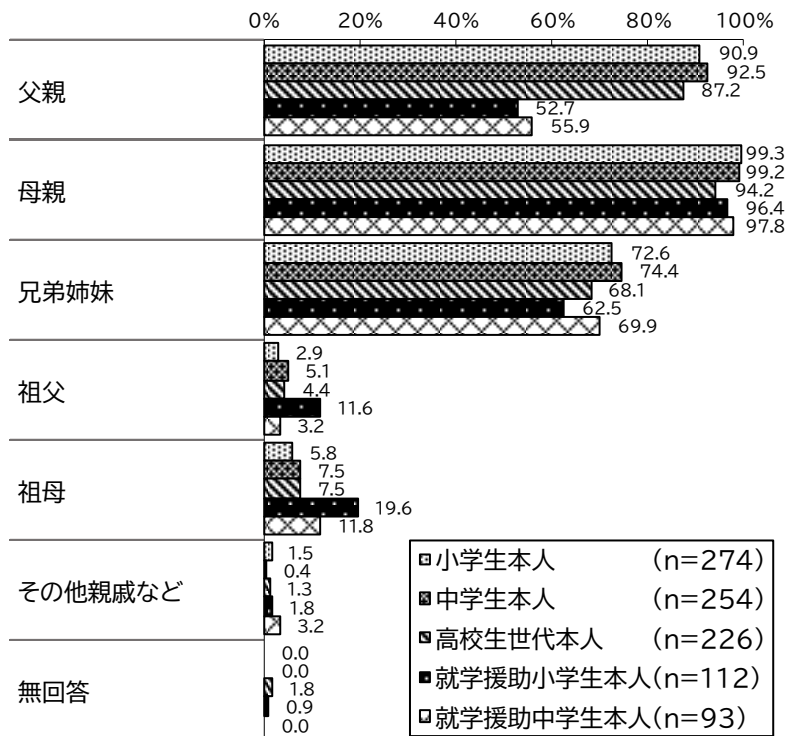
※「障害者手帳はもっていないが、児童発達支援等の障害福祉に関するサービスを利用している」は小学生、中学生及び高校生世代の保護者の調査では項目なし。

「障害者手帳はもっていないが、放課後等デイサービス等の障害福祉に関するサービスを利用している」は未就学児の保護者の調査では項目なし。

(5) 家族構成



※「父・母・子ども」「父・母・子ども・祖父母等」は児童扶養手当受給保護者の調査では項目なし。



(6)回答者と配偶者の有無

未就学児 小学生 中学生 高校生世代 児童扶養手当 就学援助

	(n)	回答者					配偶者の有無		
		父親	母親	祖父母等	その他	無回答	いる	いない	無回答
未就学児	(769)	23.0	75.8	(項目なし)	0.3	0.9	96.6	2.1	1.3
小学生	(598)	23.6	74.7	(項目なし)	0.5	1.2	94.6	4.0	1.3
中学生	(352)	25.3	74.1	(項目なし)	0.0	0.6	(項目なし)		
高校生世代	(334)	23.7	73.1	(項目なし)	2.4	0.9	(項目なし)		
児童扶養手当	(192)	3.1	95.8	0.0	1.0	0.0	(項目なし)		
就学援助	(251)	17.9	80.5	0.4	0.4	0.8	(項目なし)		

(7)主に子育てを行っている人

未就学児 小学生 児童扶養手当 就学援助

	(n)	父母ともに	主に父親	主に母親	主に祖父母	その他	無回答
未就学児	(769)	60.6	0.8	37.8	0.1	0.0	0.7
小学生	(598)	60.9	1.5	36.1	0.0	0.5	1.0
児童扶養手当	(192)	(項目なし)	3.6	95.3	0.5	0.5	0.0
就学援助	(251)	(項目なし)	8.8	87.6	0.8	2.0	0.8

(8)居住地区

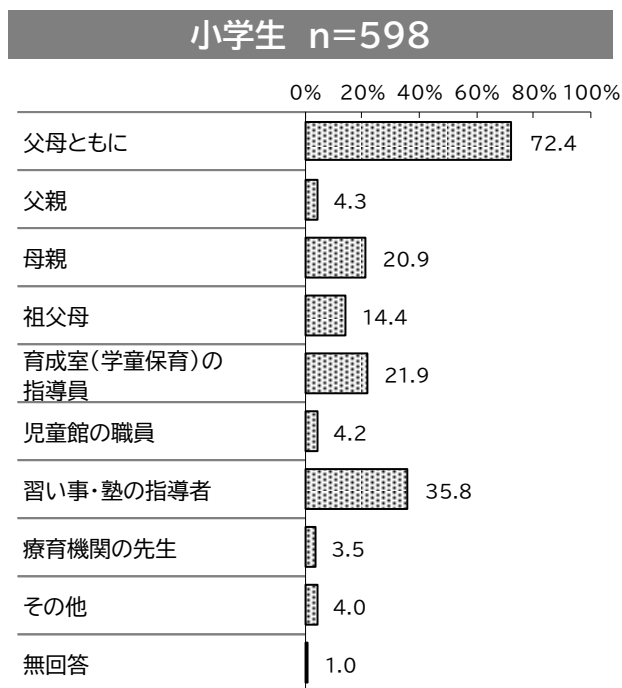
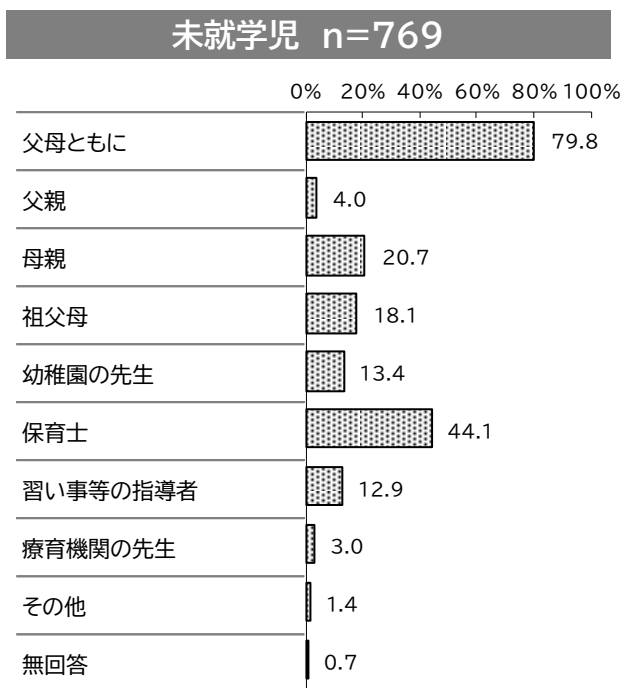
未就学児 小学生 中学生 高校生世代 小学生本人 中学生本人 高校生世代本人

	(n)	後楽	春日	小石川	白山	千石	水道	小日向	大塚	関口	目白台	音羽	本郷	湯島	西片	向丘	弥生	根津	千駄木	本駒込	無回答
未就学児	(769)	0.7	2.2	15.0	9.1	10.8	3.0	5.2	10.0	3.6	3.1	4.7	6.8	3.8	1.4	1.4	0.4	1.7	5.2	11.3	0.7
小学生	(598)	1.0	2.5	11.4	8.5	10.2	2.0	6.0	6.5	2.7	3.2	1.7	9.2	2.0	4.2	2.7	0.8	3.3	8.9	12.9	0.3
中学生	(352)	1.4	4.0	9.7	9.4	11.4	2.3	4.8	9.9	3.1	3.7	1.1	6.5	0.0	2.3	3.7	0.6	2.6	9.7	13.9	0.0
高校生世代	(334)	0.6	2.7	12.0	7.2	10.8	3.3	4.2	8.7	4.5	4.2	2.1	4.2	0.0	2.7	3.3	1.5	3.3	9.9	14.4	0.6
小学生本人	(274)	0.4	3.3	8.8	12.8	9.5	1.1	5.1	12.8	1.8	1.5	1.1	5.1	0.0	1.8	3.6	0.4	2.2	12.4	16.1	0.4
中学生本人	(254)	0.0	3.1	13.0	7.9	11.8	4.7	5.9	6.7	2.8	2.8	1.6	8.3	2.0	3.1	2.8	1.2	2.4	7.9	12.2	0.0
高校生世代本人	(226)	2.2	3.1	9.3	9.3	14.6	3.1	7.1	8.8	2.2	4.0	1.3	0.4	0.0	3.5	3.1	0.4	2.7	10.6	13.3	0.9

2 子育ての環境

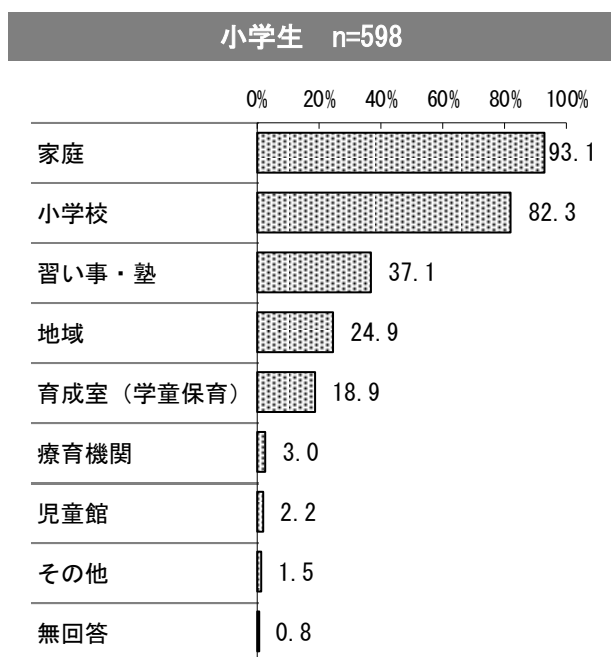
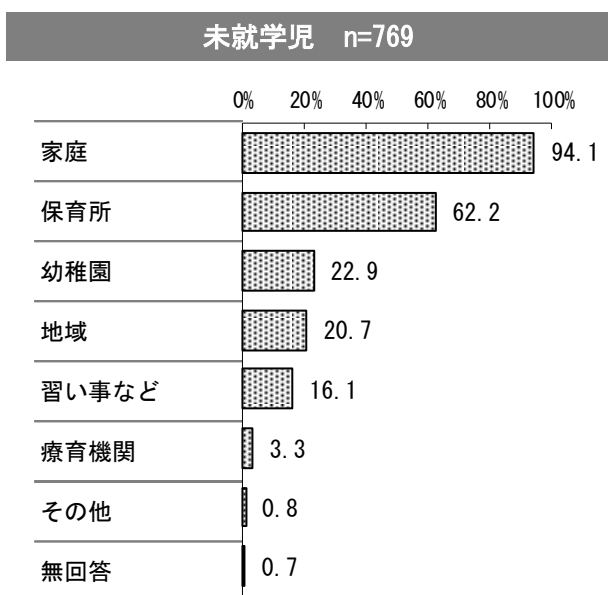
(1) 日常的に子育て(教育を含む。)に関わっている人(複数回答)

未就学児 小学生



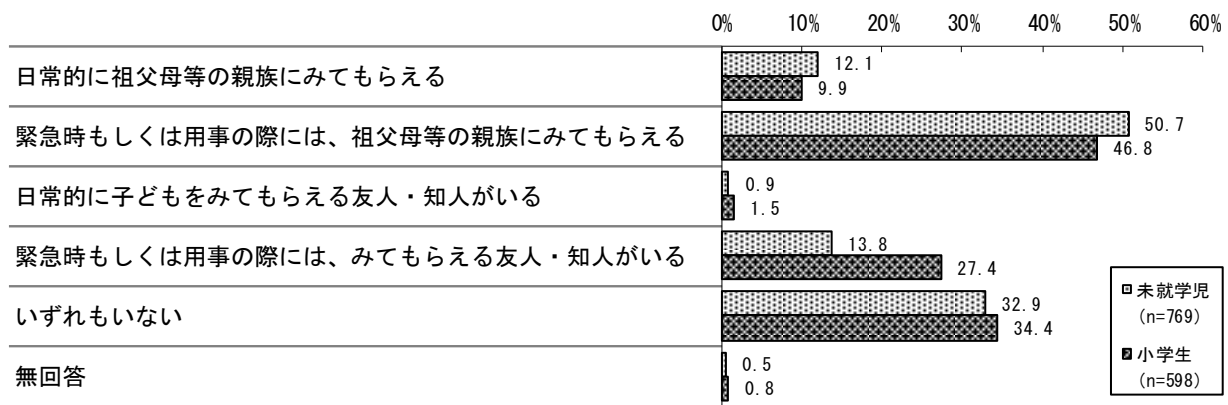
(2) 子育てに最も影響が強いと思われる環境(複数回答)

未就学児 小学生



(3)子どもをみてもらえる親族・知人の状況(複数回答)

未就学児 小学生



3 親子のコミュニケーションについて

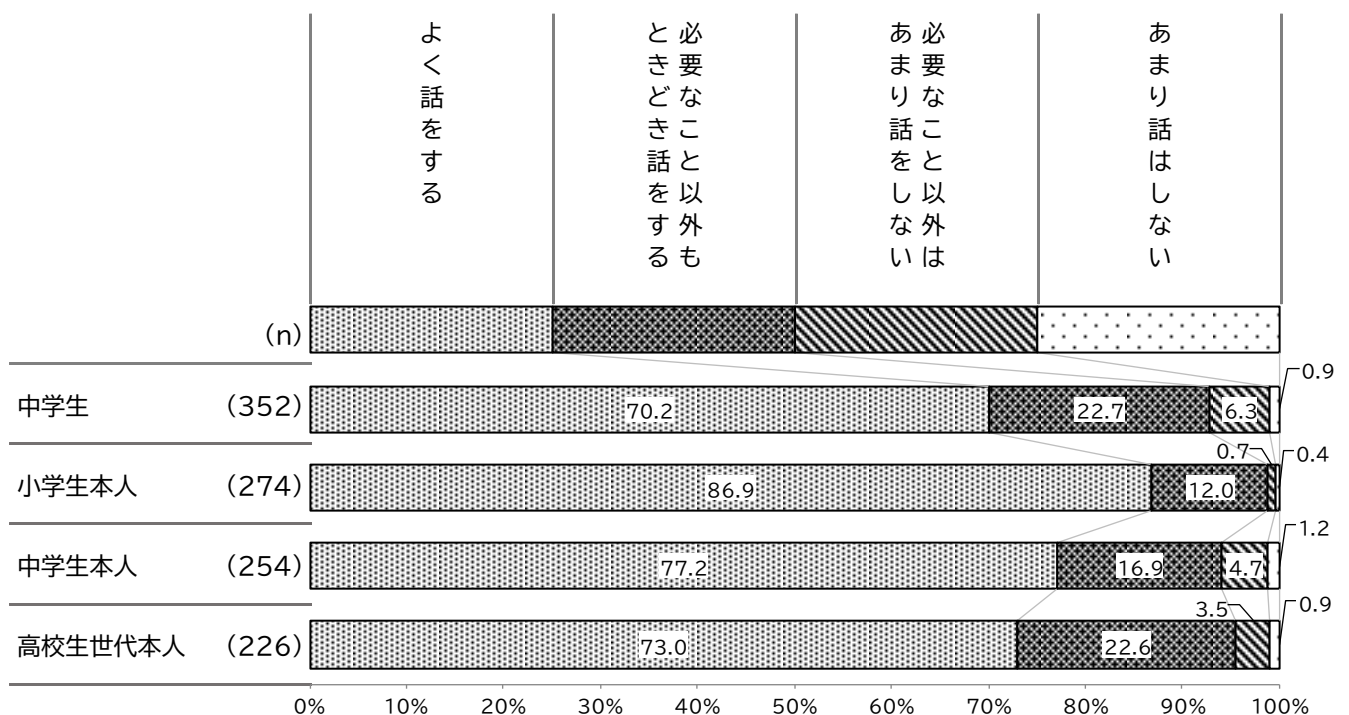
(1)家族との会話

中学生 小学生本人 中学生本人 高校生世代本人

①(子どもが)家族と会話をする頻度

家族と会話をする頻度については、小学生本人は、「よく話をする」86.9%、「必要なこと以外もときどき話をする」12.0%となっている。中学生本人では「よく話をする」77.2%、「必要なこと以外もときどき話をする」16.9%となっている。高校生世代本人では「よく話をする」73.0%、「必要なこと以外もときどき話をする」22.6%となっている。

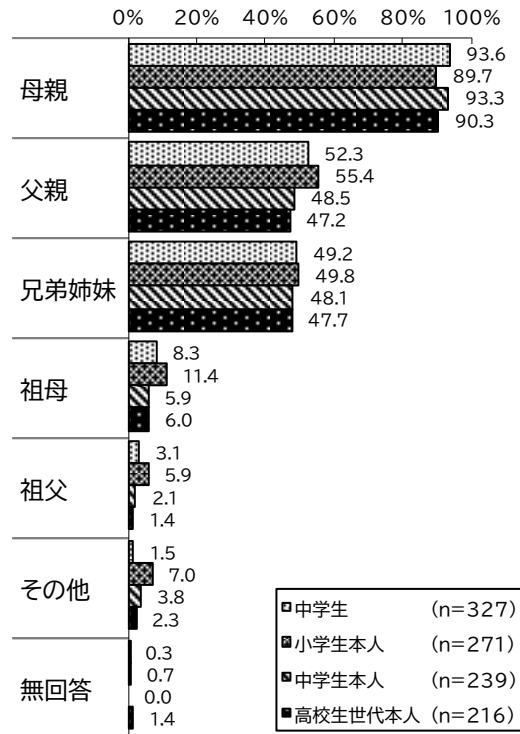
中学生の保護者では、「よく話をする」70.2%、「必要なこと以外もときどき話をする」22.7%であり、「話をする」の計が 92.9%となっており、中学生本人の「話をする」の計 94.1%より 1.2 ポイント少なくなっている。



②【家族との会話「よく話をする」「必要なこと以外もときどき話をする」回答者】

(子どもが)会話をする主な家族(複数回答)

家族と会話を「よく話をする」、「必要なこと以外もときどき話をする」と回答した人に会話をする主な家族を尋ねたところ、中学生の保護者、小学生本人、中学生本人及び高校生世代本人ともに「母親」が約90%と最も多く、次いで「父親」と「兄弟姉妹」となっている。



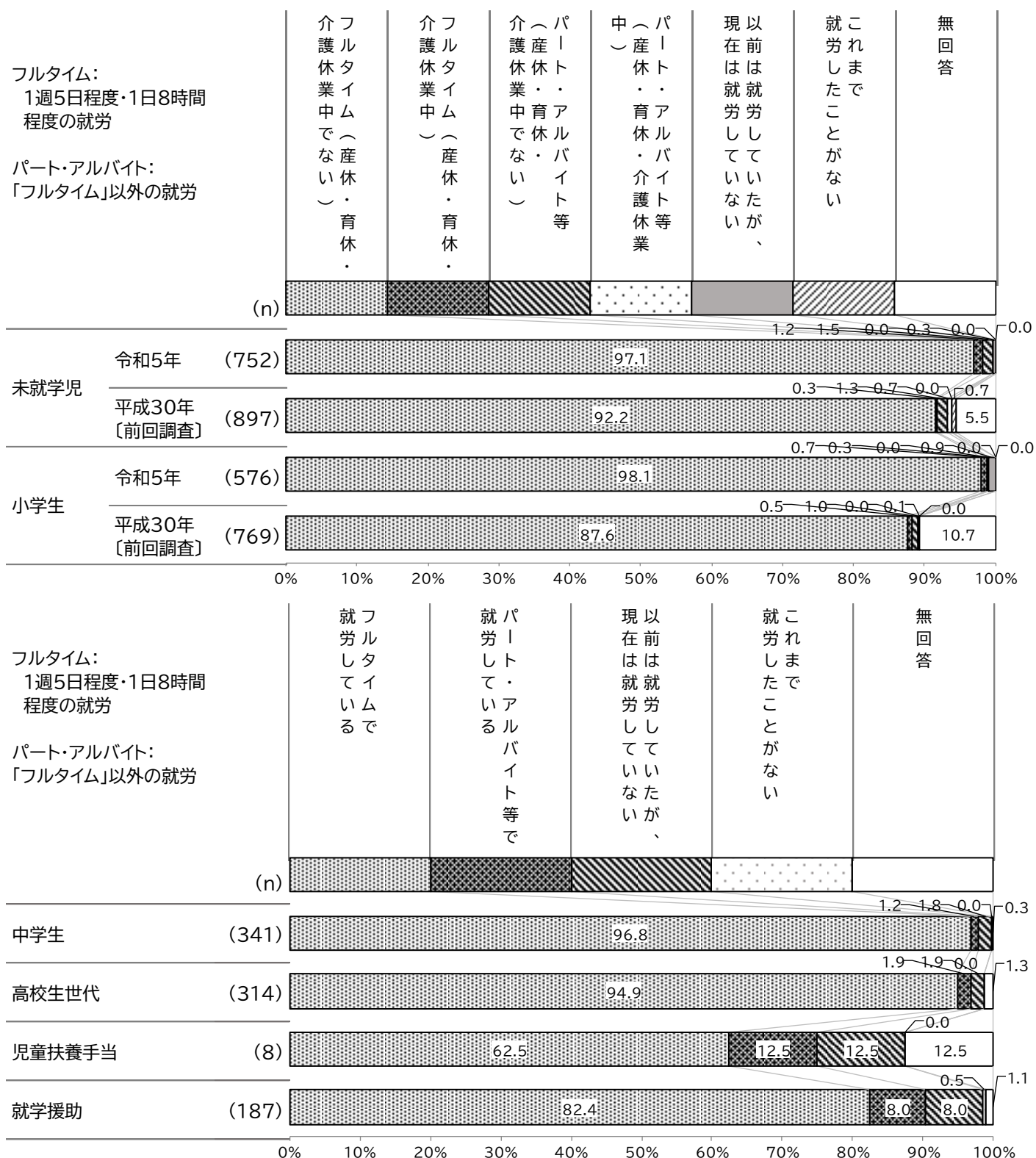
4 保護者の就労状況

(1) 父親の就労状況

未就学児 小学生 中学生 高校生世代 児童扶養手当 就学援助

父親の就労状況については、未就学児の保護者、小学生の保護者ともに「フルタイム(産休・育休・介護休業中でない)」が90%後半となっている。また、中学生の保護者、高校生世代の保護者、児童扶養手当受給保護者、就学援助受給世帯保護者ともに「フルタイムで就労している」が最も多くなっている。

平成30年の調査結果と比較すると、大きな変化は見られないが、未就学児の保護者、小学生の保護者ともに「フルタイム(産休・育休・介護休業中でない)」が増加している。

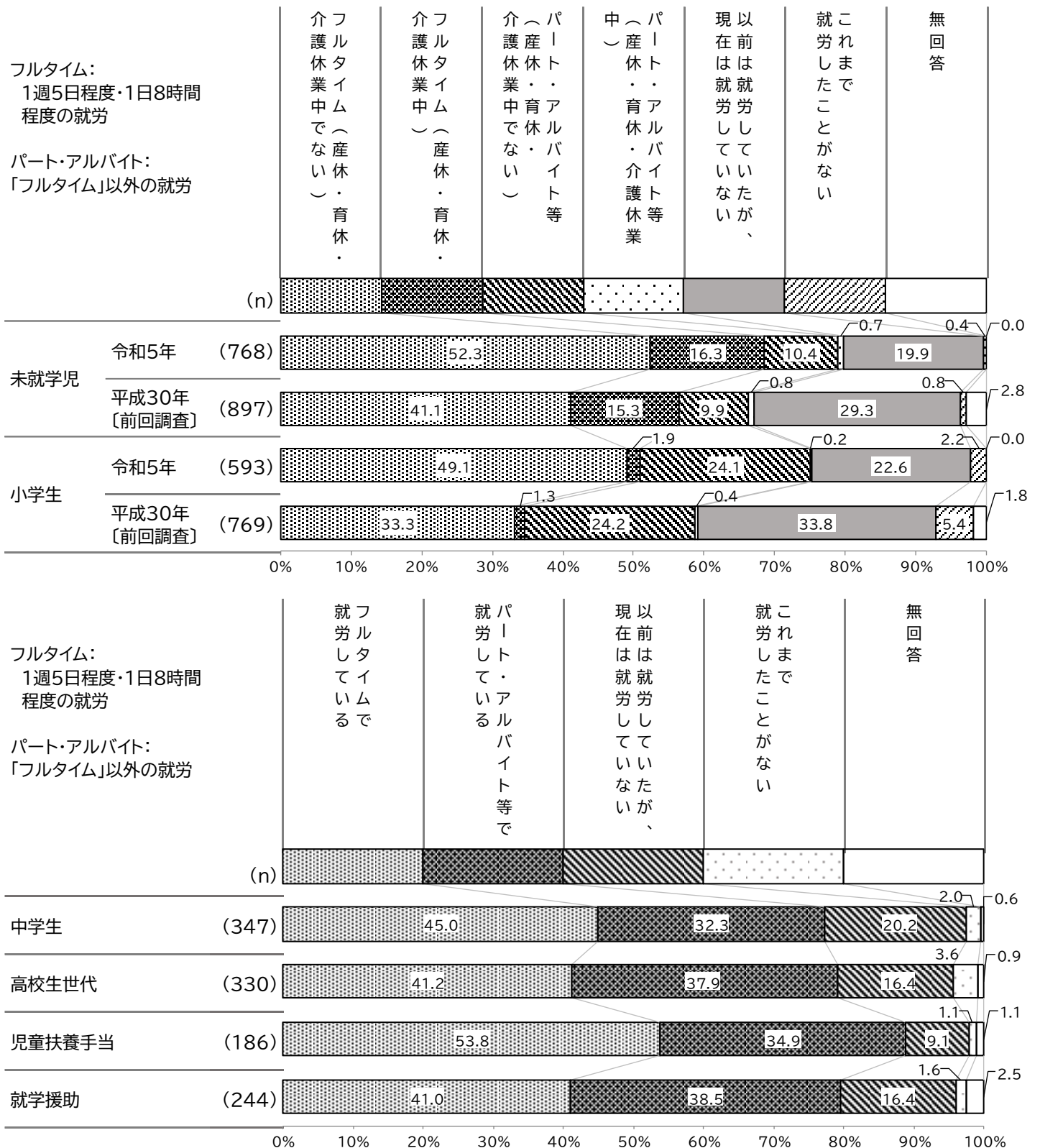


(2) 母親の就労状況

未就学児 小学生 中学生 高校生世代 児童扶養手当 就学援助

母親の就労状況について、未就学児の保護者、小学生の保護者ともに「フルタイム(産休・育休・介護休業中でない)」が約5割となっている。また、中学生の保護者、高校生世代の保護者、児童扶養手当受給保護者、就学援助受給世帯保護者ともに「フルタイムで就労している」が最も多くなっている。

平成30年の調査結果と比較すると、未就学児の保護者、小学生の保護者ともに「フルタイム(産休・育休・介護休業中でない)」が増加している。



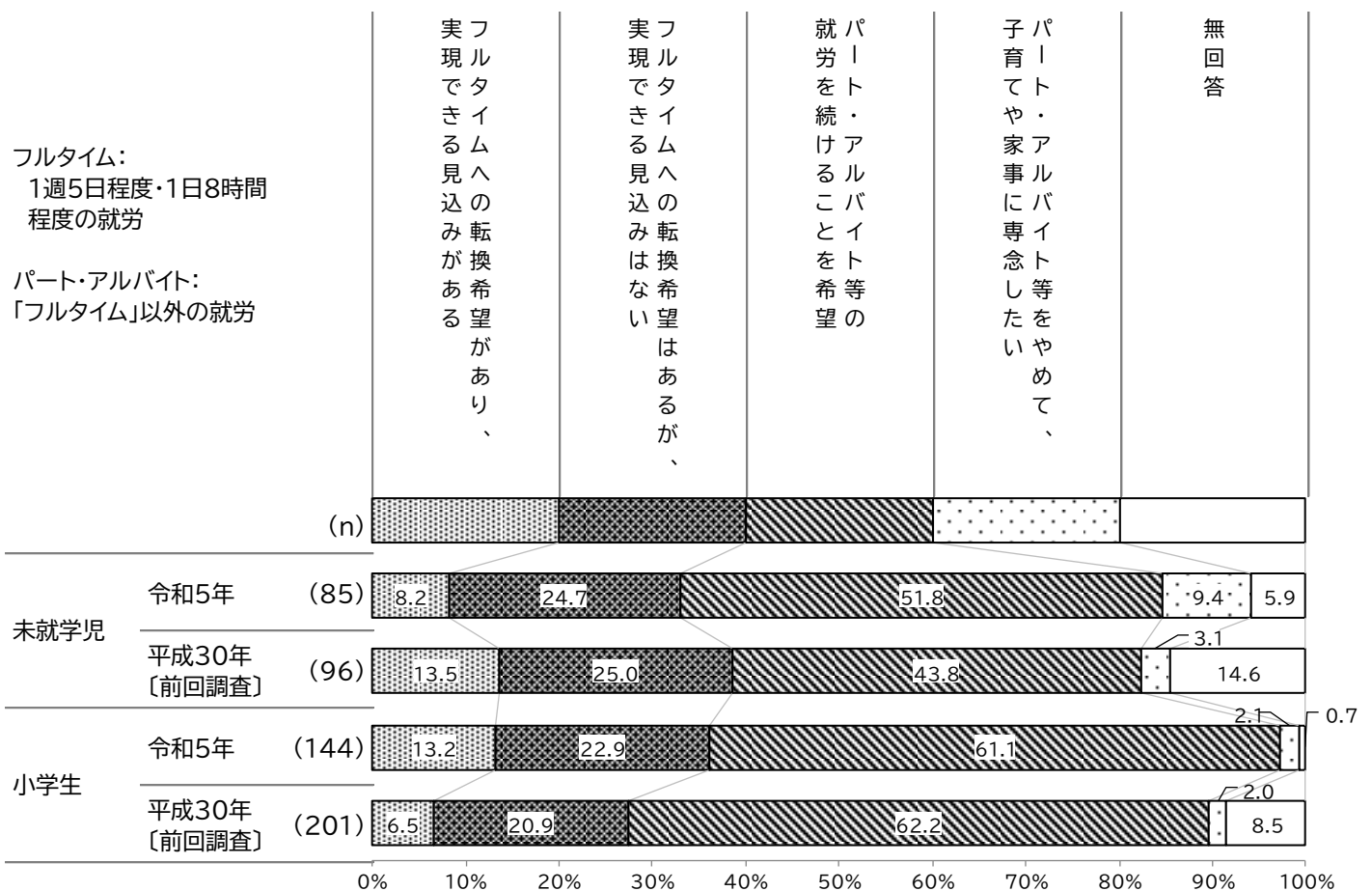
(3)母親－【パート・アルバイト就労者】フルタイムへの転換希望

未就学児 小学生

パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換希望について、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」は、未就学児の保護者が 8.2%、小学生の保護者が 13.2%と、小学生の保護者の方が多くなっている。

また、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」は未就学児の保護者が 24.7%、小学生の保護者が 22.9%となっている。

平成 30 年の調査結果と比較すると、未就学児の保護者では「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が 5.3 ポイント減少、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が 0.3 ポイント減少、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」は 8.0 ポイント増加しており、未就学児の保護者におけるパート・アルバイト等の就労を希望する母親が増加している様子が見えてくる。一方、小学生の保護者では「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が 6.7 ポイント増加、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が 2.0 ポイント増加、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」は 1.1 ポイント減少しており、小学生の保護者におけるフルタイムへの就労を希望する母親が増加している様子が見えてくる。

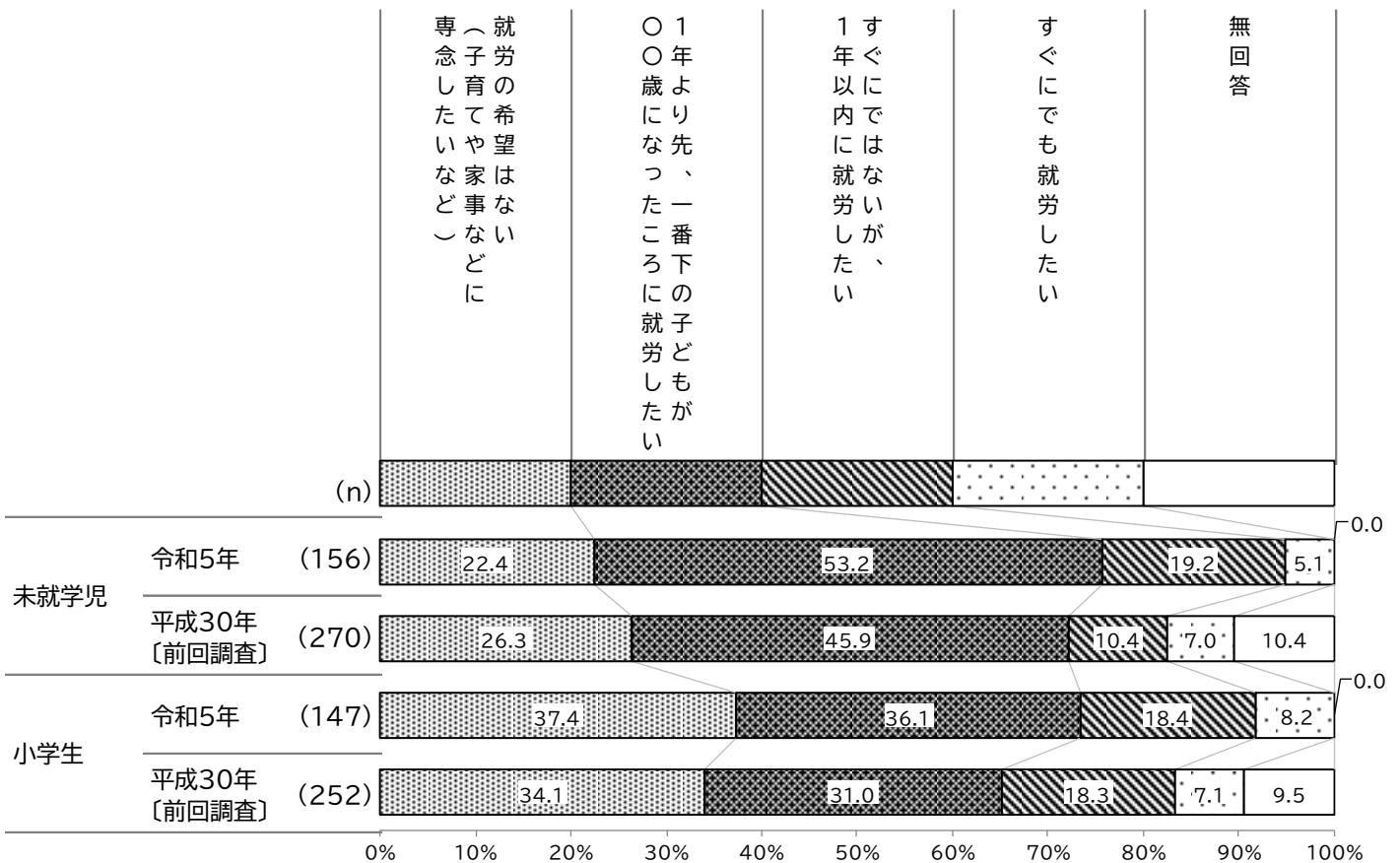


(4)母親－【就労していない人】就労希望

未就学児 小学生

現在就労していない、またはこれまで就労したことのない母親の就労希望については、「就労の希望はない(子育てや家事などに専念したいなど)」が未就学児の保護者が 22.4%、小学生の保護者が37.4%となっている。また、1年より先に就労の希望がある割合は未就学児の保護者が53.2%、小学生の保護者が 36.1%となっている一方、「すぐにでも就労したい」または「すぐにではないが、1年以内に就労したい」の割合は未就学児の保護者、小学生の保護者ともに2割台半ばとなっている。

平成30年の調査結果と比較すると、「就労の希望はない」は未就学児の保護者で3.9ポイント減少した一方、小学生の保護者で3.3ポイント増加しており、未就学児の保護者における就労を希望する母親が増加している様子がうかがえる。



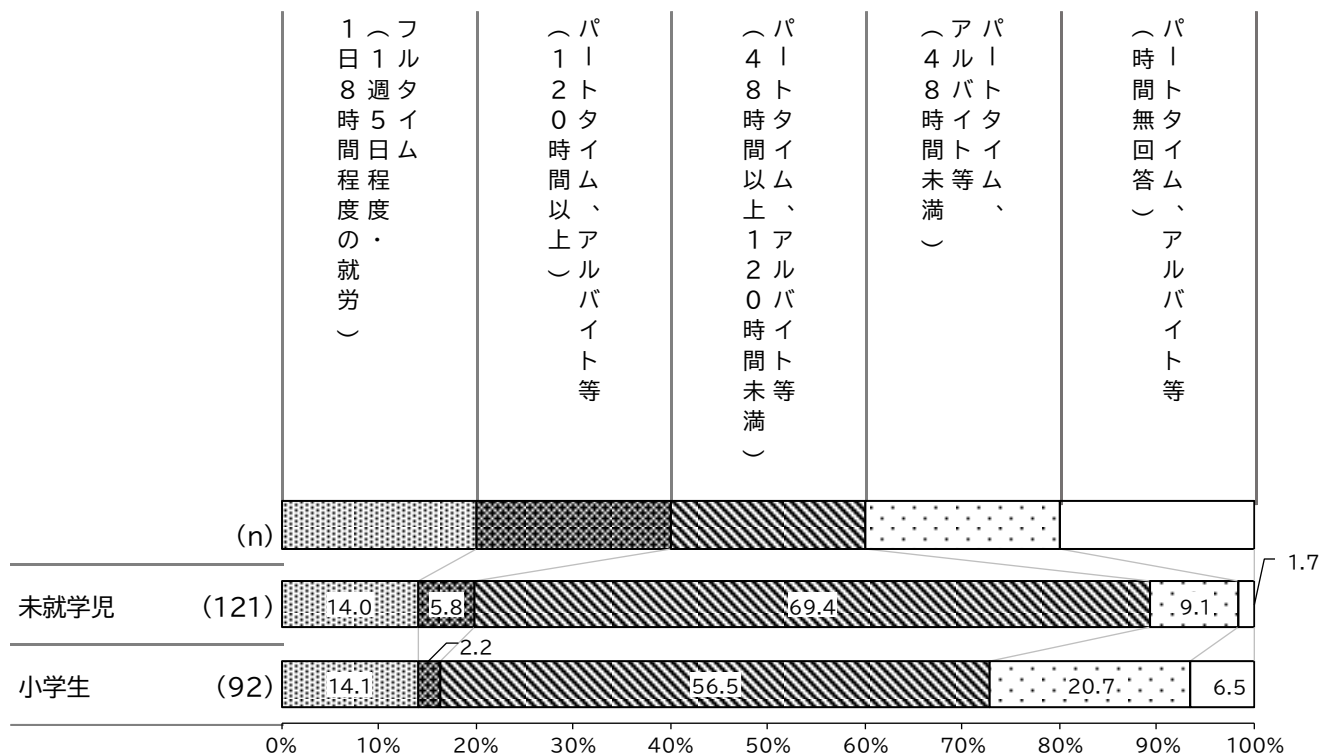
(5)母親－【就労希望者】希望する就労形態

未就学児 小学生

現在就労しておらず、かつ就労希望のある母親の希望する就労形態は、未就学児の保護者、小学生の保護者ともに「パートタイム、アルバイト等(フルタイム以外)」の割合が多く、それぞれ 86.0%、85.9%となっている。

パートタイム、アルバイト等を1か月の就労希望時間で区分すると、「48 時間以上 120 時間未満」の割合が最も多くなっており、未就学児の保護者の 69.4%、小学生の保護者の 56.5%を占めている。

また、「フルタイム」の割合は、未就学児の保護者が14.0%、小学生の保護者が14.1%となっている。



5 教育・保育事業について

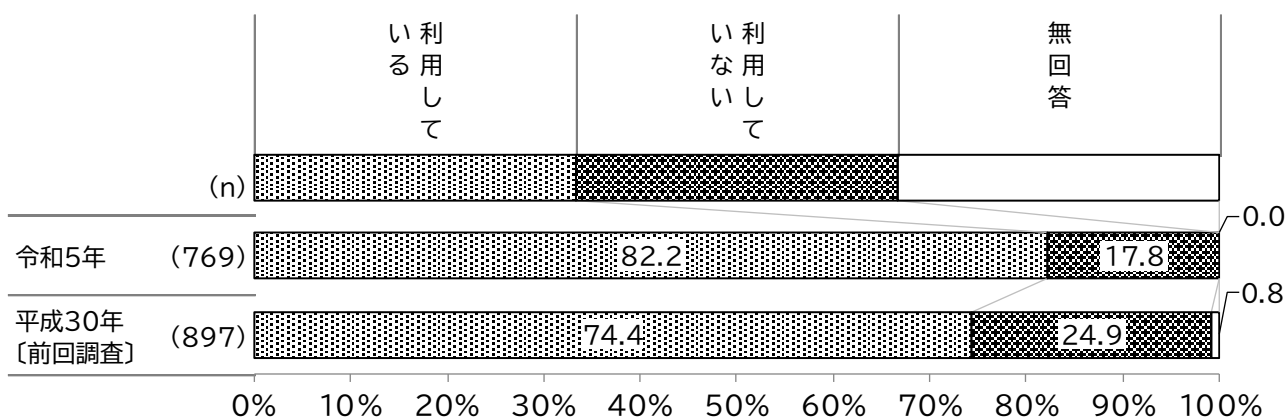
(1)定期的な教育・保育事業の利用状況

未就学児

①利用の有無

未就学児の定期的な教育・保育事業の利用状況については、「利用している」が 82.2%、「利用していない」が 17.8%となっている。

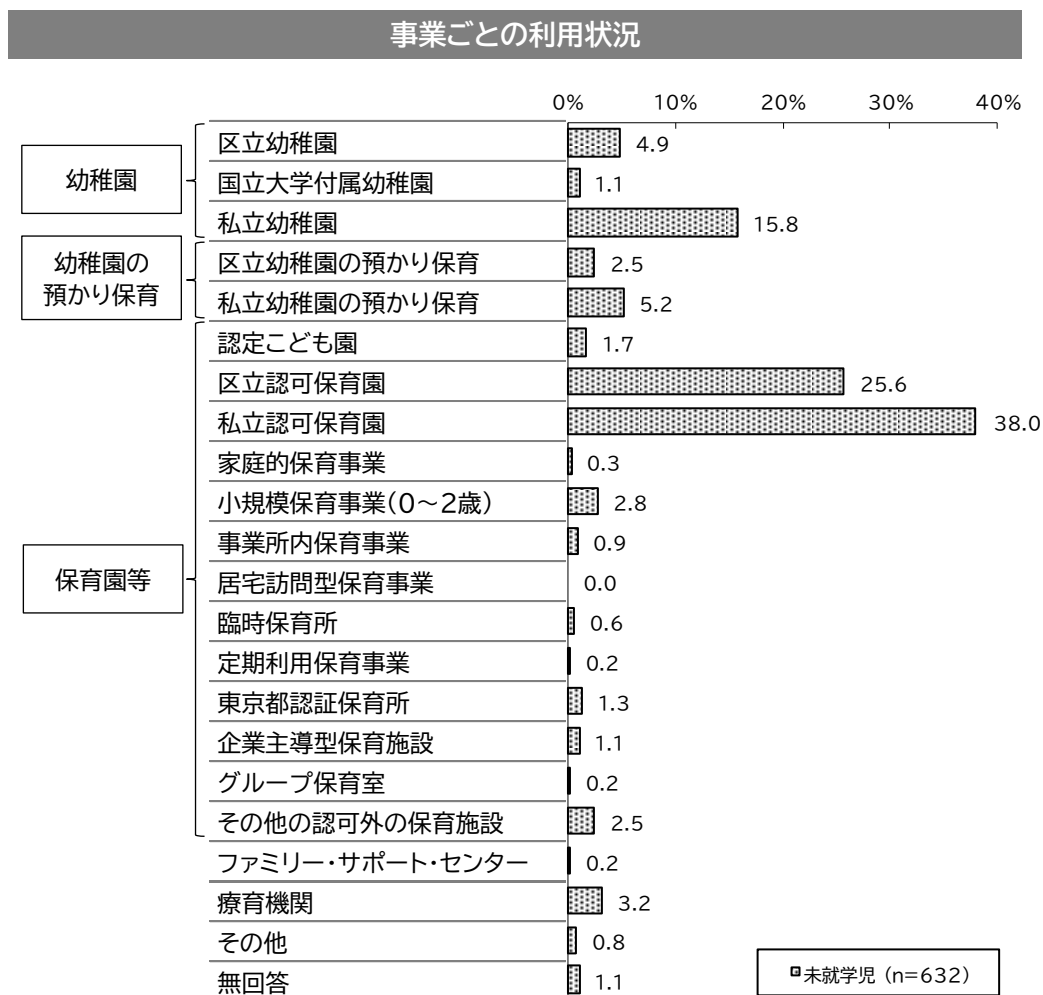
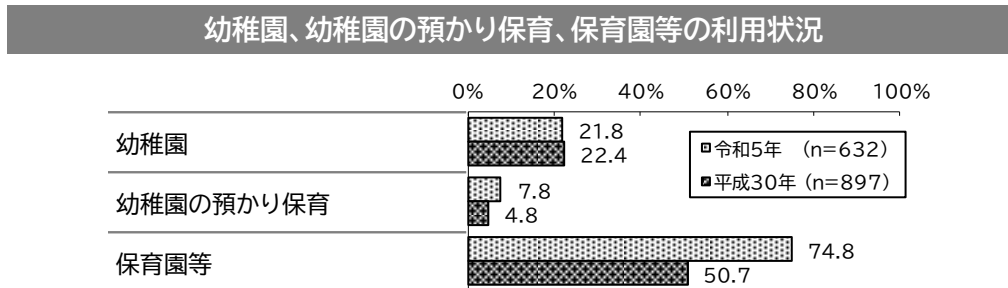
平成 30 年の調査結果と比較すると、「利用している」は 7.8 ポイント増加しており、定期的な教育・保育の環境が向上している状況がうかがえる。



②定期的に利用している教育・保育事業(複数回答)

定期的に利用している教育・保育事業については、幼稚園が 21.8%、幼稚園の預かり保育が 7.8%、保育園等が 74.8%となっている。平成 30 年の調査結果と比較すると、保育園等は 24.1 ポイント大幅に増加している。

事業ごとの利用状況をみると、「私立認可保育園」が 38.0%で最も多く、次いで「区立認可保育園」が 25.6%、「私立幼稚園」が 15.8%となっている。

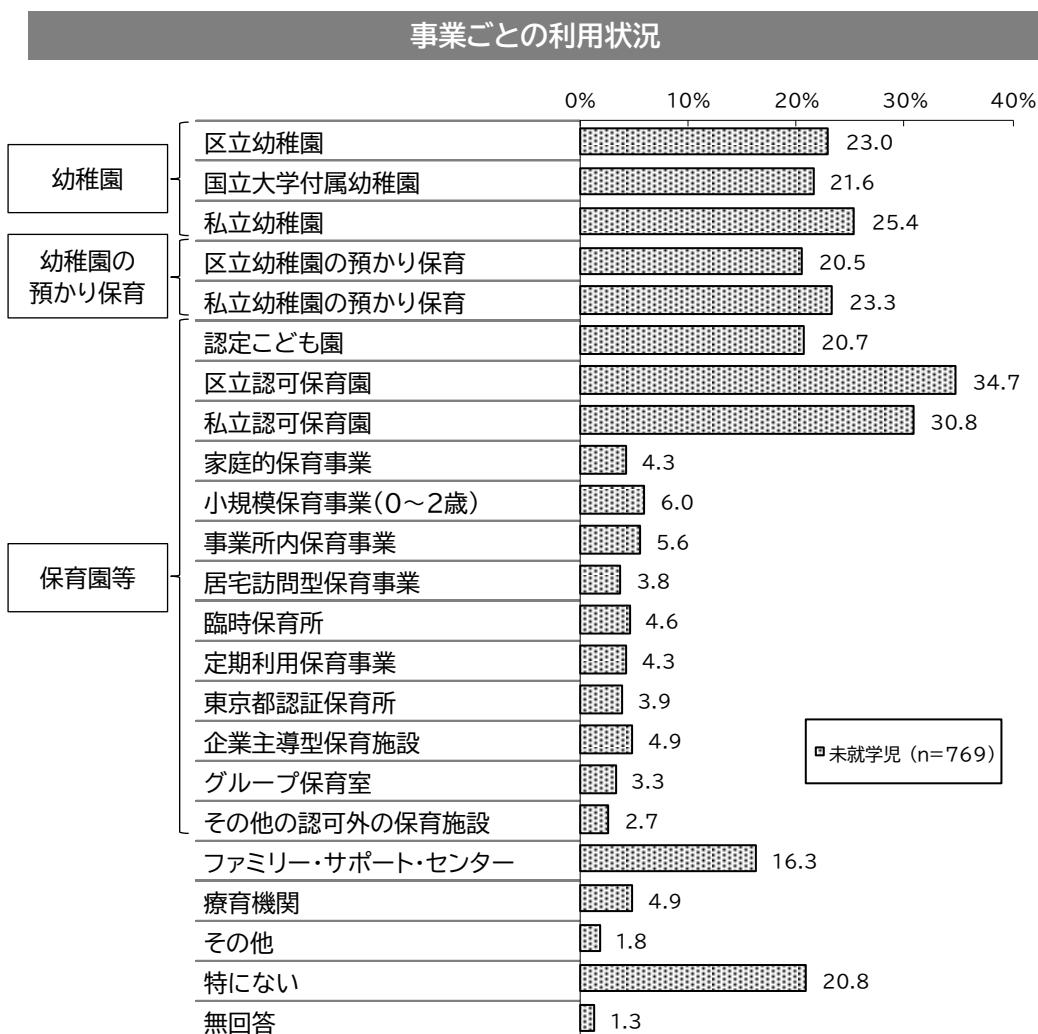
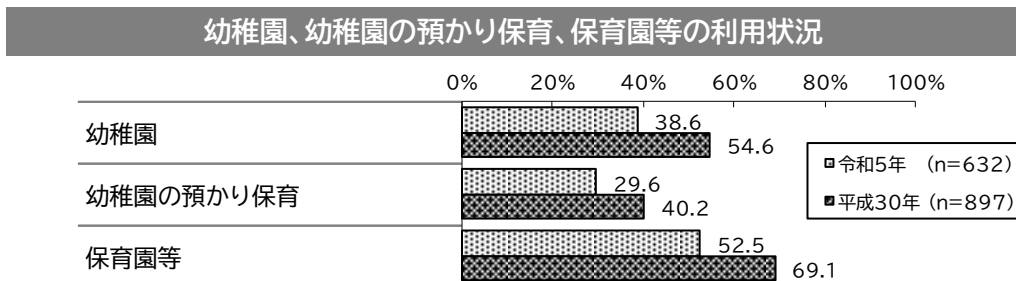


(2) 今後利用したい定期的な教育・保育事業(複数回答)

未就学児

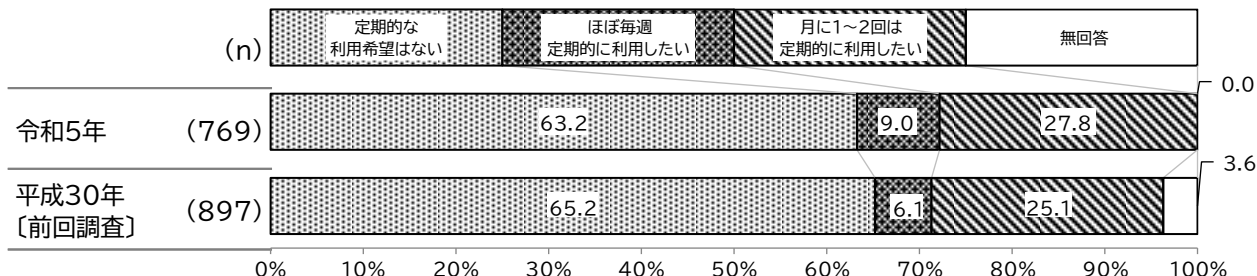
利用したい定期的な教育・保育事業については、幼稚園で 38.6%、幼稚園の預かり保育で 29.6%、保育園等で 52.5%となっている。平成 30 年の調査結果と比較すると、幼稚園は 16.0 ポイント、幼稚園の預かり保育は 10.6 ポイント、保育園等は 16.6 ポイント減少している。

事業ごとの利用希望をみると、「区立認可保育園」が 34.7%で最も多く、「私立認可保育園」が 30.8%で次いでいる。



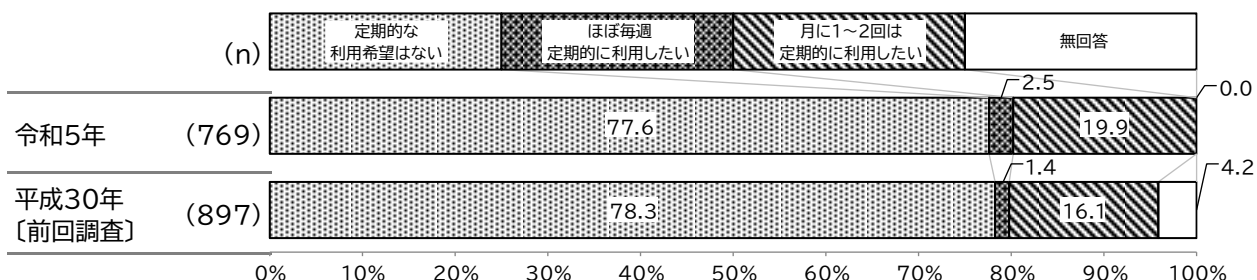
①土曜日の利用希望

土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望については、「定期的な利用希望はない」が 63.2%である一方、「ほぼ毎週定期的に利用したい」が 9.0%、「月に1～2回は定期的に利用したい」が 27.8%と、利用希望の計は 36.8%となっており、平成 30 年の調査結果と比較すると、5.6 ポイント増加している。



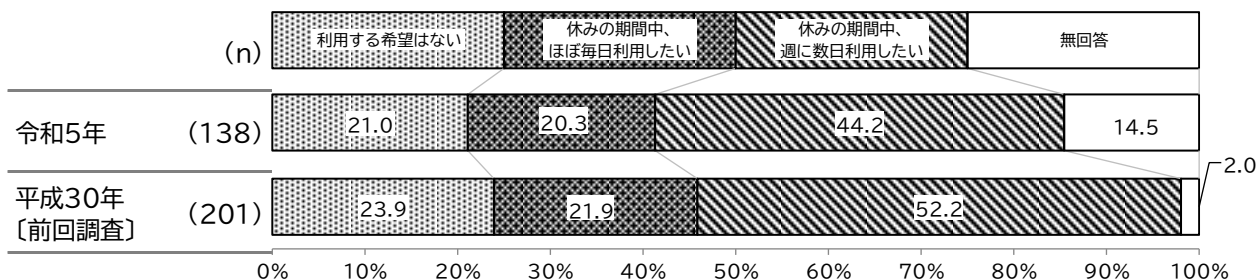
②日曜日・祝日の利用希望

日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望については、「定期的な利用希望はない」が 77.6%である一方、「ほぼ毎週定期的に利用したい」が 2.5%、「月に1～2回は定期的に利用したい」が 19.9%と、利用希望の計は 22.4%となっており、平成 30 年の調査結果と比較すると、4.9 ポイント増加している。また、前述の土曜日と比べて、利用を希望する割合は少なくなっている。



③【幼稚園利用者】幼稚園の長期休暇期間中の利用希望

幼稚園利用者の夏休み・冬休みなどの長期休暇中の定期的な利用希望については、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が 20.3%、「休みの期間中、週に数日利用したい」が 44.2%と、利用希望の計は 64.5%となっており、平成 30 年の調査結果と比較すると、9.6 ポイント減少している。



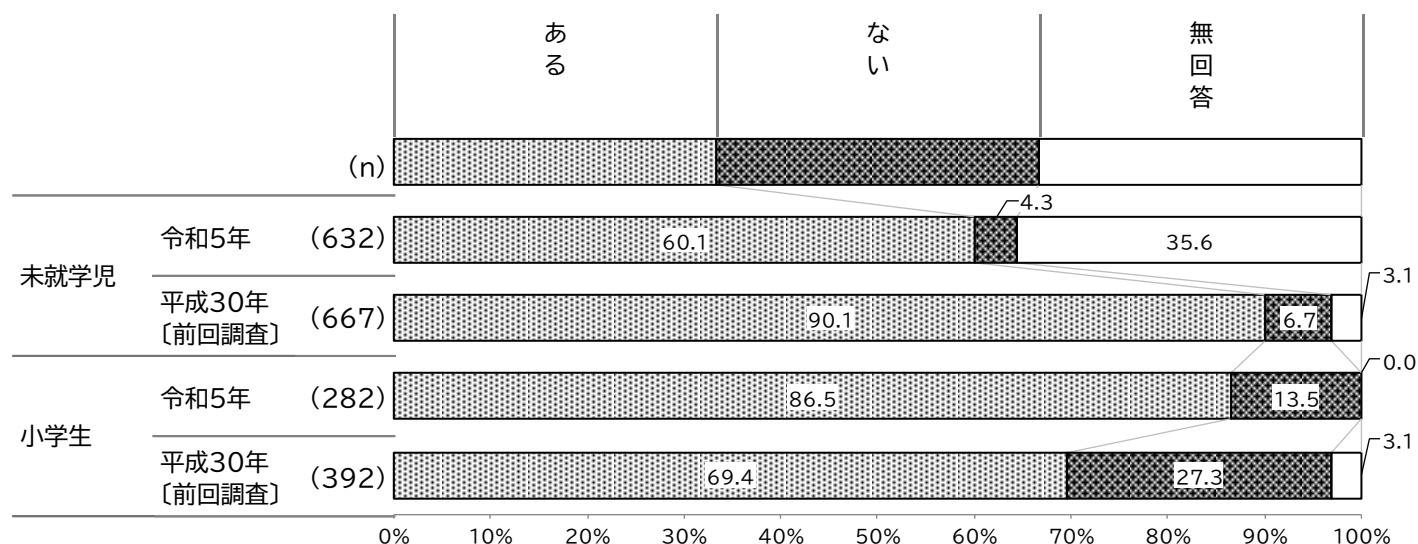
6 病児・病後児保育について

(1)この1年間に子どもの病気やケガで保育園や学校を休んだ経験

未就学児 小学生

定期的な教育・保育事業を利用している未就学児の保護者及び小学生低学年(1年生～3年生)の保護者に、この1年間に子どもが病気やケガ等で保育園や学校を休んだことがあったかを尋ねたところ、「ある」と回答した人は未就学児の保護者で 60.1%、小学生低学年の保護者で 86.5%となっている。

平成 30 年の調査結果と比較すると、保育園を休んだことが「ある」の割合は未就学児で 30.0 ポイント減少、学校を休んだことが「ある」の割合は小学生で 17.1 ポイント増加している。



(2)【保育園や学校を休んだ経験がある人】

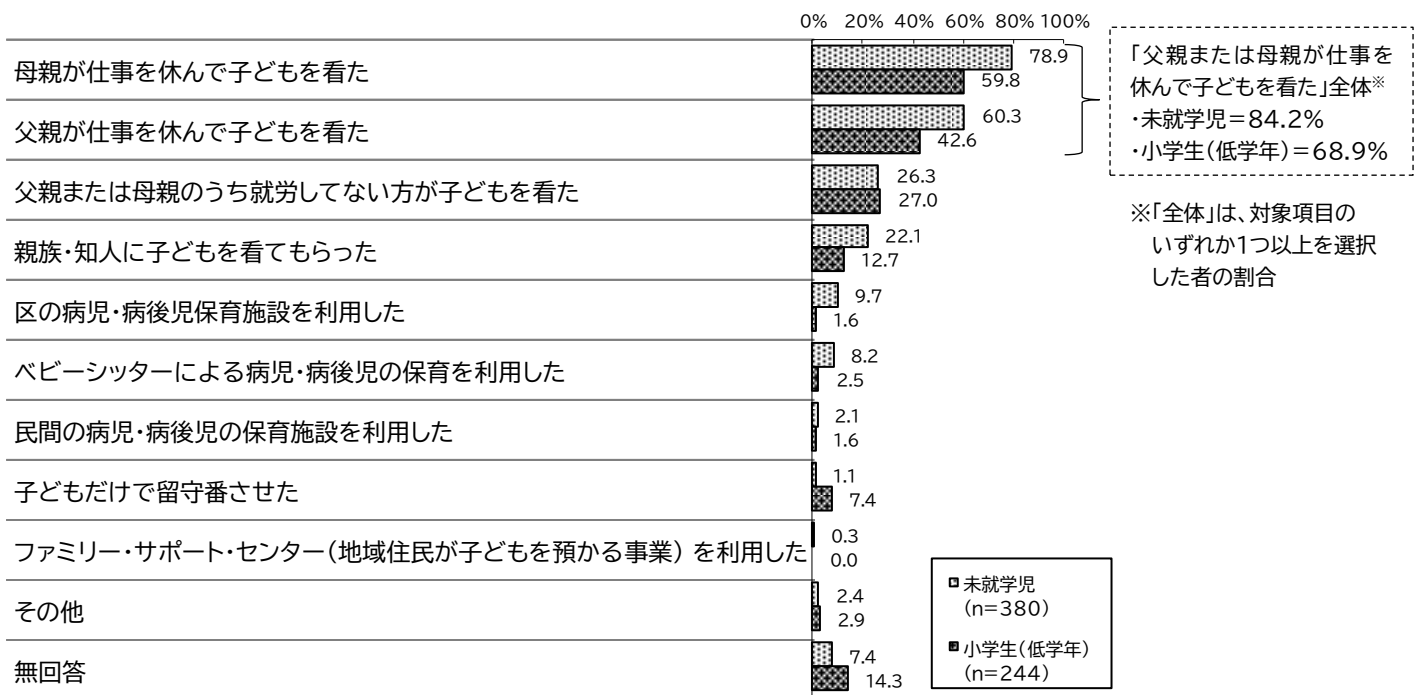
未就学児 小学生

子どもの病気やケガ等の際の対処方法(複数回答)

この1年間に子どもの病気やケガ等で保育サービスを利用できなかったり、学校を休んだ際の対処方法については、未就学児の保護者、小学生低学年の保護者は「母親が仕事を休んで子どもを見た」がそれぞれ 78.9%、59.8%と最も多く、次いで「父親が仕事を休んで子どもを見た」がそれぞれ 60.3%、42.6%、「父親または母親のうち就労していない方が子どもを見た」がそれぞれ 26.3%、27.0%で続いている。

「父親または母親が仕事を休んで子どもを見た」全体では、未就学児の保護者が 84.2%、小学生低学年の保護者が 68.9%と、未就学児の保護者の方が多くなっている。

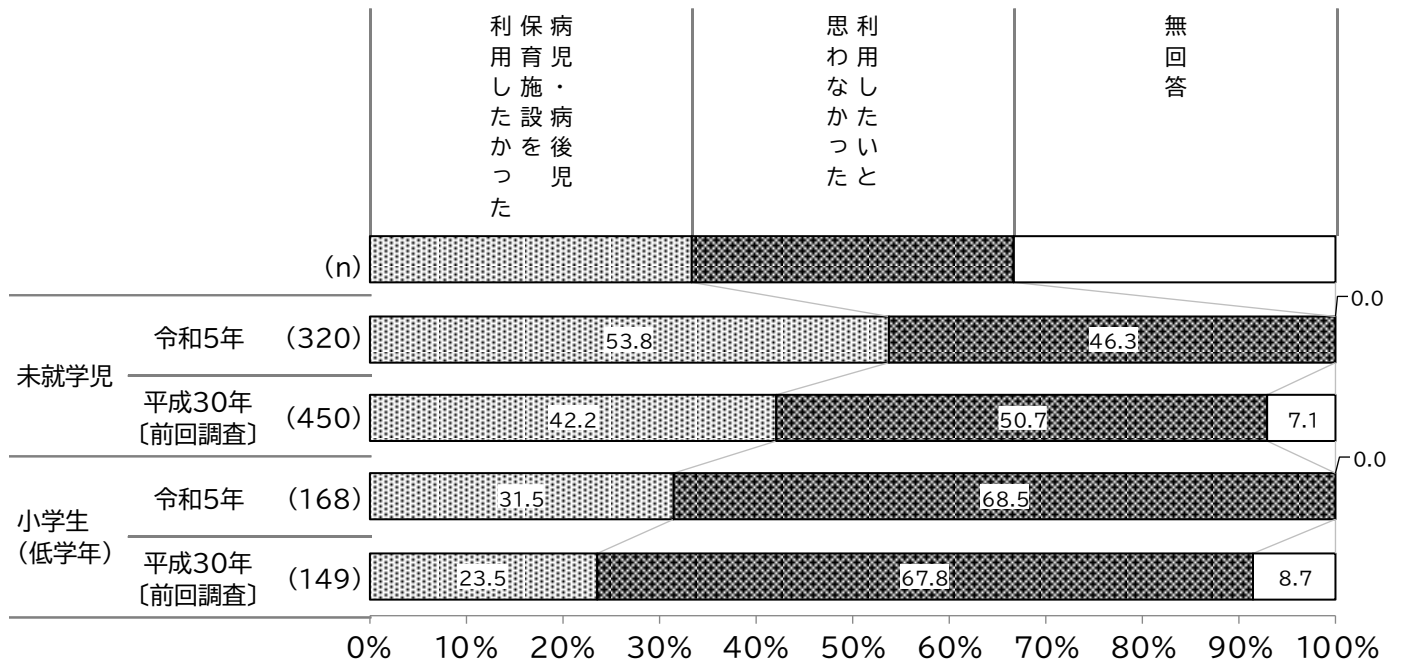
また、「区の病児・病後児保育施設を利用した」は未就学児の保護者が 9.7%、小学生低学年の保護者が 1.6%となっている。



(3)【父親または母親が仕事を休んで子どもを見た人】病児・病後児保育施設の利用希望

父親または母親が「仕事を休んで子どもを見た」と回答した人の病児・病後児保育施設の利用希望の割合は、未就学児の保護者は53.8%、小学生低学年の保護者は31.5%となっている。

平成30年の調査結果と比較すると、病児・病後児保育施設の利用希望の割合はともに増加しており、未就学児の保護者で11.6ポイント、小学生低学年の保護者で8.0ポイント増加している。



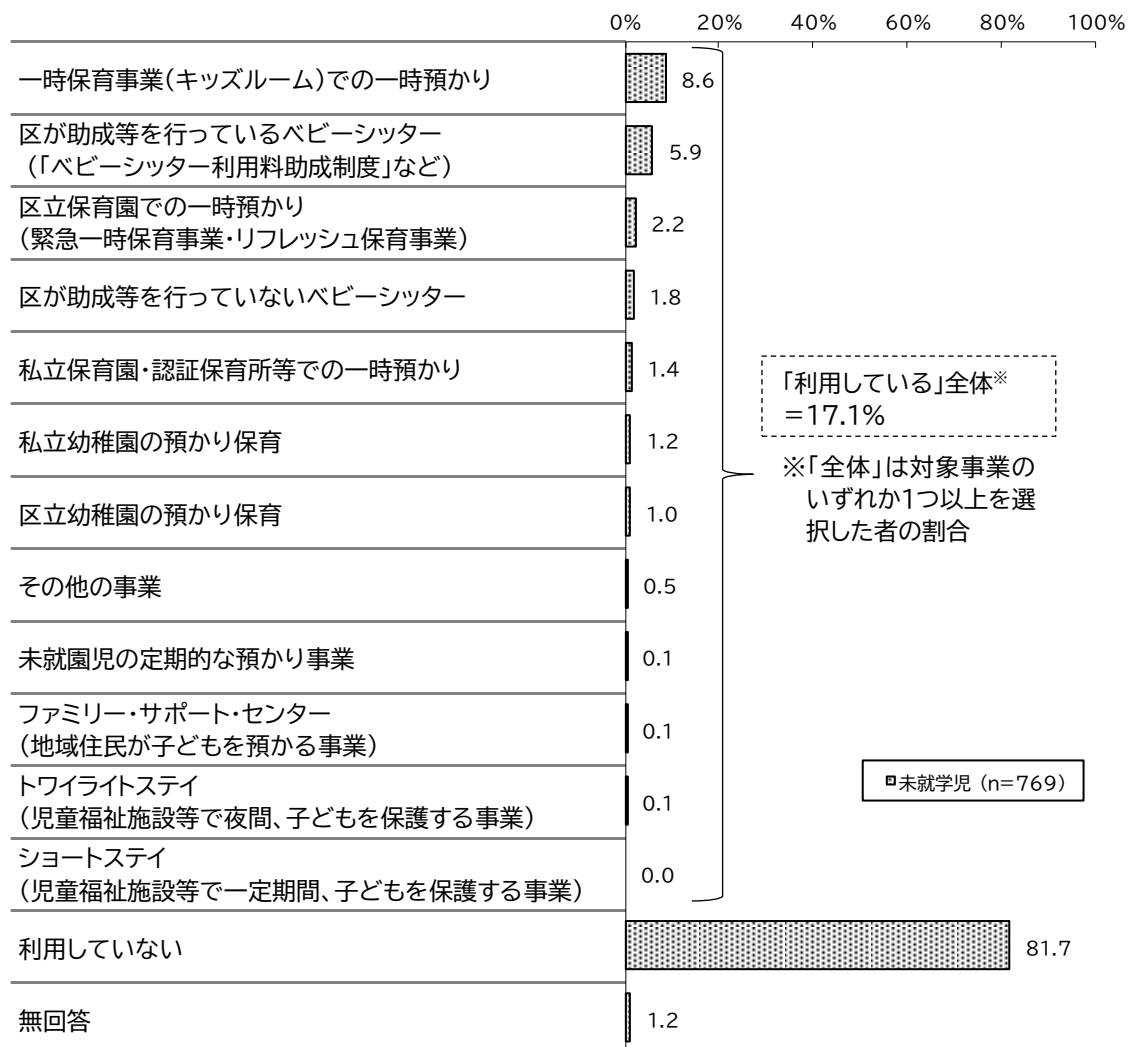
7 一時預かり事業について

(1)利用している一時預かり事業(複数回答)

未就学児

この1年間の一時預かり事業(日中の定期的な保育や病気のため以外の私用、親の通院、不定期の就労等の目的での不定期利用)の利用状況について、未就学児の保護者に尋ねたところ、17.1%が何らかの事業を利用している。

事業別でみると、「一時保育事業(キッズルーム)での一時預かり」が 8.6%と最も多く、次いで「区が助成等を行っているベビーシッター(「ベビーシッター利用料助成制度」など)」が5.9%、「区立保育園での一時預かり(緊急一時保育事業・リフレッシュ保育事業)」が 2.2%となっている。

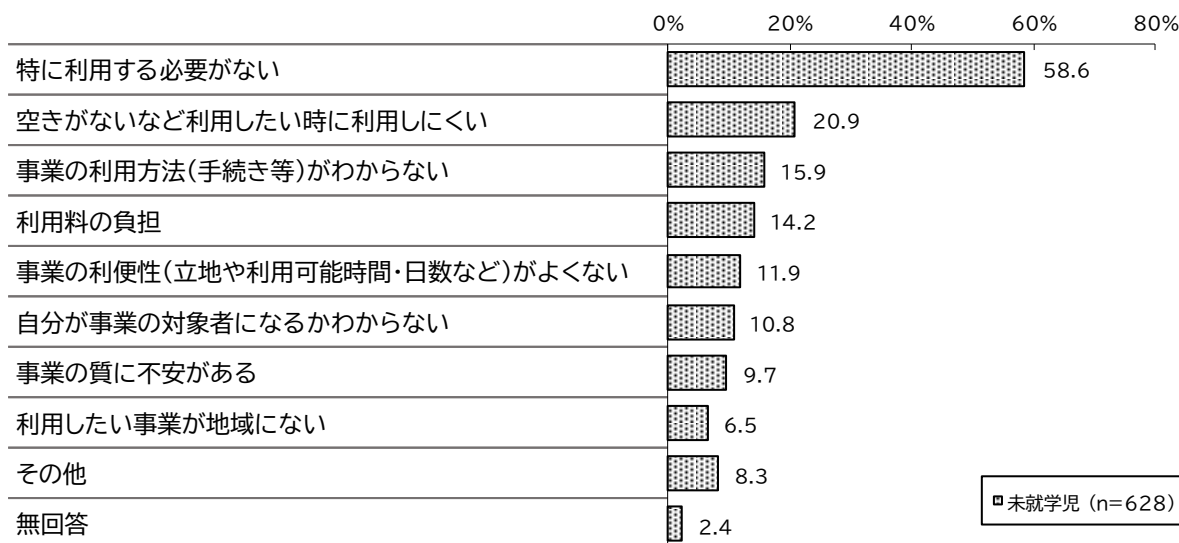


(2)【一時預かり事業を利用していない人】

一時預かり事業を利用していない理由(複数回答)

未就学児

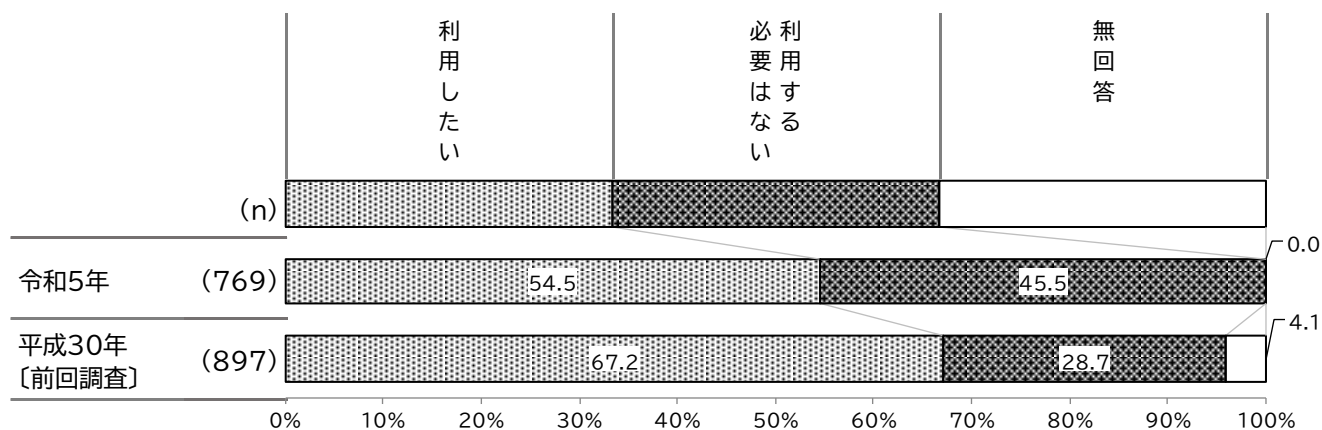
一時預かり事業を利用していない未就学児の保護者にその理由を尋ねたところ、「特に利用する必要がない」が 58.6%と最も多くなっている。次いで「空きがないなど利用したい時に利用しにくい」が 20.9%、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」が 15.9%となっている。



(3)一時預かり事業の利用希望

未就学児

今後1年間の一時預かり事業の利用希望については、未就学児の保護者のうち 54.5%が「利用したい」、45.5%が「利用する必要はない」と回答しており、平成 30 年の調査結果と比較すると、「利用したい」が 12.7 ポイント減少している。



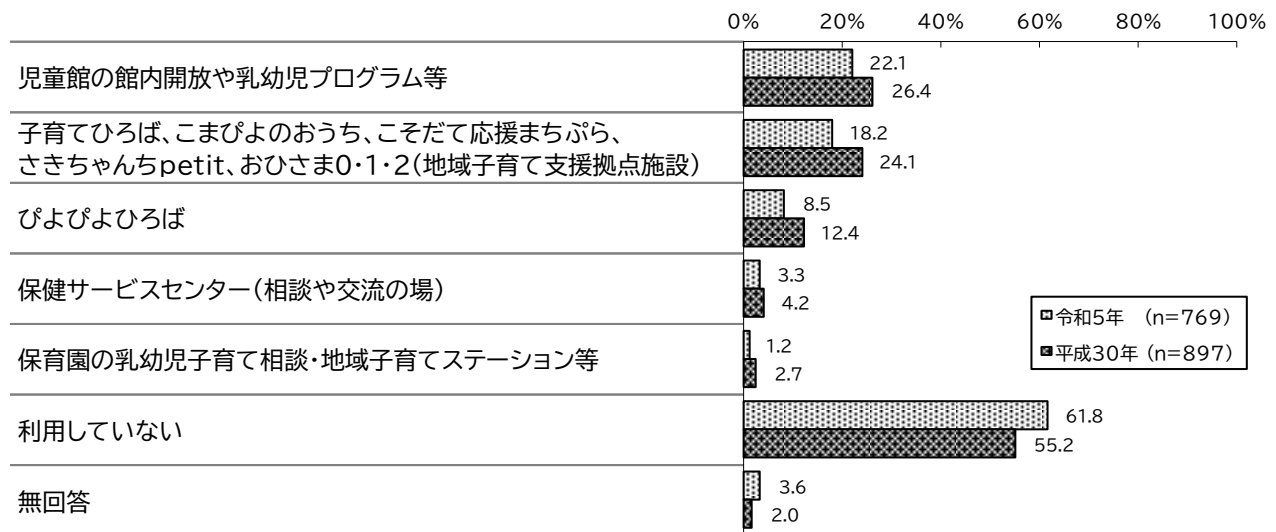
8 地域子育て支援拠点事業について

(1)利用している地域子育て支援拠点事業等(複数回答)

未就学児

地域子育て支援拠点施設・類似施設の利用状況については、未就学児の保護者の6割以上が「利用していない」と回答しており、「利用している」と回答した約4割の利用状況としては「児童館の館内開放や乳幼児プログラム等」が 22.1%と最も多く、次いで「子育てひろば、こまびよのおうち、こそだて応援まちづら、さきちゃんち petit、おひさま 0・1・2(地域子育て支援拠点施設)」18.2%、「ぴよぴよひろば」8.5%となっている。

平成 30 年の調査結果と比較すると、「児童館の館内開放や乳幼児プログラム等」は 4.3 ポイント、「子育てひろば、こまびよのおうち、こそだて応援まちづら、さきちゃんち petit、おひさま 0・1・2(地域子育て支援拠点施設)」は 5.9 ポイント、「ぴよぴよひろば」は 3.9 ポイント減少している。

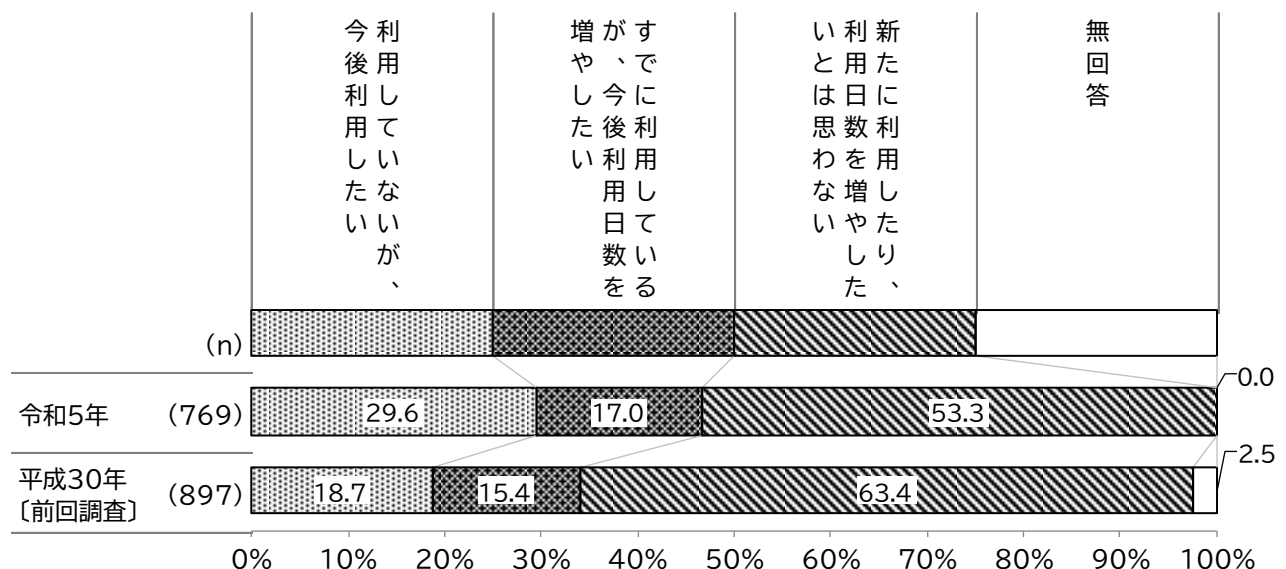


(2)地域子育て支援拠点事業等の利用希望

未就学児

地域子育て支援拠点施設・類似施設の今後の利用希望は、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が 53.3%を占めている。次いで「利用していないが、今後利用したい」の新規の利用希望が 29.6%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」の増加の利用希望が 17.0%となっている。

平成 30 年の調査結果と比較すると、「利用していないが、今後利用したい」は 10.9 ポイント、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」は 1.6 ポイント程度増加している。



9 放課後の過ごし方について

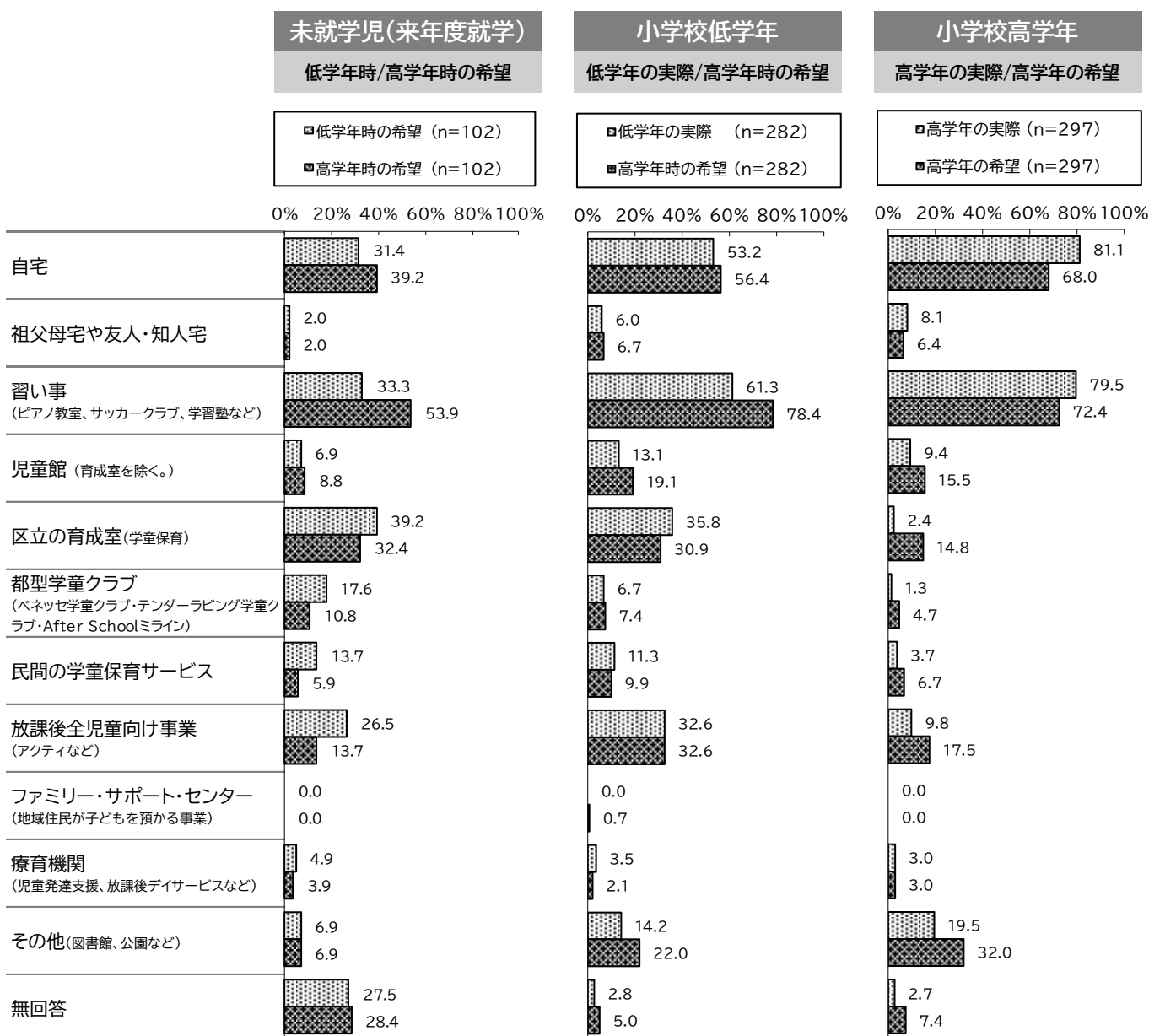
(1) 小学校の放課後を過ごさせたい場所・過ごしている場所(複数回答)

未就学児 小学生

小学校の放課後の過ごし方について、未就学児のうち来年度就学する児童の保護者へ将来の希望を尋ねたところ、低学年時は「区立の育成室(学童保育)」が39.2%と最も多く、高学年時では「習い事」が53.9%と最も多くなっている。

小学校低学年の保護者に低学年の実際と高学年時の希望を尋ねたところ、ともに「習い事」が最も多くなっている。次いで低学年の実際では「自宅」が53.2%、「区立の育成室(学童保育)」が35.8%となっており、高学年時の希望では「自宅」が56.4%、「放課後全児童向け事業(アクティなど)」が32.6%となっている。

小学校高学年の保護者においては、実際は「自宅」が81.1%と最も多く、次いで「習い事」が79.5%となっている。希望は「習い事」が72.4%、「自宅」が68.0%となっている。



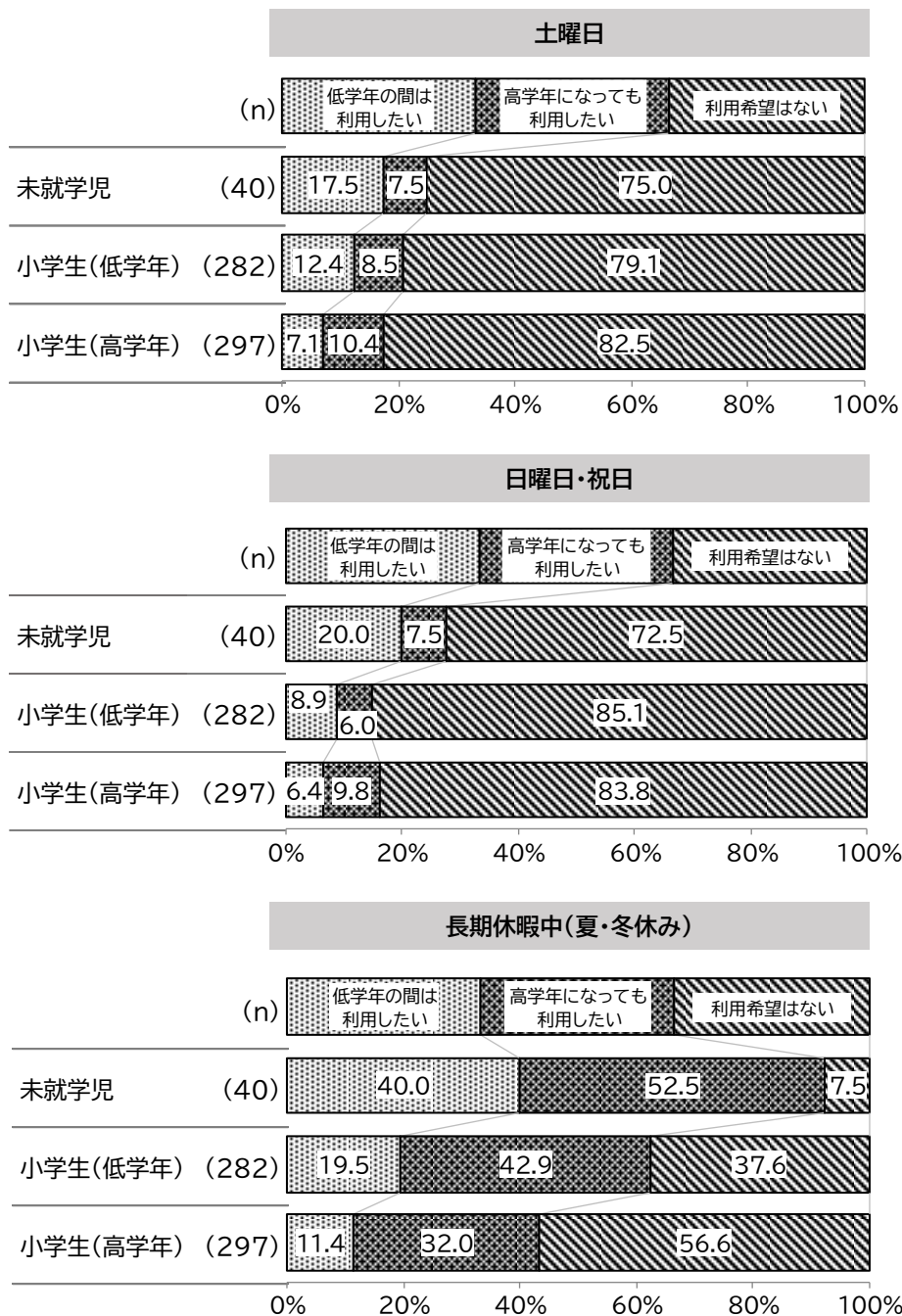
(2) 育成室(学童保育)の平日以外の利用希望

未就学児 小学生

育成室(学童保育)の土曜日の利用希望は未就学児(来年度就学)の保護者では「低学年の間は利用したい」が17.5%、「高学年になっても利用したい」が7.5%となっており、未就学児の保護者の「利用希望」の計は25.0%となっている。また、小学生低学年の保護者の「利用希望」の計は20.9%、小学生高学年の保護者の「利用希望」の計は17.5%となっている。

日曜日・祝日の利用希望は各属性ともに土曜日と比べ少ない傾向にあり、「利用希望」の計は、未就学児の保護者は27.5%、小学生低学年の保護者は14.9%、高学年の保護者は16.2%となっている。

夏・冬休みの長期休暇期間中の利用希望は土曜日と比べて多く、「利用希望」の計は、未就学児の保護者は92.5%、小学生低学年の保護者は62.4%、高学年の保護者は43.4%となっている。



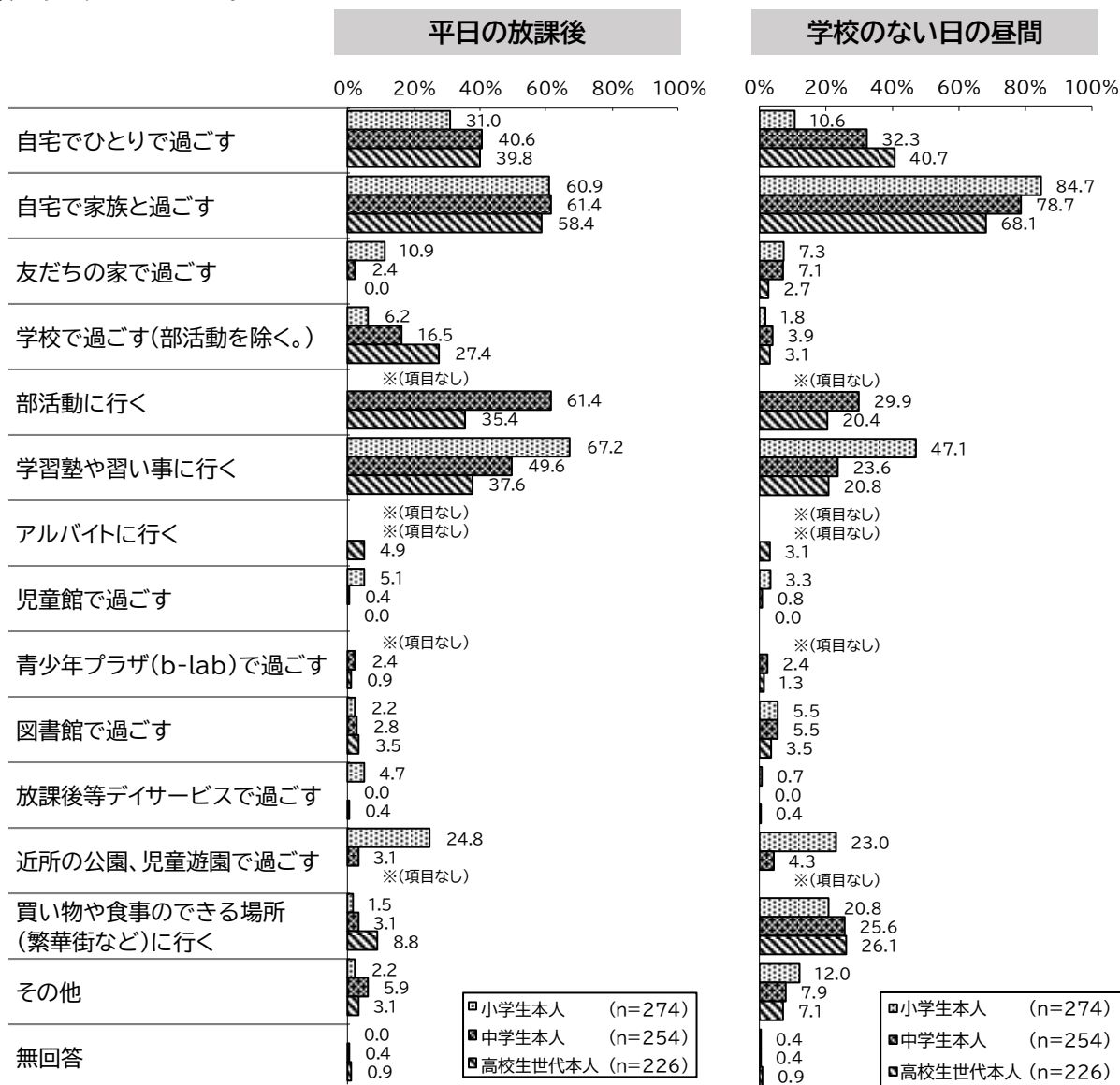
※ここでは、未就学児の保護者に対しては、放課後を過ごさせたい場所で「区立の育成室(学童保育)」と回答した方に対して平日以外の利用希望を質問しているが、小学生の保護者には全員に質問している。

(3) 普段過ごす場所(複数回答)

小学生本人 中学生本人 高校生世代本人

小学生本人、中学生本人及び高校生世代本人に、普段過ごす場所を尋ねたところ、平日の放課後は、小学生本人では「学習塾や習い事に行く」が 67.2%、中学生本人では「自宅で家族と過ごす」と「部活動に行く」が 61.4%、高校生世代本人では「自宅で家族と過ごす」が 58.4%と最も多くなっている。次いで小学生本人では「自宅で家族と過ごす」が 60.9%、中学生本人では「学習塾や習い事に行く」が 49.6%、高校生世代本人では「自宅でひとりで過ごす」が 39.8%となっている。

学校のない日の昼間は、小学生本人、中学生本人及び高校生世代本人ともに「自宅で家族と過ごす」が最も多くなっている。



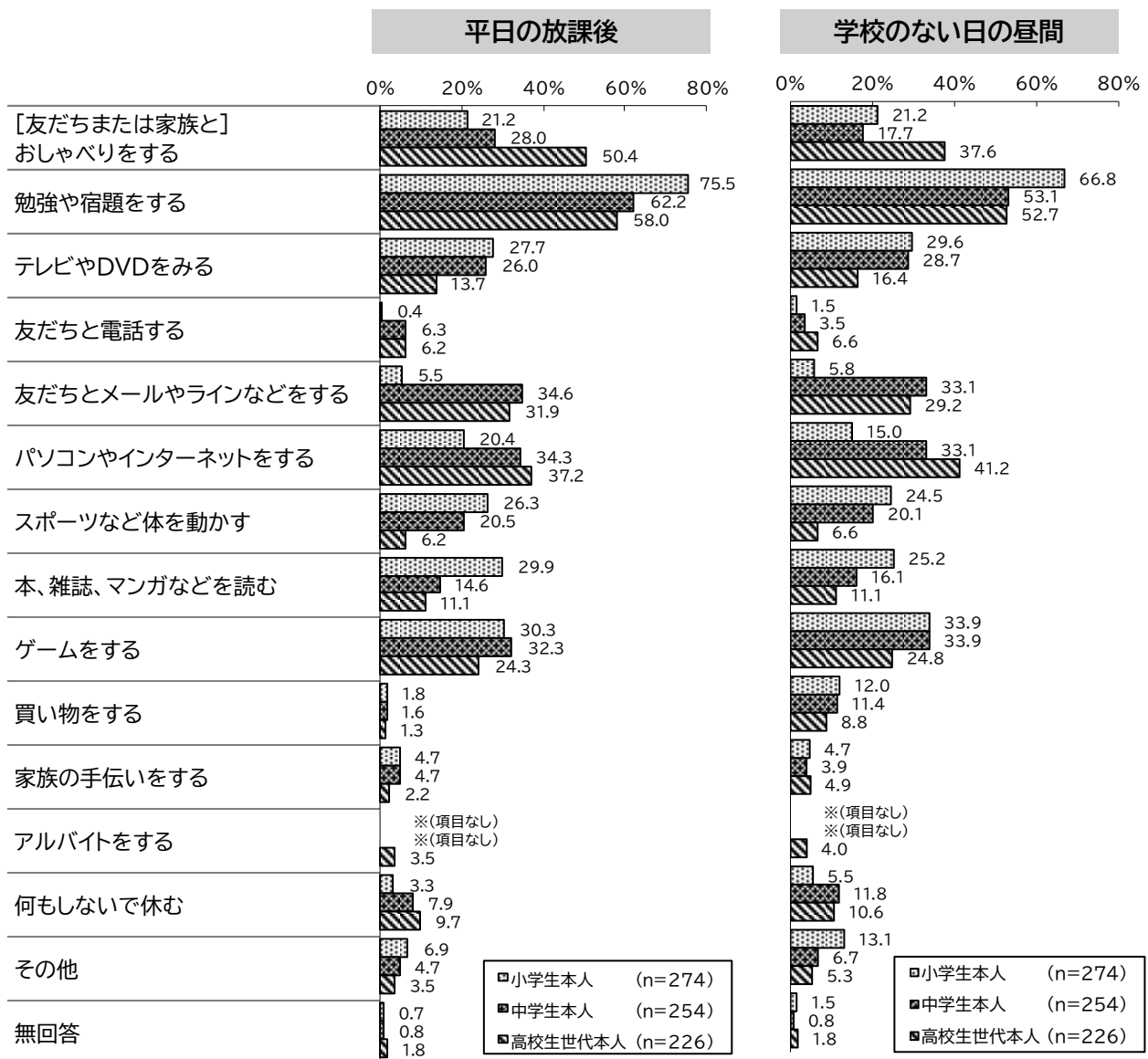
(4) 普段の過ごし方(複数回答)

小学生本人 中学生本人 高校生世代本人

小学生本人、中学生本人及び高校生世代本人に、平日の放課後の過ごし方を尋ねたところ、小学生本人、中学生本人及び高校生世代本人ともに「勉強や宿題をする」が約6割から7割半ばで最も多くなっている。次いで、小学生本人では「ゲームをする」が 30.3%、中学生本人では「友だちとメールやラインなどをする」が 34.6%、高校生世代本人では「[友だちまたは家族と]おしゃべりをする」が 50.4%となっている。

学校のない日の昼間の過ごし方を尋ねたところ、小学生本人、中学生本人及び高校生世代本人ともに「勉強や宿題をする」が約5割から6割後半で最も多くなっている。次いで、小学生本人及び中学生本人では「ゲームをする」が 33.9%、高校生世代本人では「パソコンやインターネットをする」が 41.2%となっている。

小学生本人、中学生本人及び高校生世代本人で比較すると、「パソコンやインターネットをする」は年齢が高くなるほど多くなっている一方、「スポーツなど体を動かす」は年齢が高くなるほど低くなっており、体を動かす機会が減少する傾向がみられる。



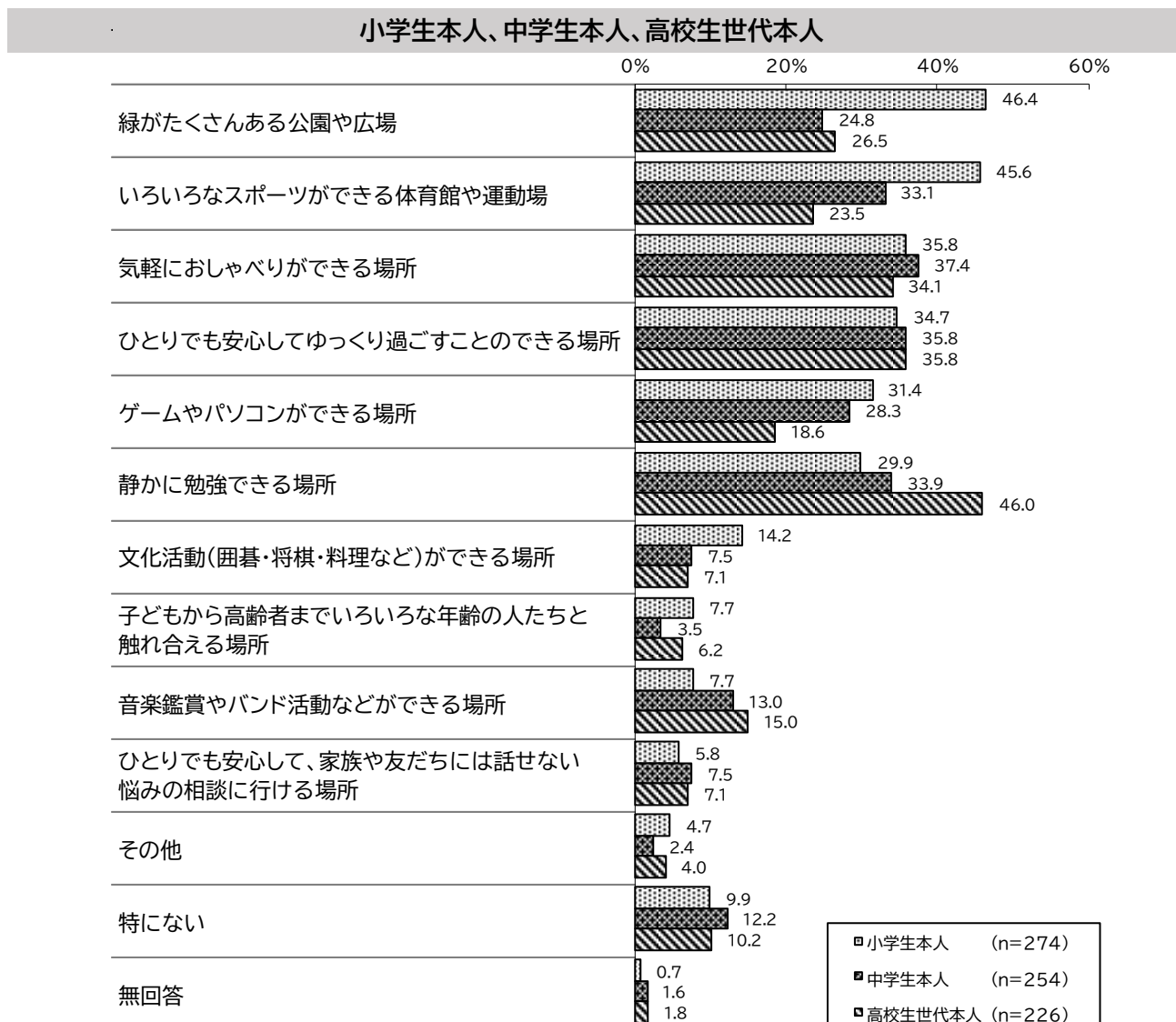
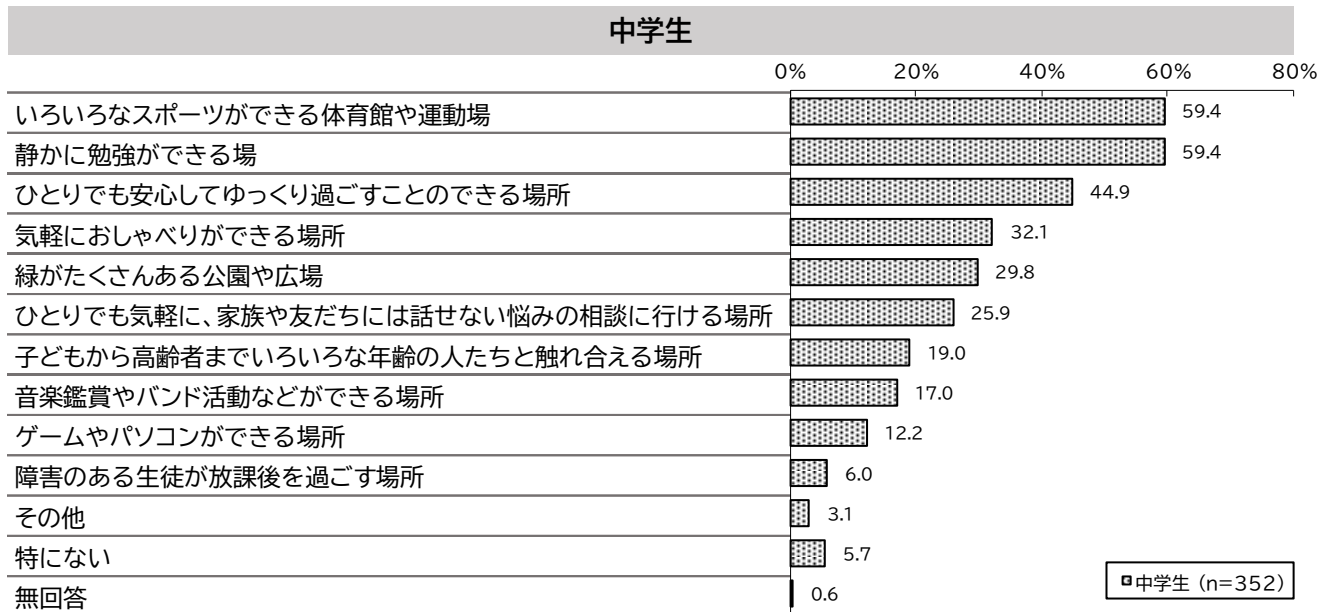
※選択肢内[]は、高校生世代本人で表現が異なる。

(5)放課後を過ごす場所の希望(複数回答)

中学生 小学生本人 中学生本人 高校生世代本人

中学生の保護者に放課後を過ごす場所の希望について尋ねたところ、「いろいろなスポーツができる体育館や運動場」と「静かに勉強ができる場」が 59.4%と最も多く、次いで「ひとりでも安心してゆっくり過ごすことのできる場所」が 44.9%となっている。

小学生本人では「緑がたくさんある公園や広場」が 46.4%、中学生本人では「気軽におしゃべりできる場所」が 37.4%、高校生世代本人では「静かに勉強ができる場所」が 46.0%で最も多くなっている。



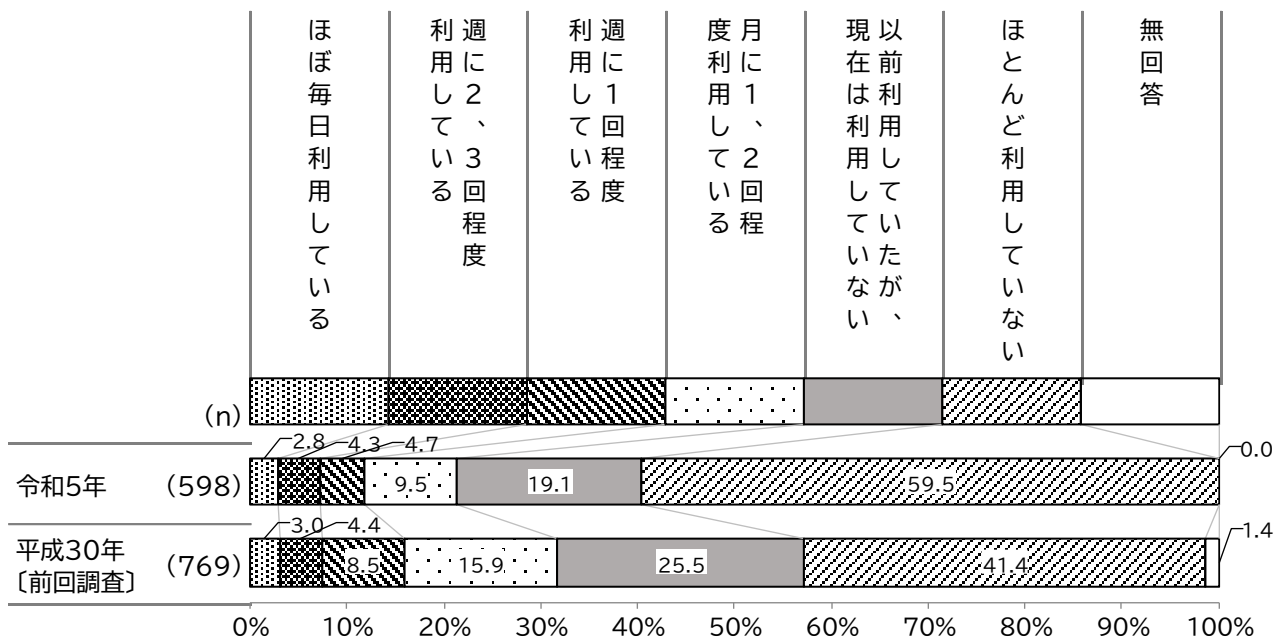
10 児童館について

(1) 児童館の利用頻度

小学生

小学生の児童館の利用頻度については、「ほぼ毎日利用している」2.8%、「週に2、3回程度利用している」4.3%、「週に1回程度利用している」4.7%、「月に1、2回程度利用している」9.5%であり、「利用している」の計は 21.3%となっている。「以前利用していたが、現在は利用していない」の過去利用は 19.1%、「ほとんど利用していない」は 59.5%となっている。

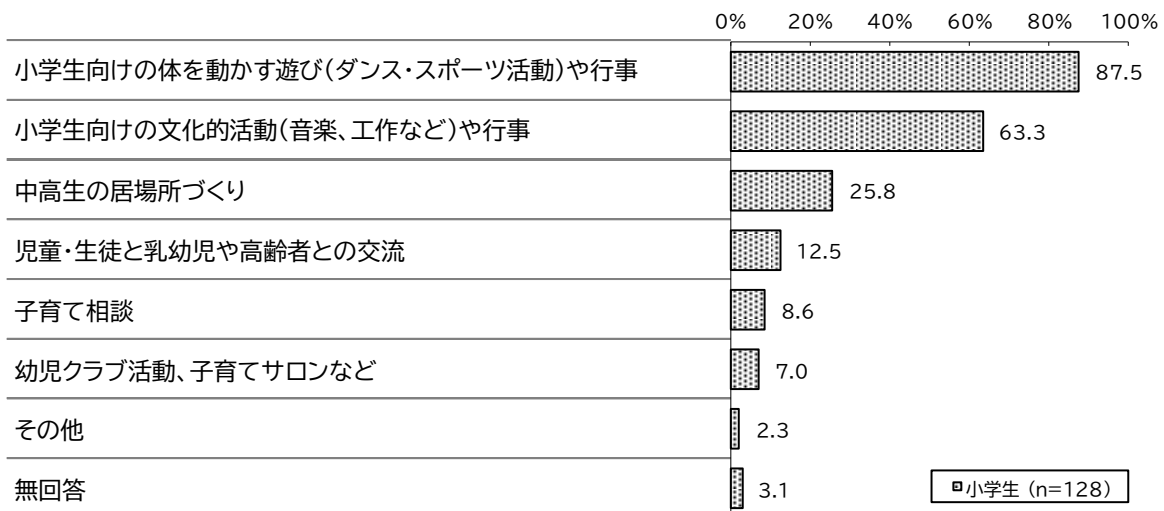
平成30年の調査結果と比較すると、「ほぼ毎日利用している」「週に2、3回程度利用している」「週に1回程度利用している」「月に1、2回程度利用している」「以前利用していたが、現在は利用していない」が減少し、「ほとんど利用していない」が増加している。



(2) 【児童館利用者】児童館として充実してほしい活動(複数回答)

小学生

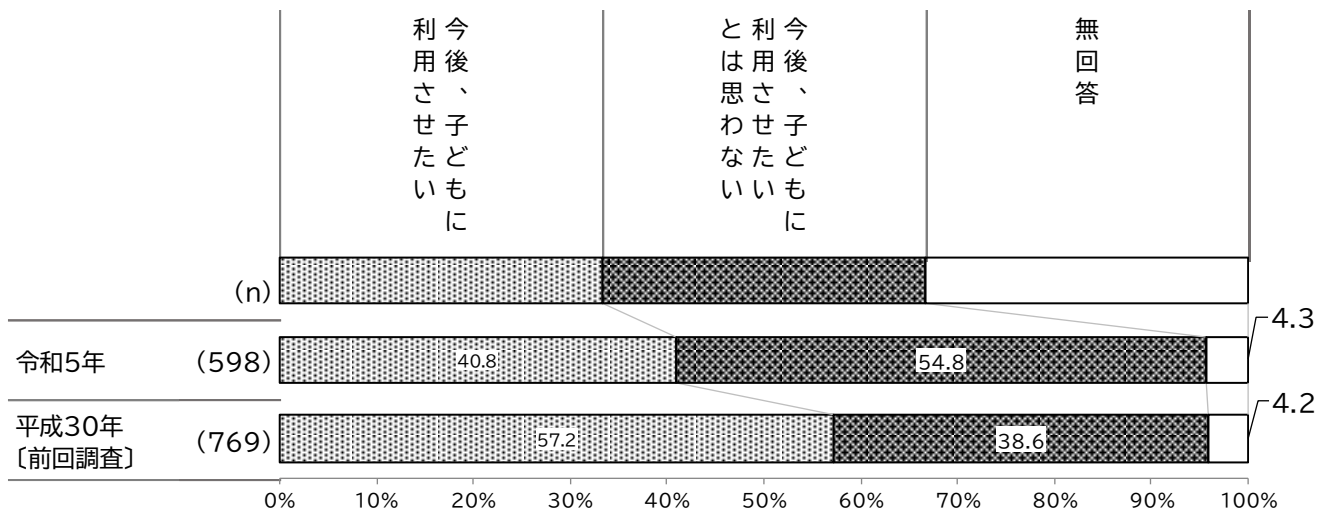
児童館を利用していると回答した小学生の保護者に、児童館として充実してほしい活動を尋ねたところ、「小学生向けの体を動かす遊び(ダンス・スポーツ活動)や行事」が 87.5%と最も多く、次いで「小学生向けの文化的活動(音楽、工作など)や行事」が 63.3%となっている。



(3)児童館の利用希望

小学生

児童館の今後の利用希望について小学生の保護者全員に尋ねたところ、「今後、子どもに利用させたい」が40.8%、「今後、子どもに利用させたいと思わない」が54.8%となっており、平成30年の調査結果と比較して、「今後、子どもに利用させたい」が16.4ポイント減少している。



11 育児休業制度について

(1)父母の育児休業制度の取得状況

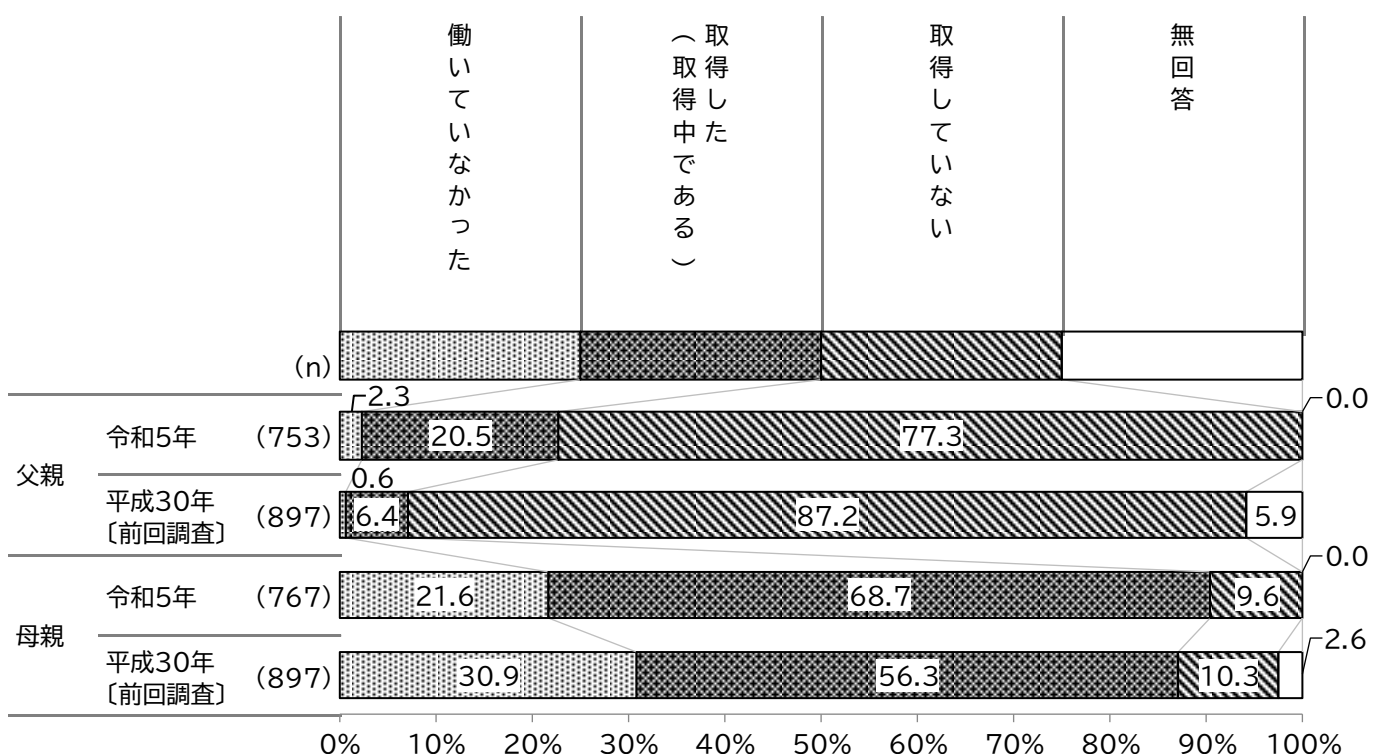
未就学児

①取得経験

未就学児の父母の育児休業制度の取得状況については、父親は「取得していない」が77.3%と大部分を占めている。一方、「取得した(取得中である)」は20.5%となっており、平成30年の調査結果より14.1ポイント増加している。

母親は「取得した(取得中である)」が68.7%、「取得していない」は9.6%となっており、平成30年の調査結果より、「取得した(取得中である)」は12.4ポイント増加している。

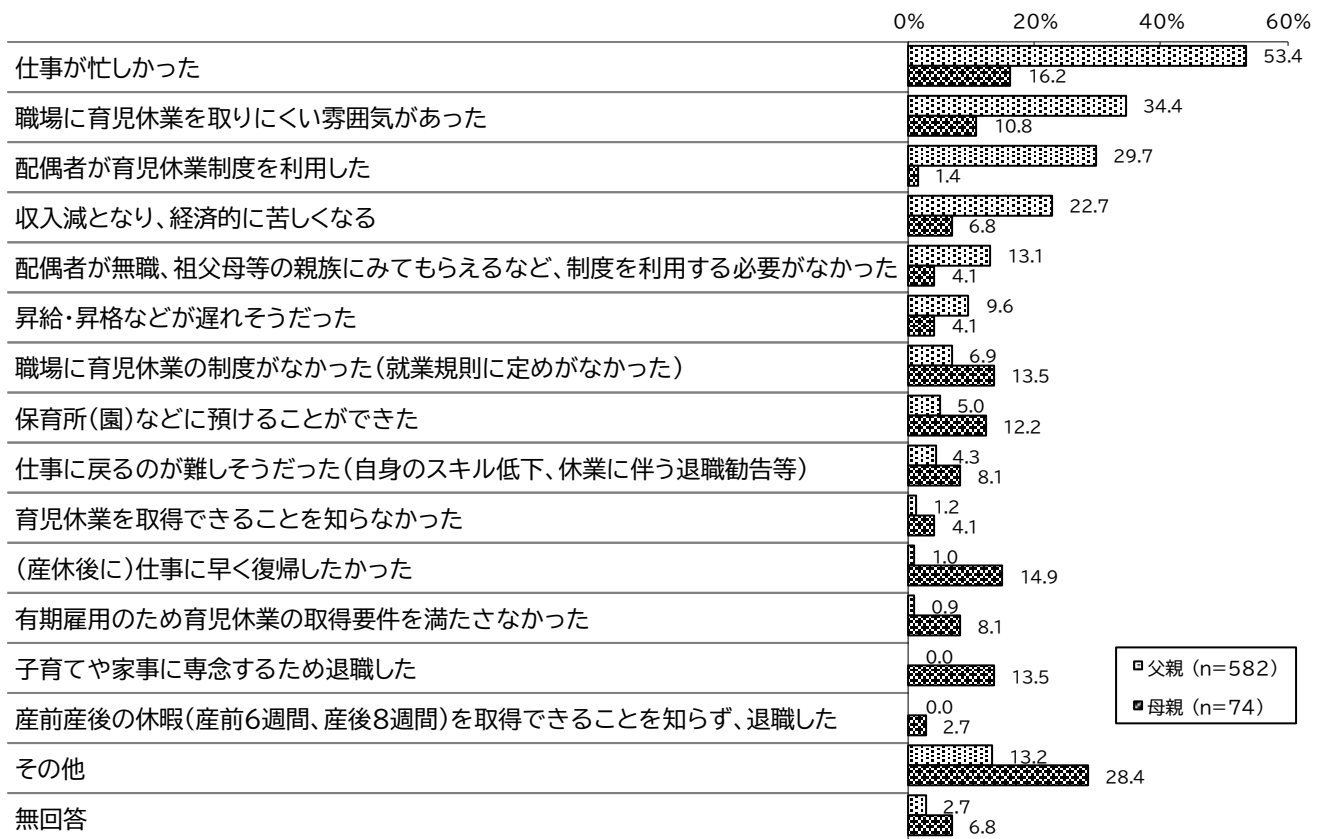
平成30年の調査結果と比較すると、父親と母親ともに育児休業制度を取得した割合が10ポイント以上増加しており、前回調査時より育児休業が取得しやすい傾向がうかがえる。



②【育児休業制度を「取得していない」人】取得していない理由(複数回答)

育児休業制度を取得していない理由として、父親は「仕事が忙しかった」が53.4%と半数を超えて最も多く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が34.4%、「配偶者が育児休業制度を利用した」が29.7%となっている。

母親は「仕事が忙しかった」が16.2%と最も多く、次いで「(産休後に)仕事に早く復帰したかった」が14.9%、「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」と「子育てや家事に専念するため退職した」がともに13.5%となっている。

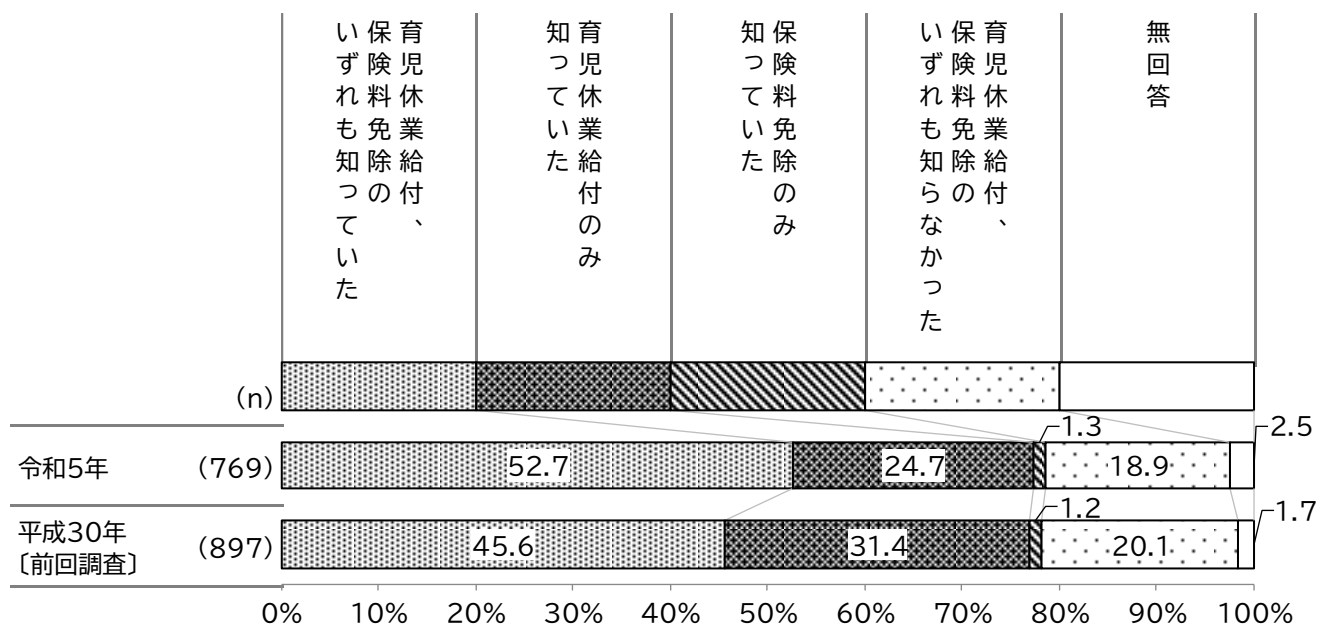


(2) 育児休業給付の支給・社会保険料免除の認知度

未就学児

育児休業給付の支給・社会保険料免除の認知度については、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」が 52.7%、「育児休業給付のみ知っていた」が 24.7%、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が 18.9%となっている。

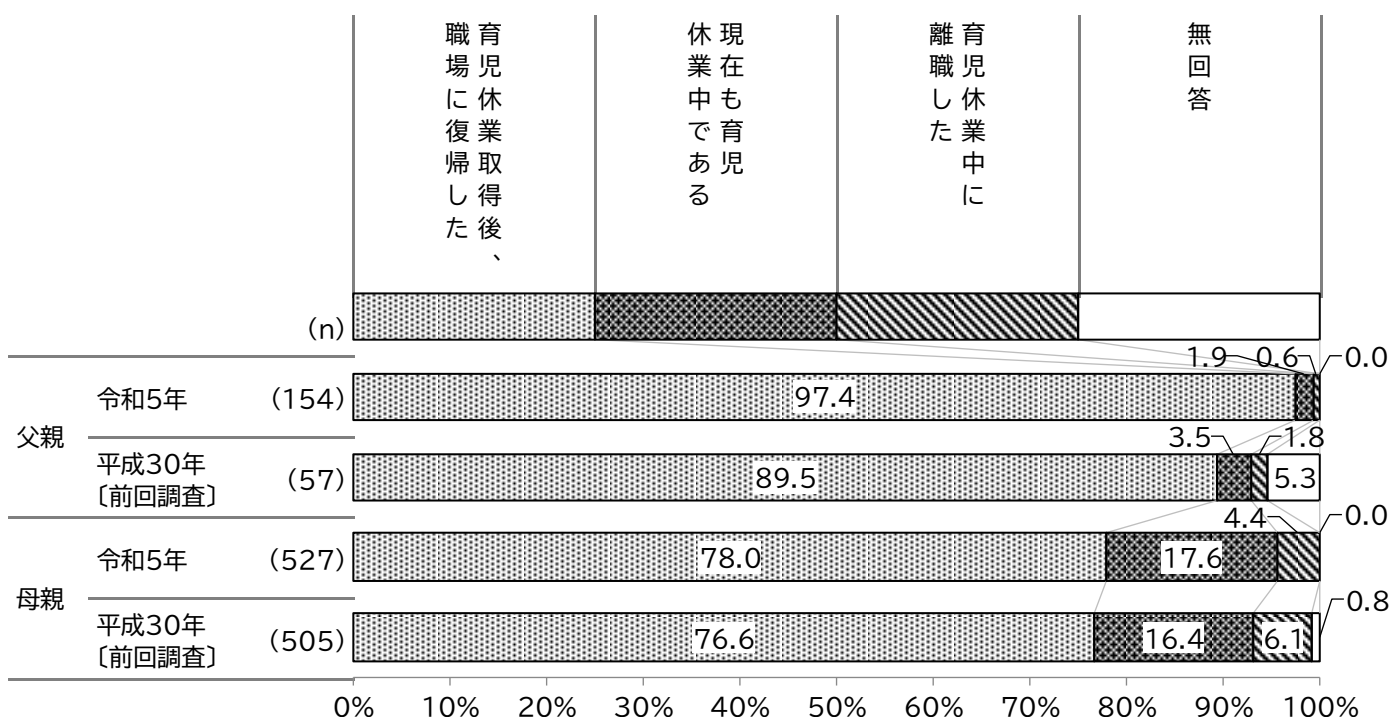
平成 30 年の調査結果と比較すると、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」は 7.1 ポイント増加した一方、「育児休業給付のみ知っていた」は 6.7 ポイント、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」は 1.2 ポイント減少している。



(3) 【育児休業取得者】育児休業後の職場復帰状況

未就学児

育児休業後の職場復帰の状況については、育児休業を取得した父親のうち 97.4%、母親のうち 78.0%が「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答しており、平成 30 年の調査結果より父親は 7.9 ポイント、母親は 1.4 ポイント増加している。

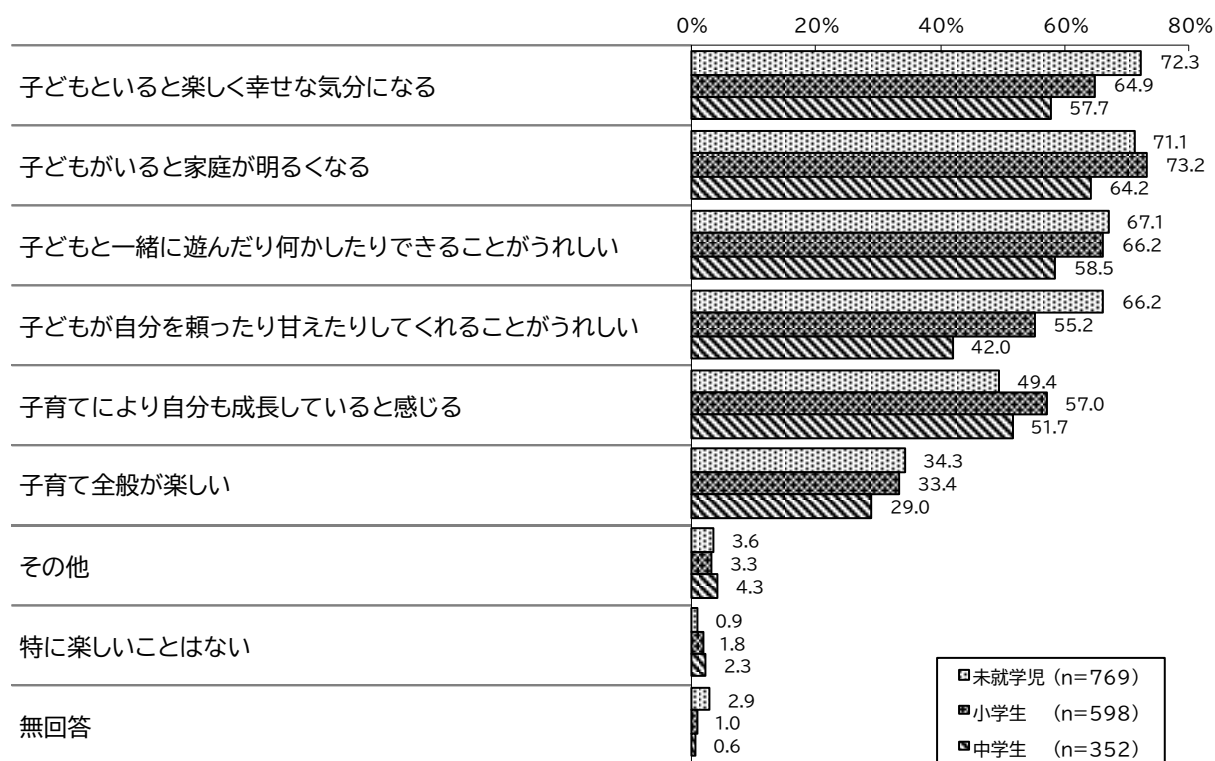


12 子育てのイメージ／不安・悩みについて

(1) 子育てをする上で楽しいと感じるとき

未就学児 小学生 中学生

子育てをする上で楽しいと感じるときについて、「子どもといると楽しく幸せな気分になる」と回答したのは、未就学児の保護者が72.3%、小学生の保護者が64.9%、中学生の保護者が57.7%となっている。「子どもがいると家庭が明るくなる」は未就学児の保護者が71.1%、小学生の保護者が73.2%、中学生の保護者が64.2%となっている。

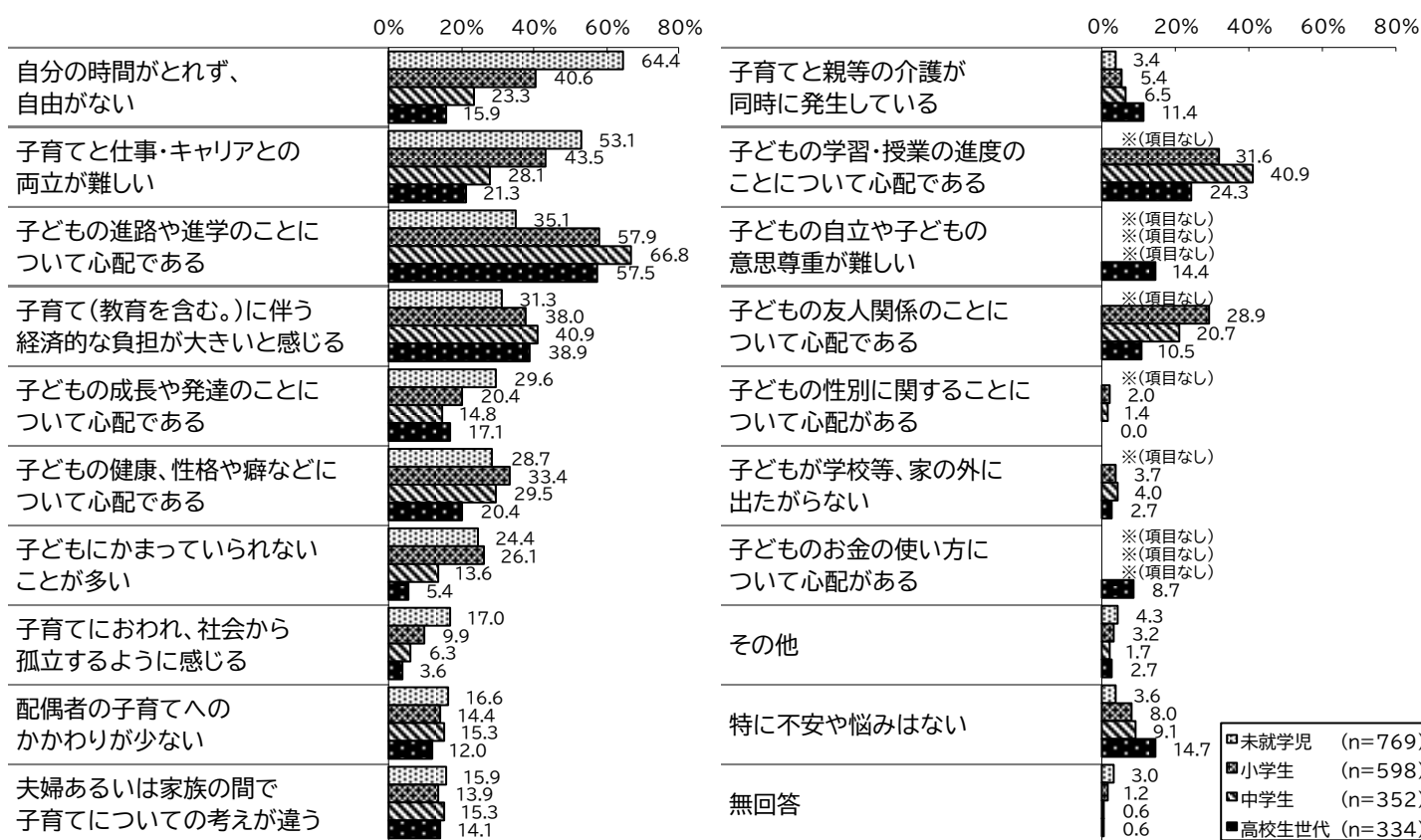


(2)子育てをする上での不安や悩み(複数回答) 未就学児 小学生 中学生 高校生世代 児童扶養手当 就学援助

①未就学児の保護者、小学生の保護者、中学生の保護者、高校生世代の保護者

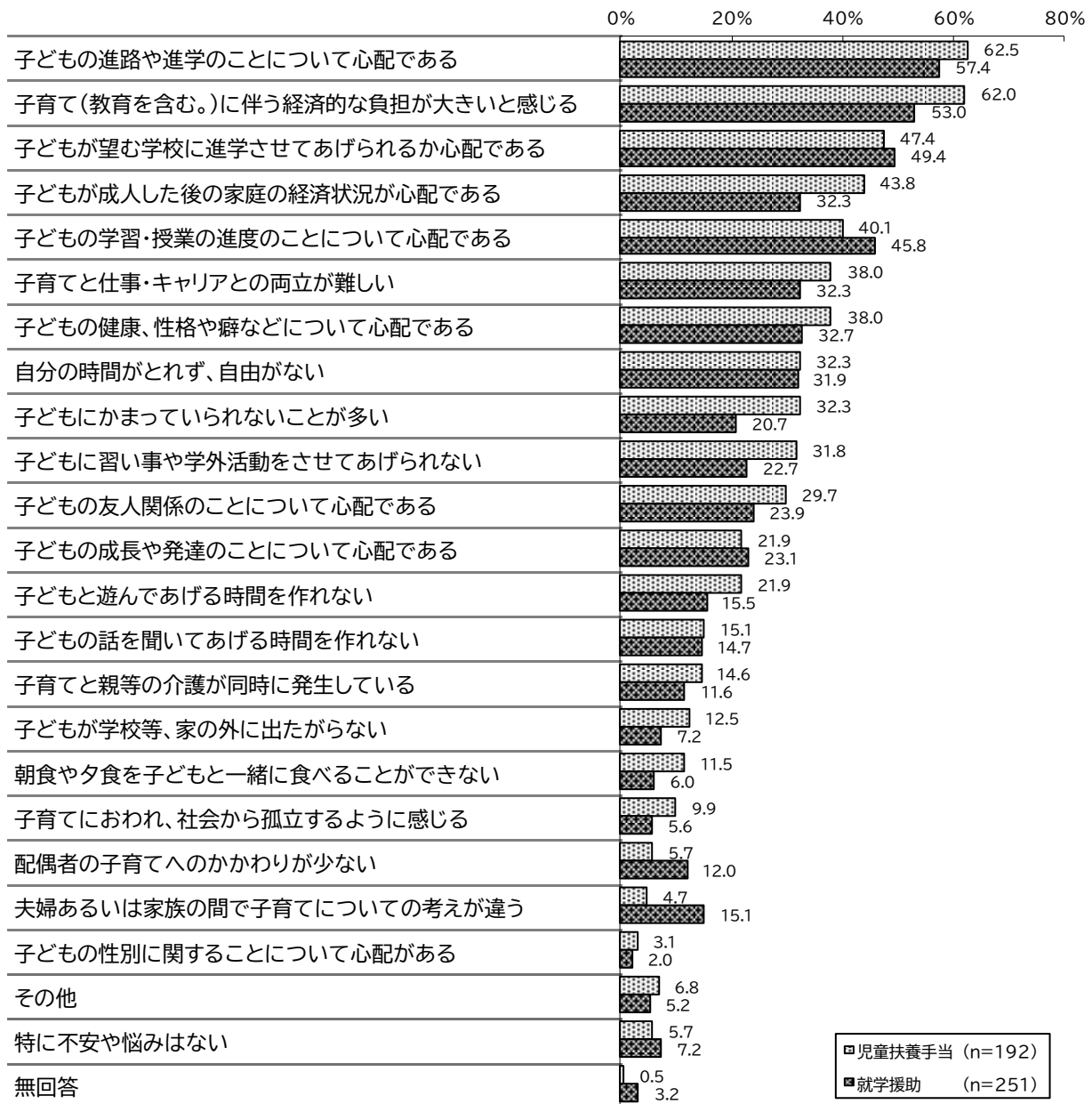
子育てをする上での不安や悩みについて、未就学児の保護者は「自分の時間がとれず、自由がない」が64.4%と最も多く、次いで「子育てと仕事・キャリアとの両立が難しい」が53.1%となっている。

一方、小学生の保護者、中学生の保護者及び高校生世代の保護者で最も多いのは「子どもの進路や進学のことについて心配である」で、それぞれ 57.9%、66.8%、57.5%となっている。次いで、小学生の保護者では「子育てと仕事・キャリアとの両立が難しい」が 43.5%、中学生の保護者では「子育て(教育を含む。)に伴う経済的な負担が大きいと感じる」と「子どもの学習・授業の進捗のことについて心配である」がともに40.9%、高校生世代の保護者では「子育て(教育を含む。)に伴う経済的な負担が大きいと感じる」が 38.9%となっており、子どもの成長に伴う教育や経済的不安が上位となっている。



②児童扶養手当受給保護者、就学援助受給世帯保護者

子育てをする上での不安や悩みについて、児童扶養手当受給保護者及び就学援助受給世帯保護者は「子どもの進路や進学のことについて心配である」がそれぞれ 62.5%、57.4%と最も多く、次いで「子育て(教育を含む。)に伴う経済的な負担が大きいと感じる」がそれぞれ 62.0%、53.0%となっている。

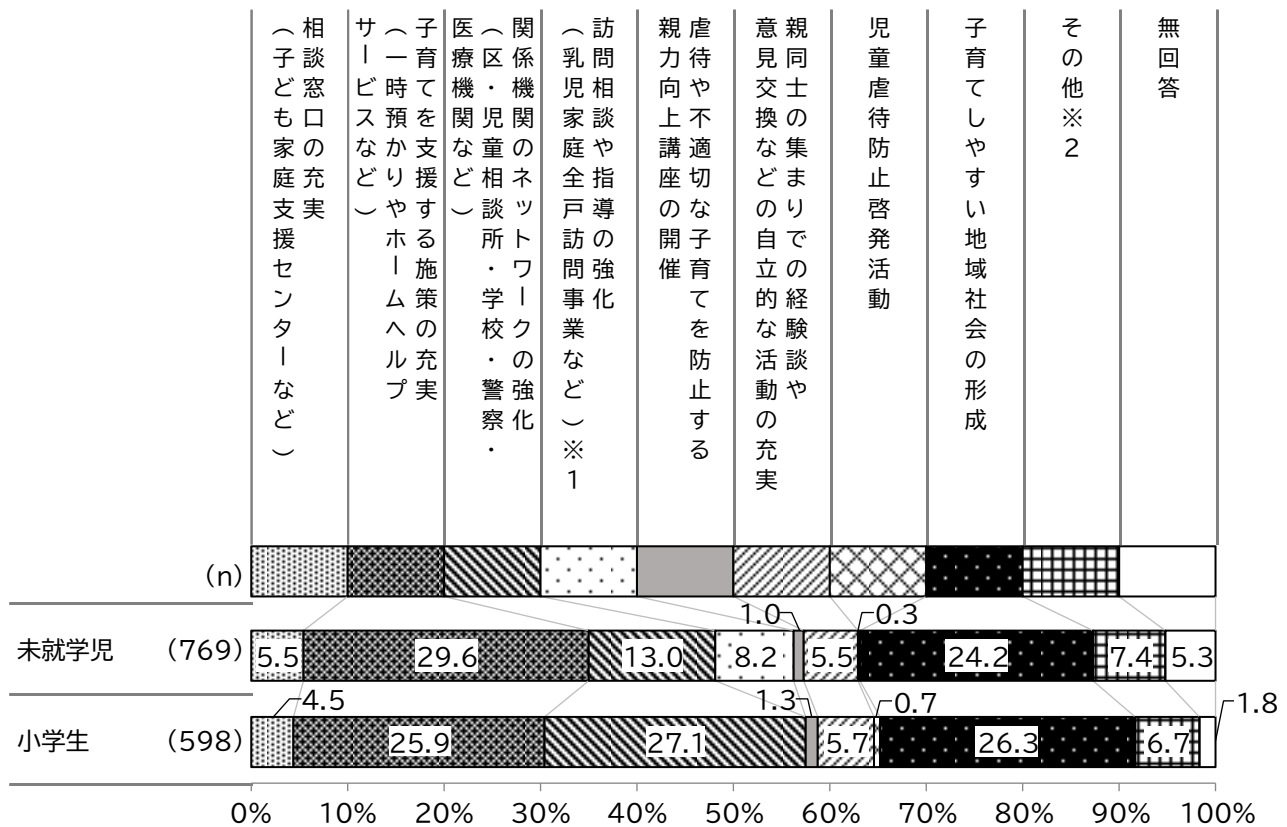


(3) 児童虐待や不適切な子育て防止のために最も効果的と思うこと

未就学児 小学生

児童虐待や不適切な子育て防止のために最も効果的と思うことを尋ねたところ、未就学児の保護者では「子育てを支援する施策の充実(一時預かりやホームヘルプサービスなど)」が 29.6%、小学生の保護者では「関係機関のネットワークの強化(区・児童相談所・学校・警察・医療機関など)」が 27.1%で最も多くなっている。次いで、未就学児の保護者と小学生の保護者ともに「子育てしやすい地域社会の形成」となっており、それぞれ 24.2%、26.3%となっている。

「関係機関のネットワークの強化(区・児童相談所・学校・警察・医療機関など)」については、未就学児の保護者に比べ、小学生の保護者が 14.1 ポイント多く回答している。



※1 「訪問相談や指導の強化(乳児家庭全戸訪問事業など)」は小学生調査では項目なし

※2 その他:学校教育の充実、児童相談所等行政の権限強化、経済的負担の軽減など

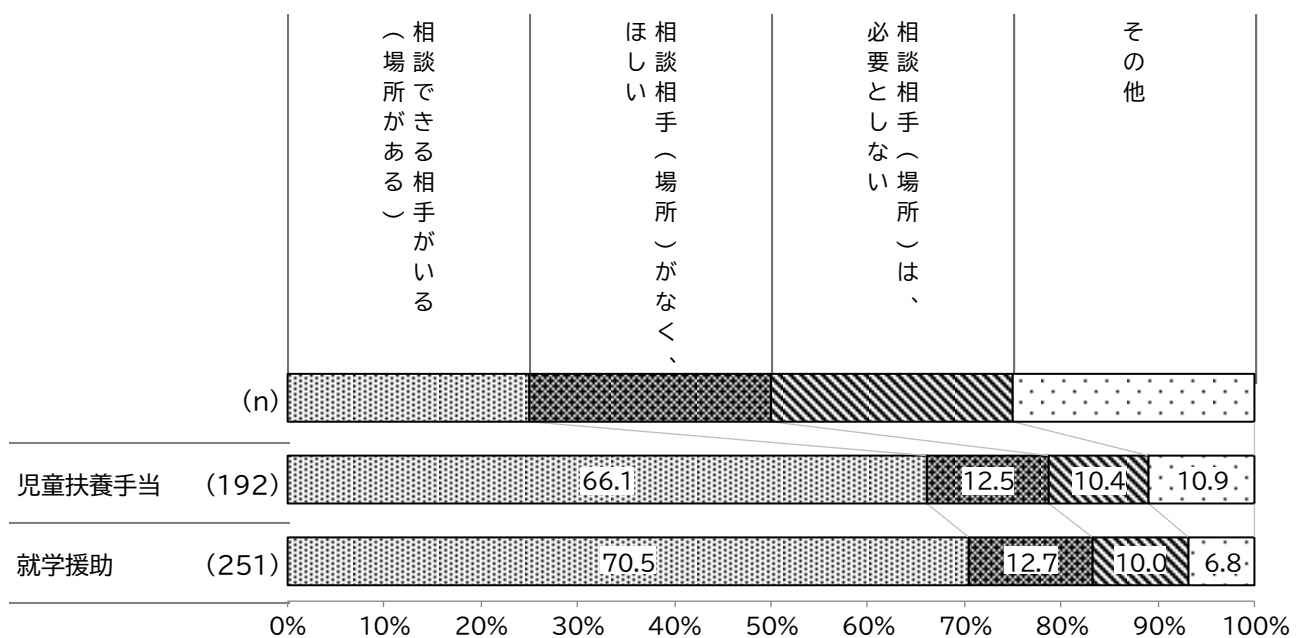
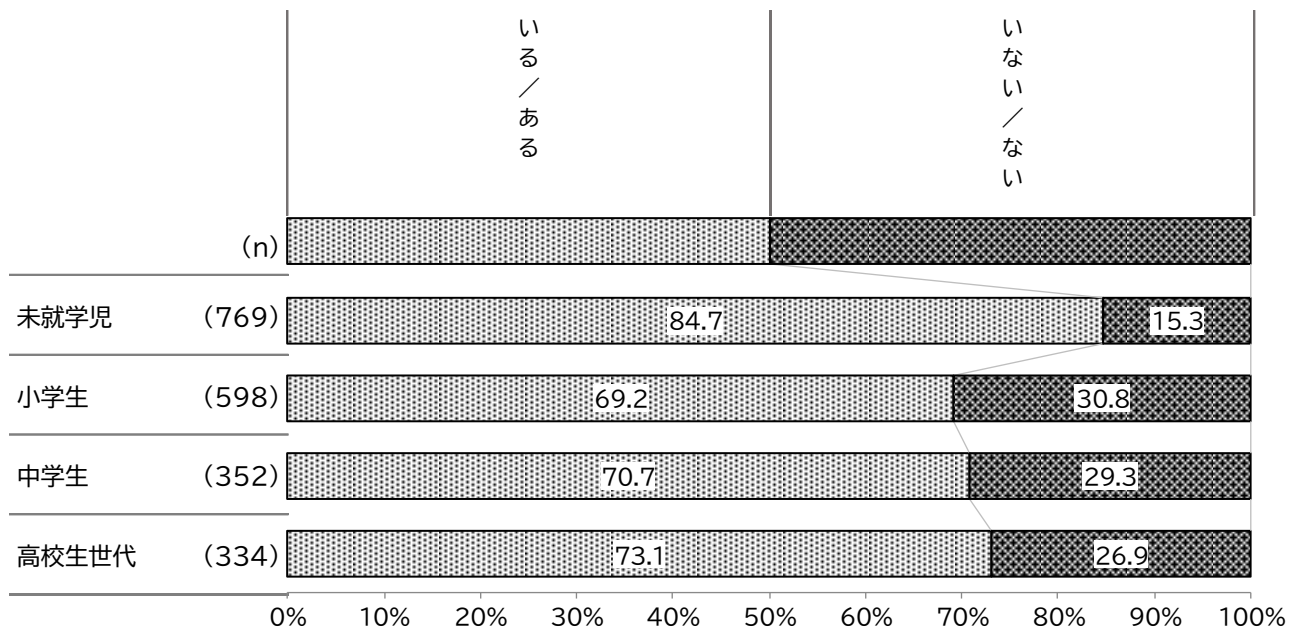
(4)子育て(教育を含む。)に関する相談先

未就学児 小学生 中学生 高校生世代 児童扶養手当 就学援助

①相談先の有無

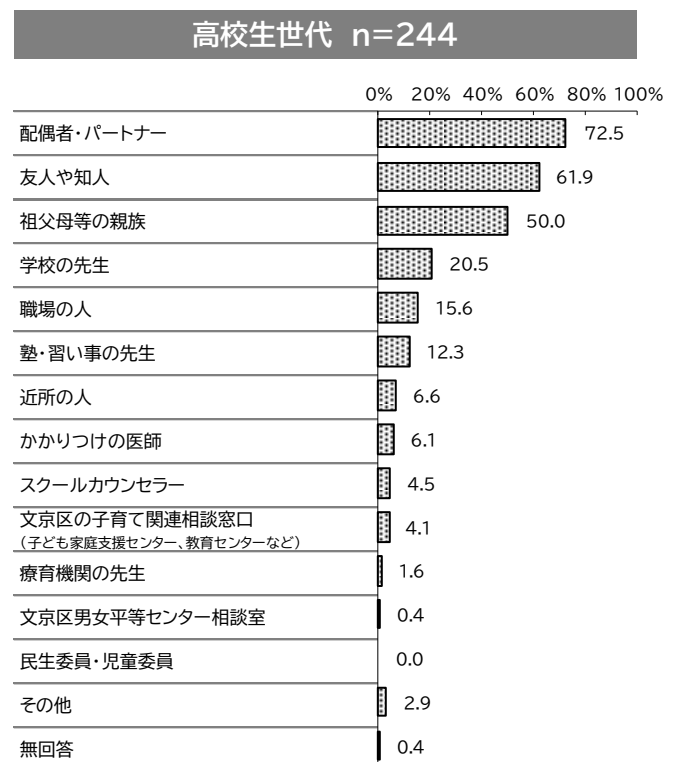
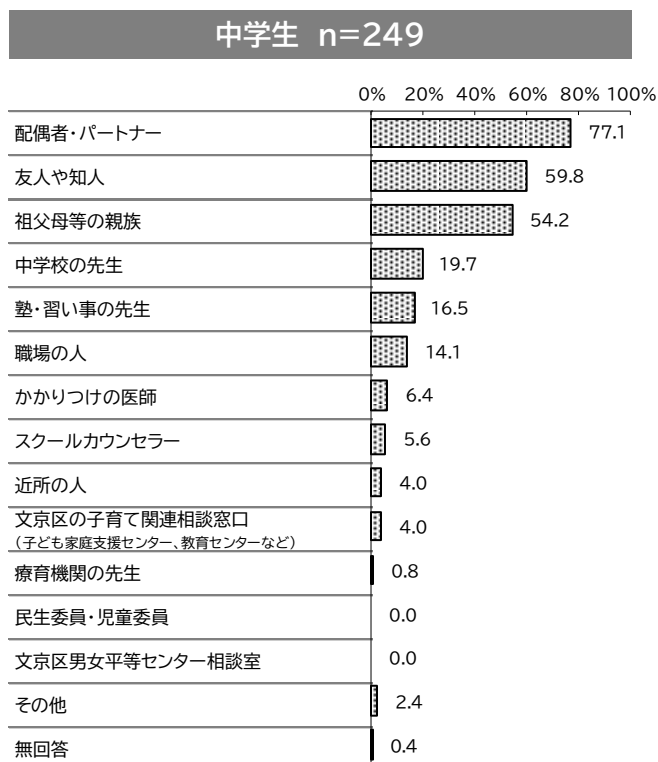
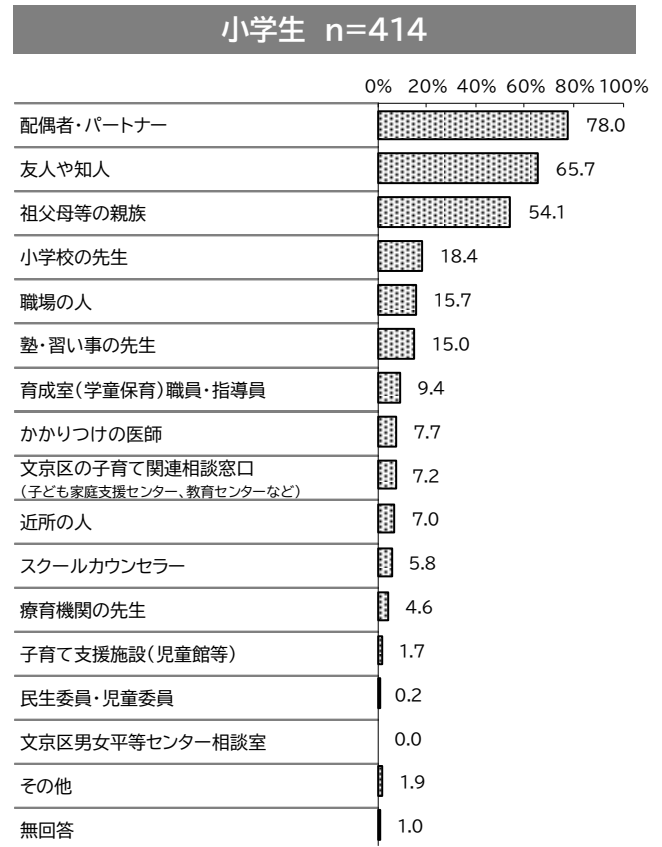
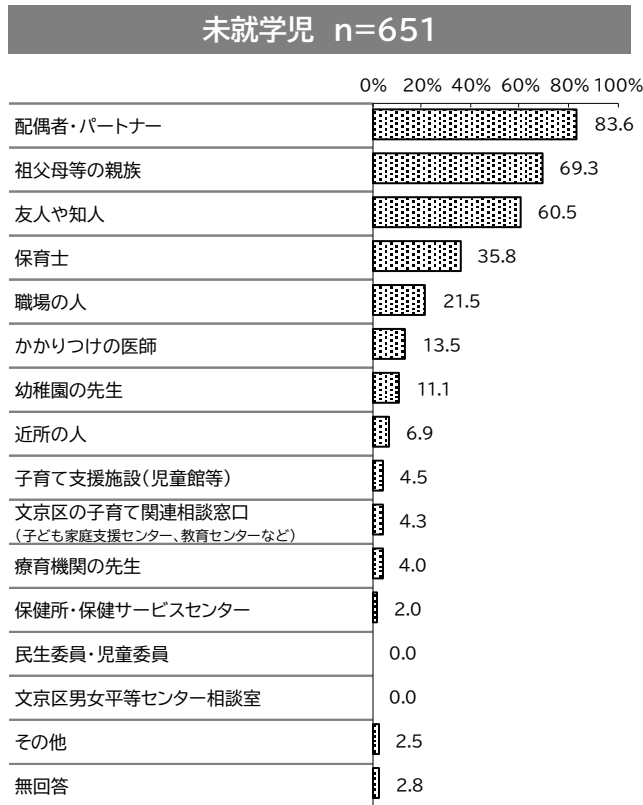
子育て(教育を含む。)に関する相談先の有無については、「いる／ある」と回答したのは、未就学児の保護者は84.7%、小学生の保護者は69.2%、中学生の保護者は70.7%、高校生世代の保護者が73.1%となっている。

児童扶養手当受給保護者及び就学援助受給世帯保護者は「相談できる相手がいる(場所がある)」がそれぞれ66.1%、70.5%、「相談相手(場所)がなく、ほしい」がそれぞれ12.5%、12.7%となっている。

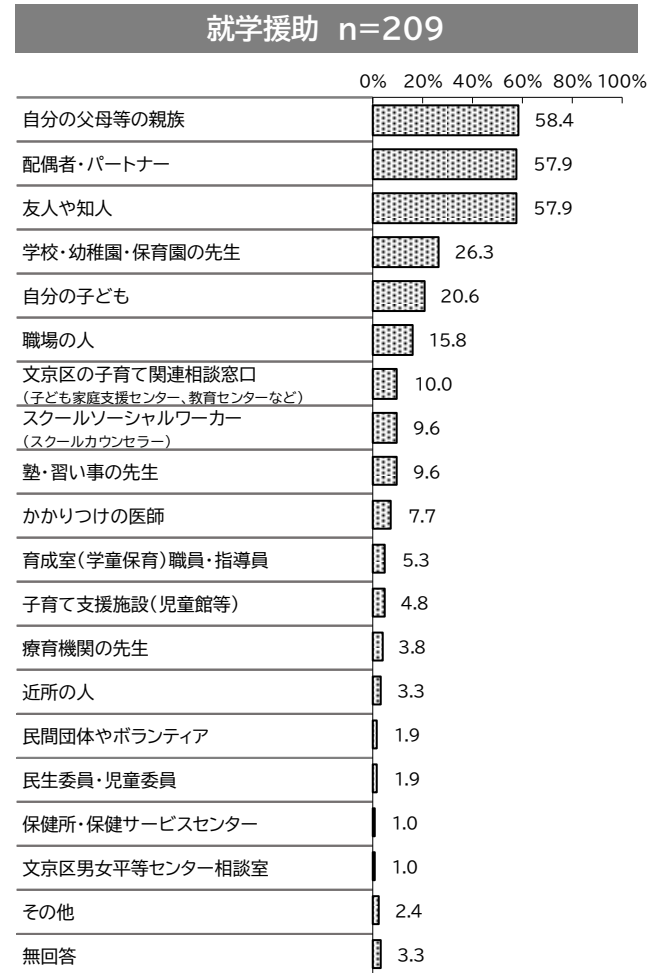
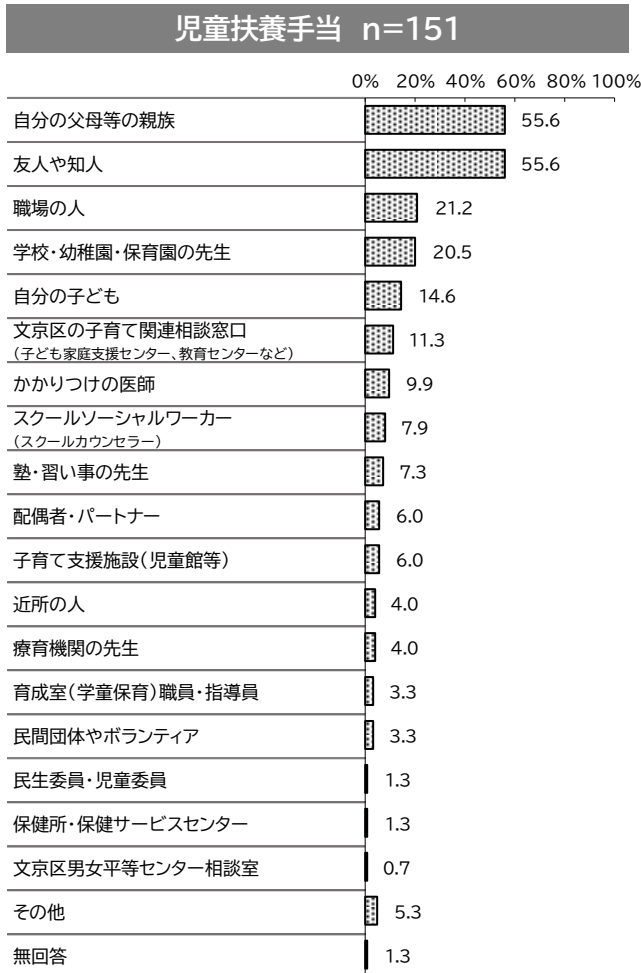


②【相談先「いる／ある」人】相談相手・場所(複数回答)

子育て(教育を含む。)に関する相談先が「いる／ある」と回答した人に、相談相手・場所を尋ねたところ、未就学児の保護者、小学生の保護者、中学生の保護者及び高校生世代の保護者は「配偶者・パートナー」が、それぞれ 83.6%、78.0%、77.1%、72.5%と最も多くなっている。次いで、未就学児の保護者では「祖父母等の親族」が 69.3%、小学生の保護者、中学生の保護者及び高校生世代の保護者では、「友人や知人」がそれぞれ 65.7%、59.8%、61.9%となっている。



児童扶養手当受給保護者及び就学援助受給世帯保護者はともに「自分の父母等の親族」が、それぞれ 55.6%、58.4%と最も多くなっている。また、児童扶養手当受給保護者は「友人や知人」も 55.6%で最も多くなっている。次いで、児童扶養手当受給保護者では「職場の人」が 21.2%、「学校・幼稚園・保育園の先生」が 20.5%、就学援助受給世帯保護者では「配偶者・パートナー」と「友人や知人」が 57.9%、「学校・幼稚園・保育園の先生」が 26.3%となっている。

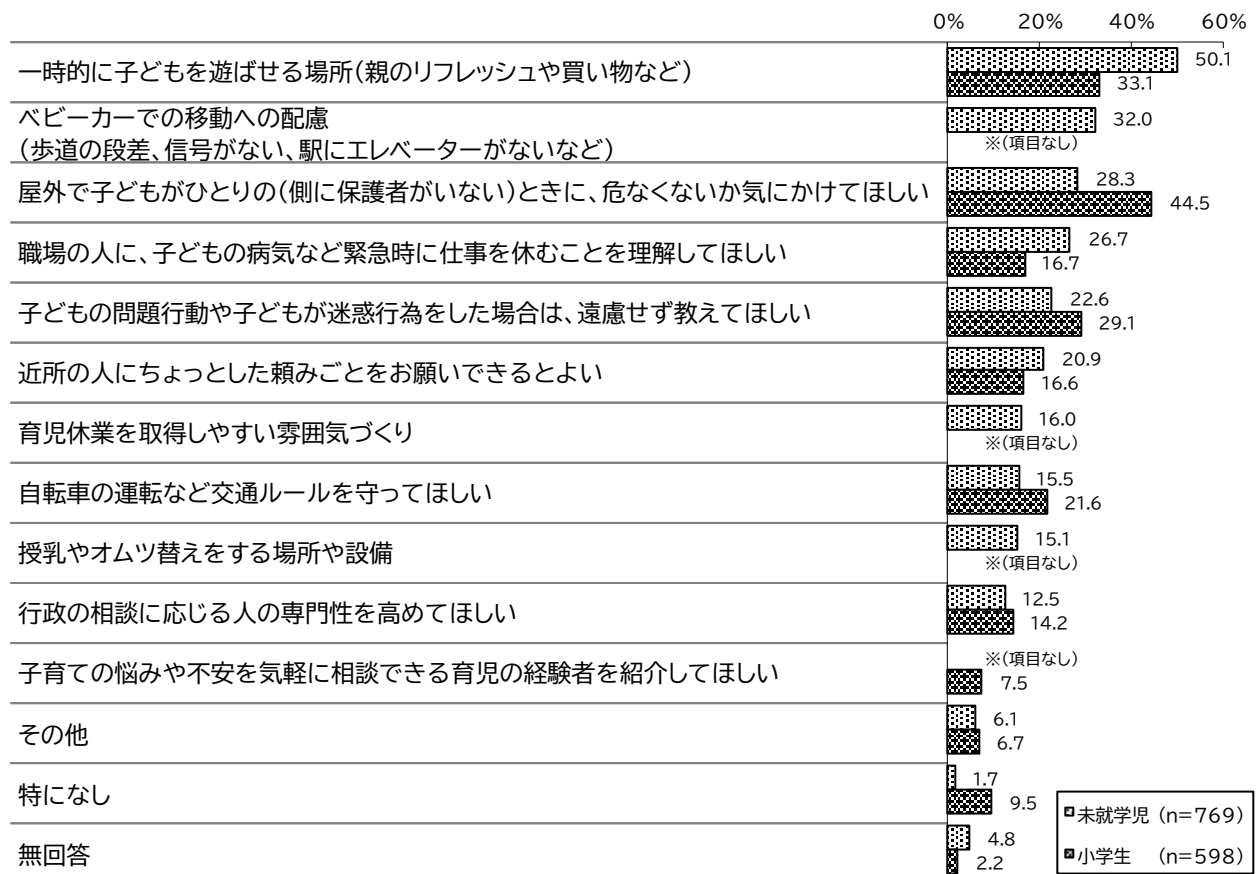


(5)子育てする上で周囲の人や行政担当者などからほしいサポート(3つ回答)

未就学児 小学生

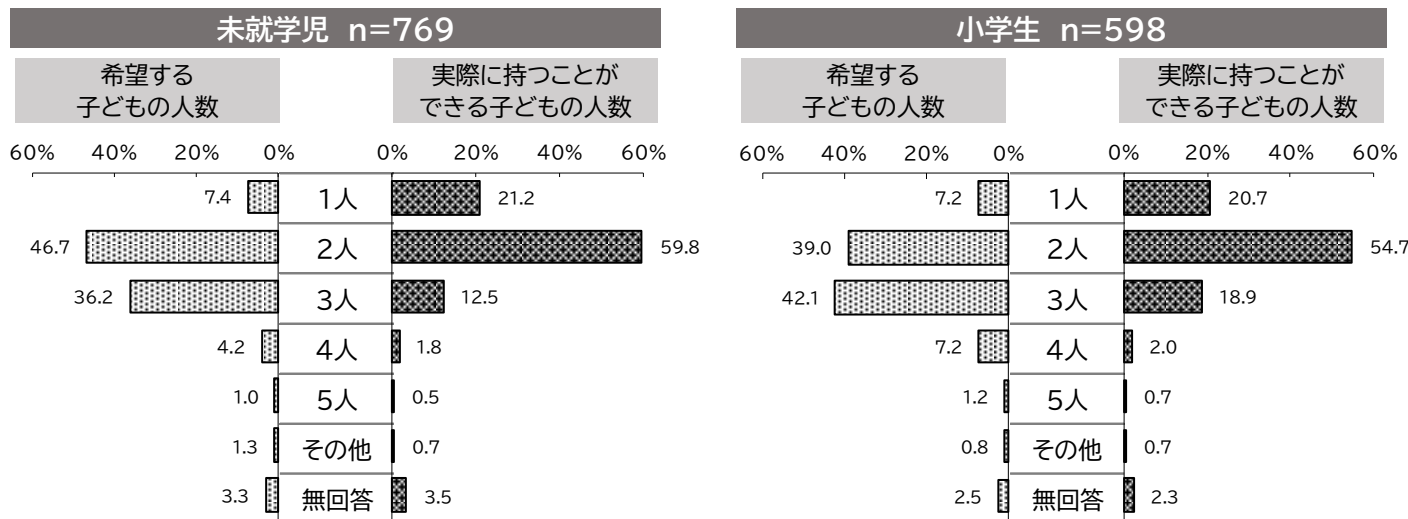
子育てをする上で周囲の人や行政担当者などからほしいサポートについて尋ねたところ、未就学児の保護者は「一時的に子どもを遊ばせる場所(親のリフレッシュや買い物など)」が 50.1%と最も多く、次いで「ベビーカーでの移動への配慮(歩道の段差、信号がない、駅にエレベーターがないなど)」が 32.0%、「屋外で子どもがひとりの(側に保護者がいない)ときに、危なくないか気にかけてほしい」が 28.3%となっている。

小学生の保護者は「屋外で子どもがひとりの(側に保護者がいない)ときに、危なくないか気にかけてほしい」が 44.5%と最も多く、次いで「一時的に子どもを遊ばせる場所(親のリフレッシュや買い物など)」が 33.1%となっている。



①希望する人数と実際に持つことができると思う人数

希望する子どもの人数と実際に持つことができると思う子どもの人数を尋ねたところ、未就学児の保護者が希望する子どもの人数は「2人」が 46.7%で最も多くなっている。小学生の保護者が希望する子どもの人数は「3人」が 42.1%で最も多くなっている。実際に持つことができると思う子どもの人数は「2人」がともに 60%弱となっている。希望する子どもの人数が「1人」と回答した未就学児の保護者、小学生の保護者はともに 10%未満と少ない一方、実際に持つことができる子どもの人数として「1人」と回答した割合はともに 20%強となっている。

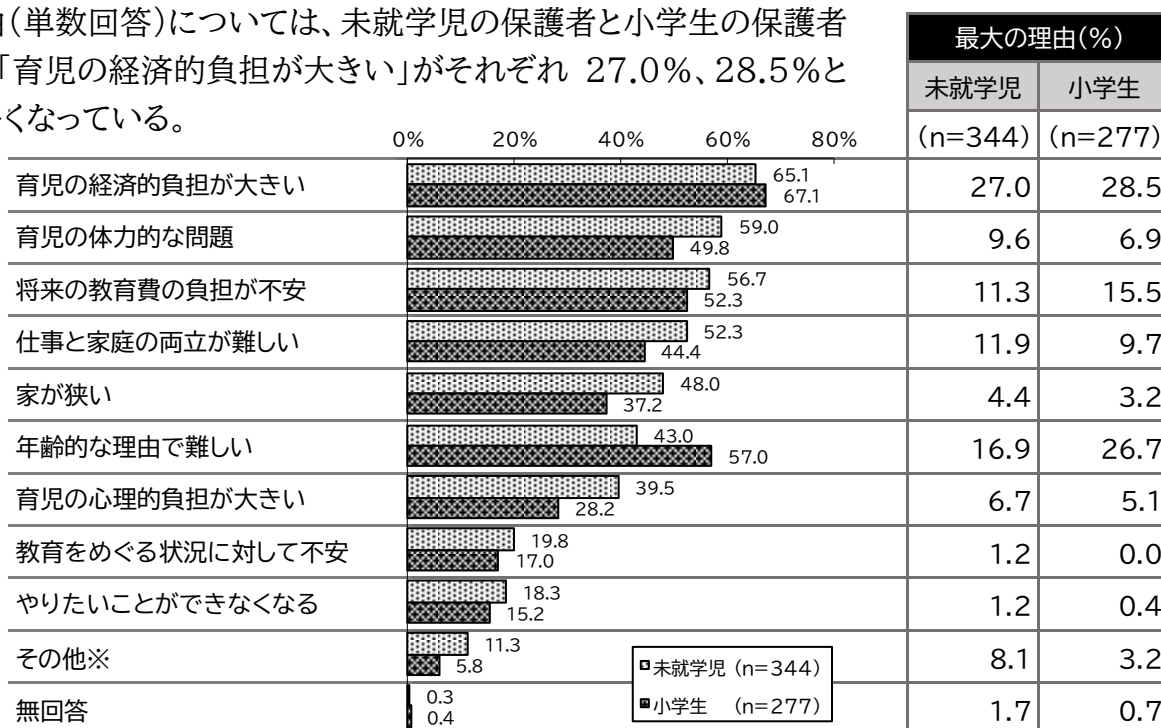


②【実際に持つことができる子どもの人数が希望する子どもの人数より「少ない」人】

子どもの人数が希望より少ない理由(複数回答)

実際に持つことができる子どもの人数が希望より少ない人に、その理由を尋ねたところ、未就学児の保護者と小学生の保護者ともに「育児の経済的負担が大きい」が最も多くなっている。未就学児の保護者では「育児の体力的な問題」、「将来の教育費の負担が不安」と続いている。小学生の保護者では「年齢的な理由で難しい」「将来の教育費の負担が不安」と続いている。

また、実際に持つことができる子どもの人数が希望より少ない最大の理由(単数回答)については、未就学児の保護者と小学生の保護者ともに「育児の経済的負担が大きい」がそれぞれ 27.0%、28.5%と最も多くなっている。

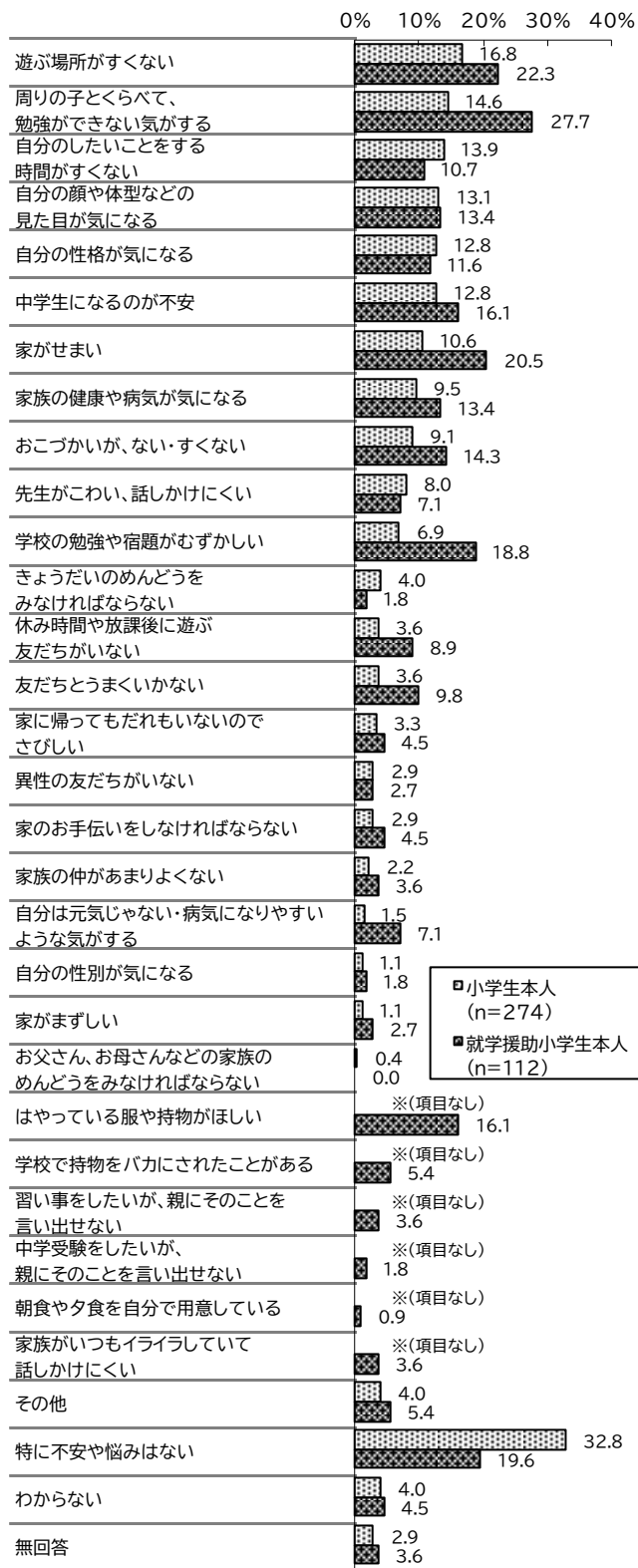


※その他: パートナーとの考え方の相違、妊娠・出産の負担、健康上の問題など

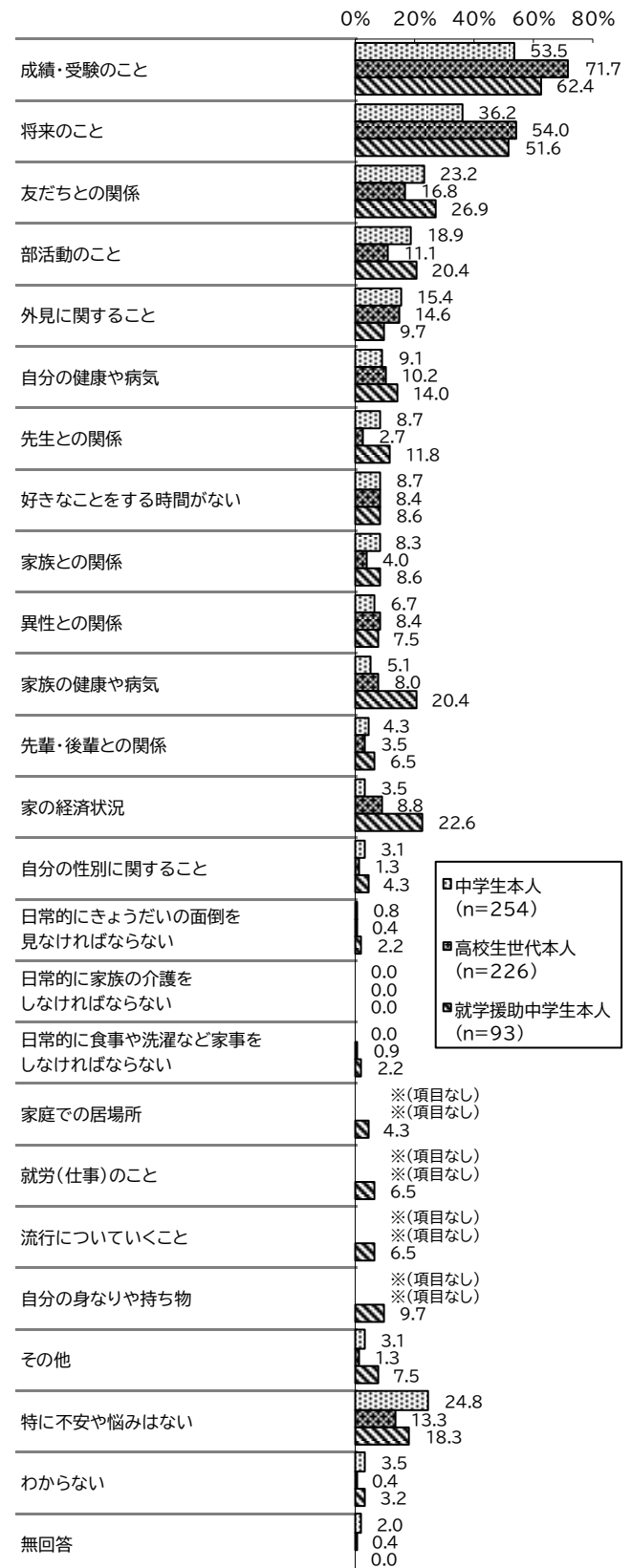
(7)現在の不安・悩み(複数回答) 小学生本人 中学生本人 高校生世代本人 就学援助小学生本人 就学援助中学生本人

現在の不安・悩みを尋ねたところ、小学生本人は「遊ぶ場所がすくない」が16.8%、就学援助受給世帯小学生本人は「周りの子とくらべて、勉強ができない気がする」が27.7%と最も多くなっている。中学生本人、高校生世代本人及び就学援助受給世帯中学生本人は「成績・受験のこと」がそれぞれ53.5%、71.7%、62.4%と最も多くなっている。

小学生本人、就学援助小学生本人



中学生本人、高校生世代本人、就学援助中学生本人

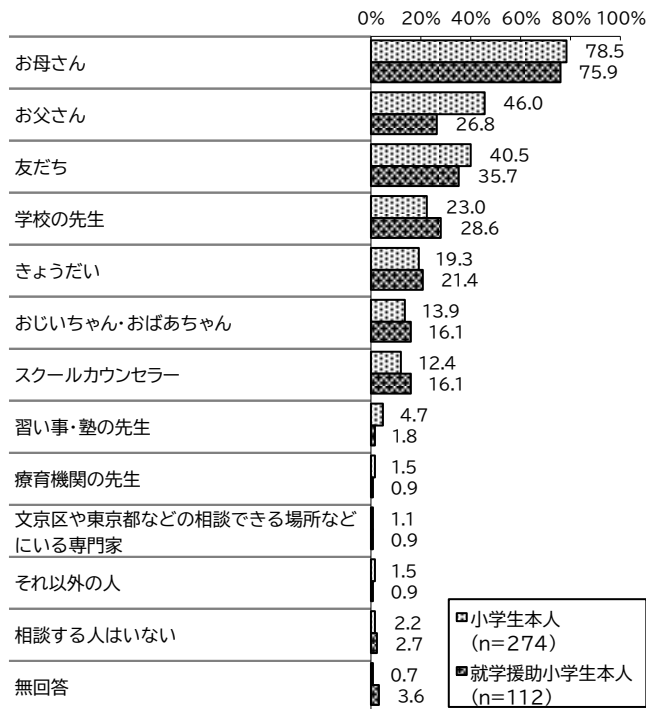


(8)不安・心配ごとの相談相手(複数回答)

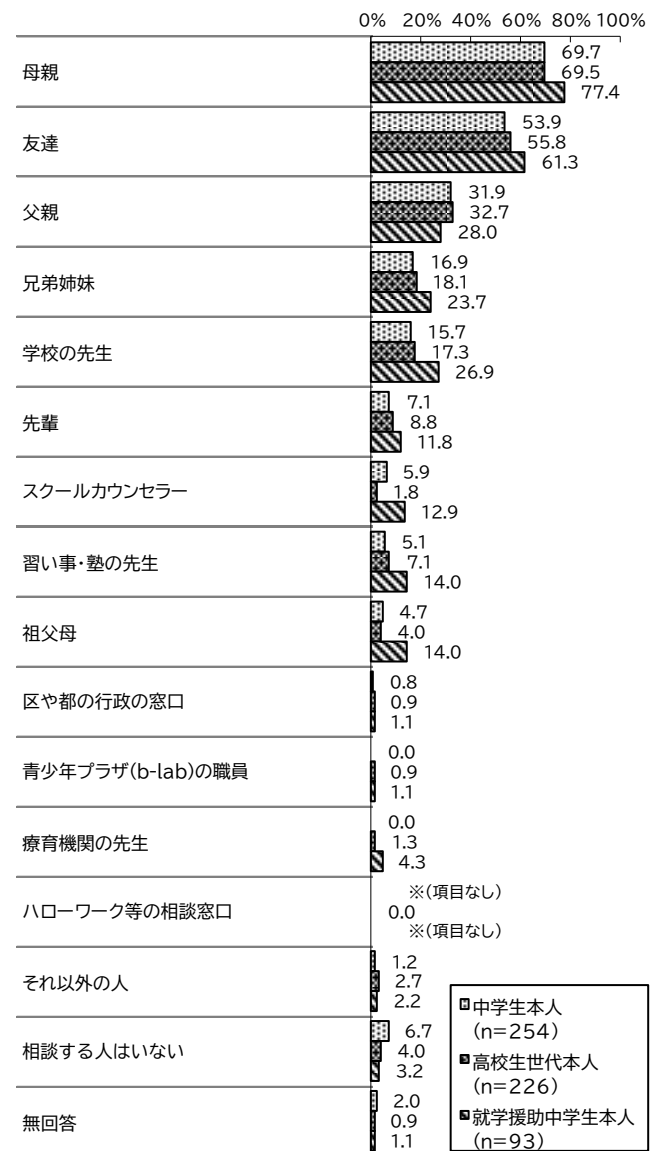
不安や心配ごとの相談相手を尋ねたところ、小学生本人及び就学援助受給世帯小学生本人では、「お母さん」がそれぞれ78.5%、75.9%で最も多くなっている。中学生本人、高校生世代本人及び就学援助受給世帯中学生本人では「母親」がそれぞれ69.7%、69.5%、77.4%と最も多くなっている。

また、小学生本人及び就学援助受給世帯小学生本人で「お父さん」はそれぞれ46.0%、26.8%となっている。中学生本人、高校生世代本人及び就学援助受給世帯中学生本人で「父親」はそれぞれ31.9%、32.7%、28.0%となっている。

小学生本人、就学援助小学生本人



中学生本人、高校生世代本人、就学援助中学生本人



13 子育て支援サービスについて

(1) 子育て支援サービスの認知度・利用状況・利用希望

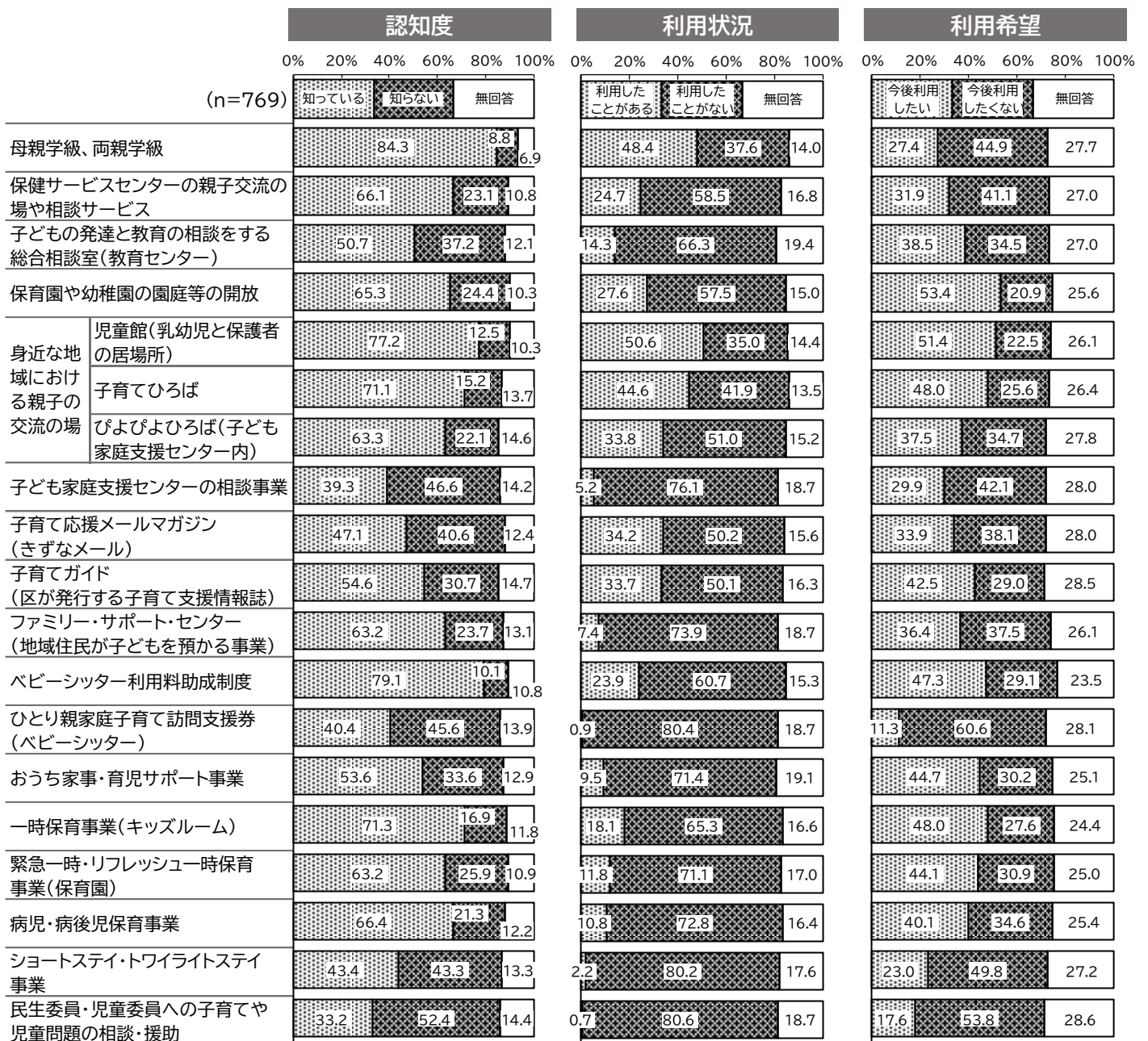
未就学児 小学生

① 未就学児の保護者

子育て支援サービスの認知度を尋ねたところ、「知っている」は「母親学級、両親学級」が 84.3%と最も多く、「ベビーシッター利用料助成制度」が 79.1%、「児童館(乳幼児と保護者の居場所)」が 77.2%と続いている。

これまでの利用状況を尋ねたところ、「利用したことがある」は「児童館(乳幼児と保護者の居場所)」が 50.6%と最も多く、「母親学級、両親学級」が 48.4%、「子育てひろば」が 44.6%と続いている。

今後の利用希望を尋ねたところ、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」が 53.4%と最も多く、「児童館(乳幼児と保護者の居場所)」が 51.4%、「子育てひろば」と「一時保育事業(キッズルーム)」がともに 48.0%と続いている。



②小学生の保護者

子育て支援サービスの認知度を尋ねたところ、「知っている」は「児童館(放課後の居場所)」が91.5%と最も多く、「区立の育成室(学童保育)」が88.0%と続いている。

これまでの利用状況を尋ねたところ、「利用したことがある」は「児童館(放課後の居場所)」が59.4%と最も多く、「児童館(乳幼児と保護者の居場所)」が58.9%と続いている。

今後の利用希望を尋ねたところ、「今後利用したい」は「放課後全児童向け事業(アクティなど)」が62.4%と最も多く、「児童館(放課後の居場所)」が61.4%と続いている。

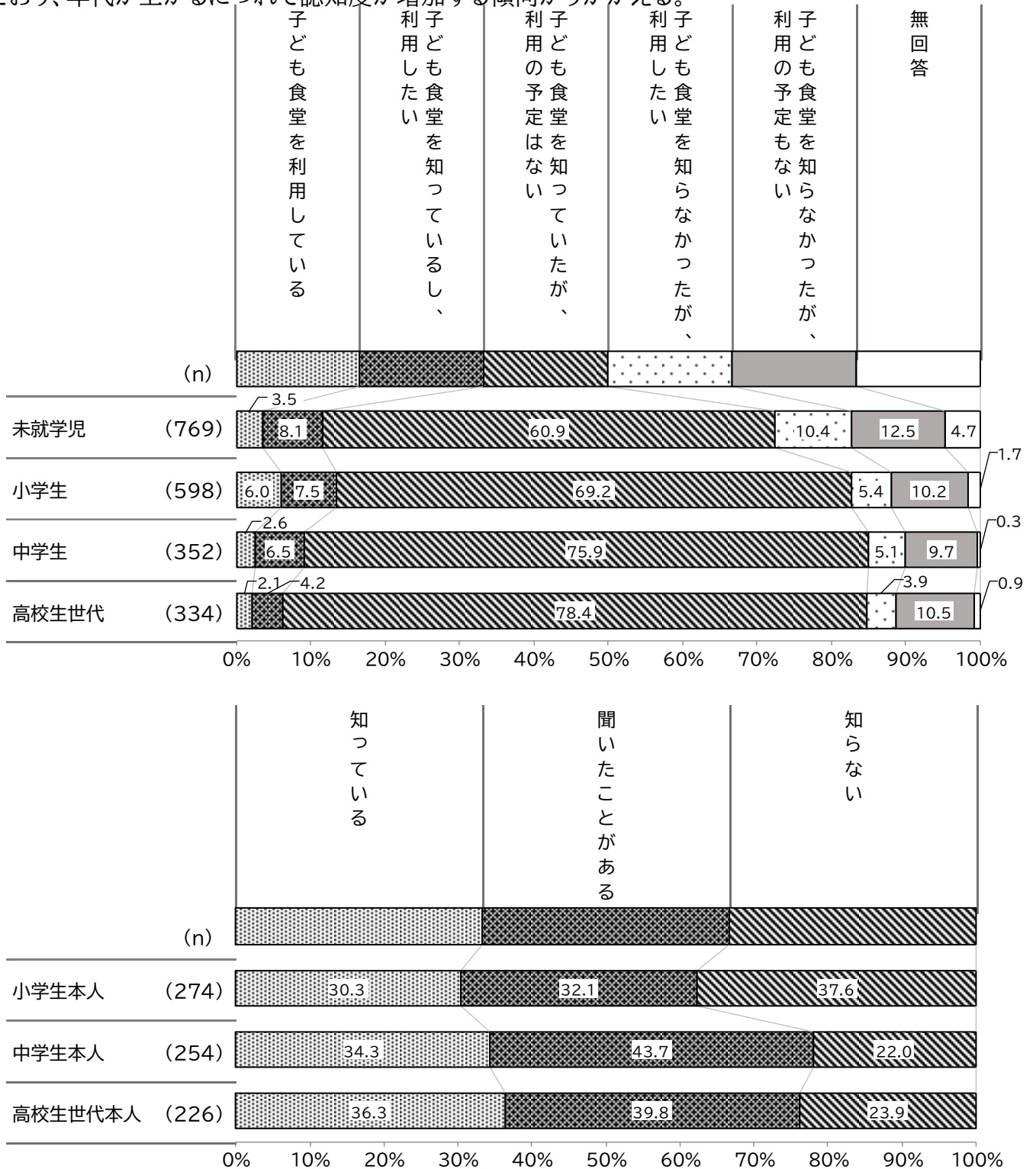


(2)子ども食堂の認知度・利用希望

子ども食堂の認知度及び利用希望について尋ねたところ、未就学児、小学生、中学生及び高校生世代の保護者ともに「子ども食堂を知っていたが、利用の予定はない」が6割以上で最も多くなっている。

また、「子ども食堂を利用している」、「子ども食堂を知っているし、利用したい」、「子ども食堂を知っていたが、利用の予定はない」の「知っている」の計は未就学児の保護者で72.5%、小学生の保護者で82.7%、中学生の保護者で85.0%、高校生世代の保護者で84.7%となっている。

「知っている」は小学生本人で30.3%、中学生本人で34.3%、高校生世代本人で36.3%となっており、年代が上がるにつれて認知度が増加する傾向がうかがえる。

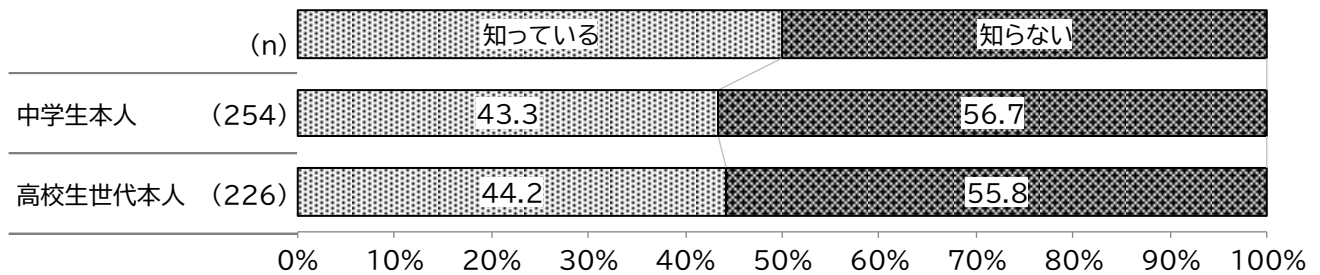


(3) 青少年プラザ(b-lab)の認知度/利用頻度/利用しない理由

中学生本人 高校生世代本人

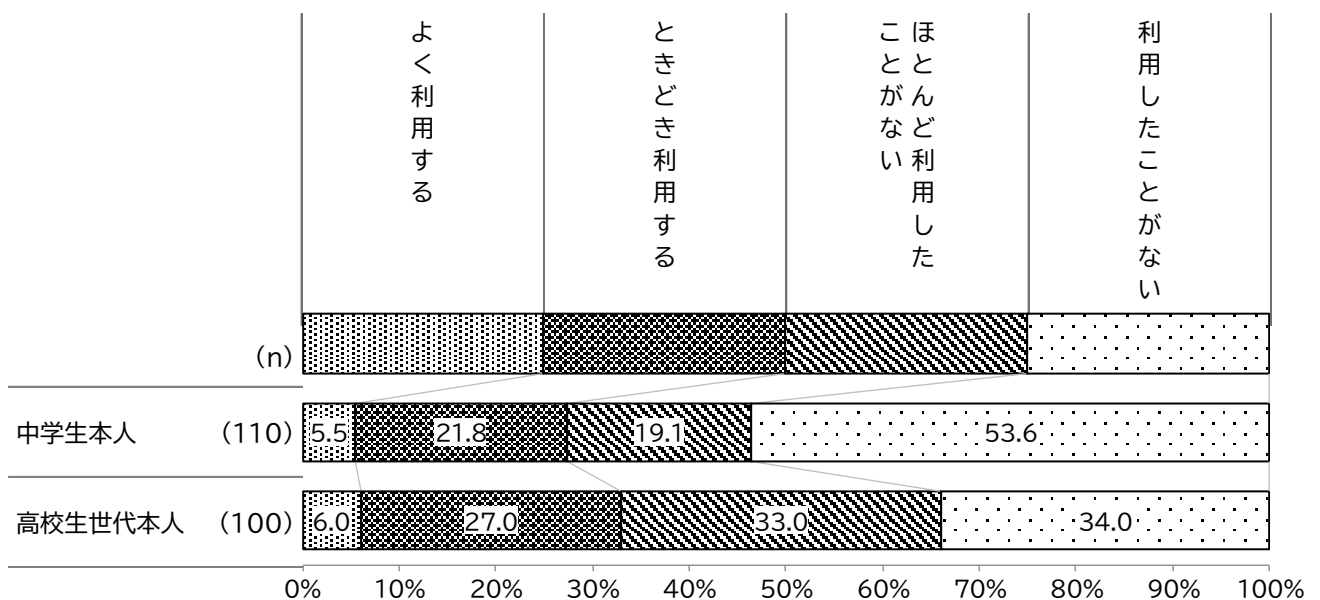
① 青少年プラザ(b-lab)の認知度

中学生本人及び高校生世代本人に青少年プラザ(b-lab)の認知度を尋ねたところ、ともに「知らない」が半数を超えている。



②【青少年プラザ(b-lab)を知っている人】青少年プラザ(b-lab)の利用頻度

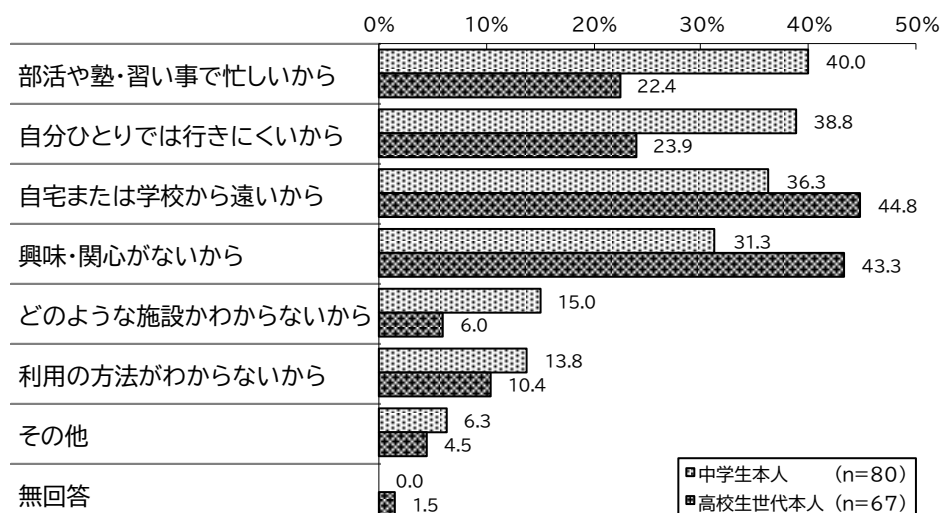
青少年プラザ(b-lab)を知っていると回答した人に同施設の利用頻度を尋ねたところ、「よく利用する」「ときどき利用する」を合わせた「利用する」の計は中学生本人が 27.3%、高校生世代本人が 33.0%となっている。



③【「ほとんど利用したことがない」「利用したことがない」回答者】

青少年プラザ(b-lab)を利用しない理由(複数回答)

青少年プラザ(b-lab)を利用しない理由については、中学生本人では「部活や塾・習い事で忙しいから」が 40.0%、高校生世代本人では「自宅または学校から遠いから」が 44.8%で最も多くなっている。

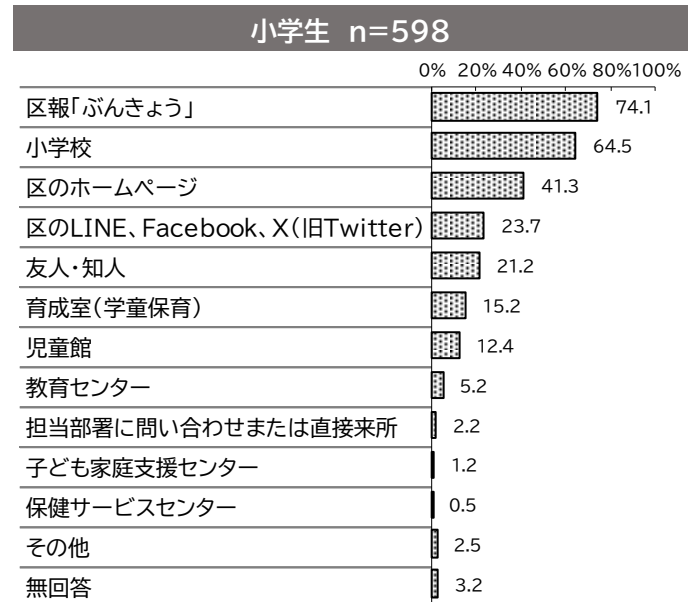
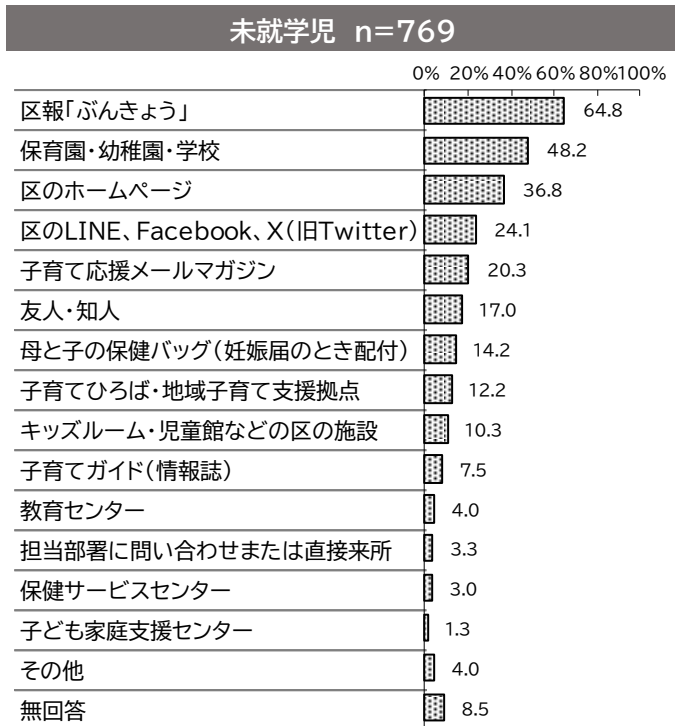


(4)子育て支援サービス情報の入手方法(複数回答)

未就学児 小学生

子育て支援サービス情報の入手方法については、未就学児の保護者は「区報『ぶんきょう』」が64.8%と最も多く、「保育園・幼稚園・学校」が48.2%、「区のホームページ」が36.8%の順となっている。

小学生の保護者では「区報『ぶんきょう』」が74.1%、「小学校」が64.5%、「区のホームページ」が41.3%の順となっている。



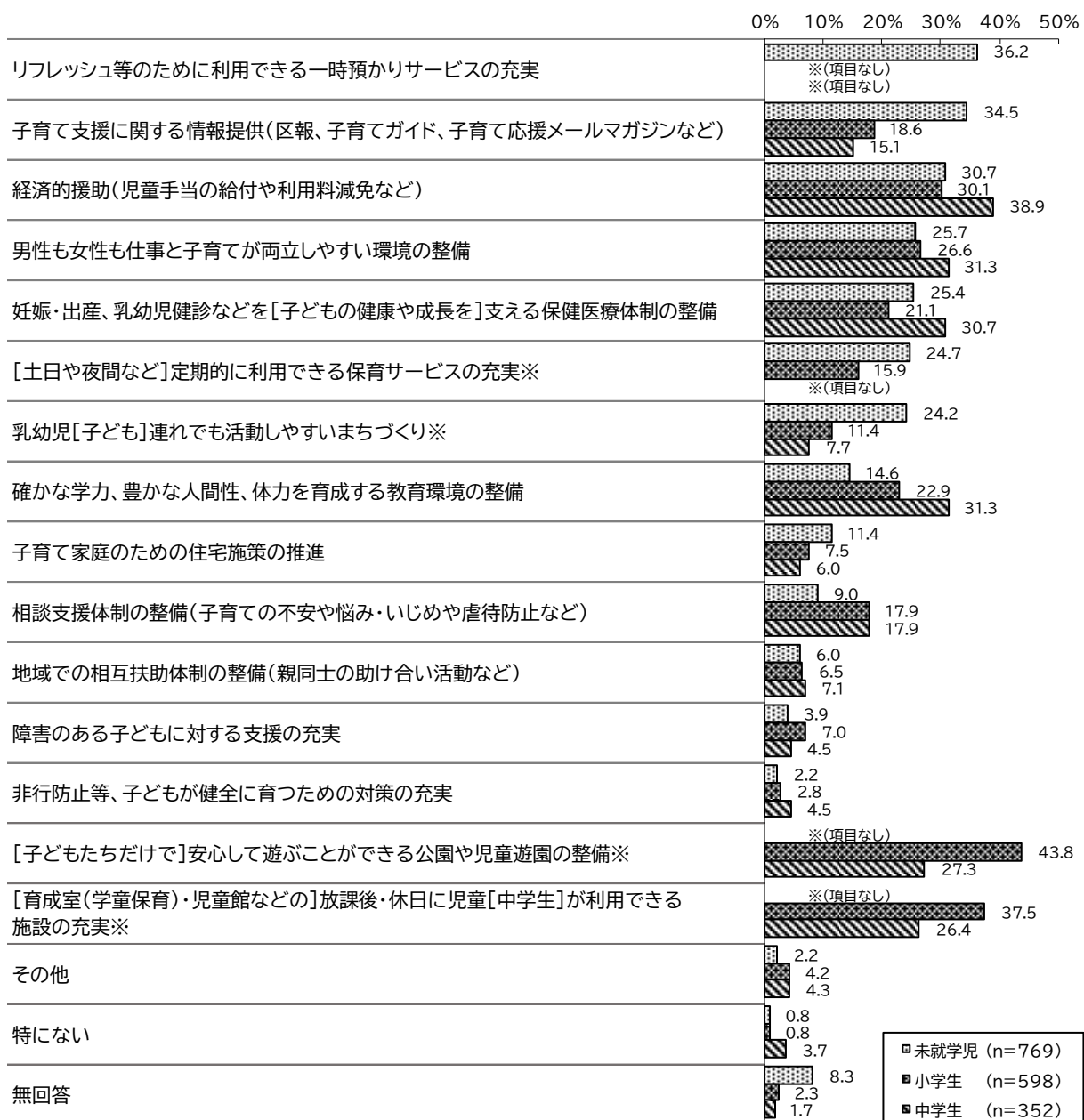
(5) 役立つ子育て支援の施設・サービス(3つ回答)

未就学児 小学生 中学生

役立つ子育て支援の施設・サービスについて尋ねたところ、未就学児の保護者は「リフレッシュ等のために利用できる一時預かりサービスの充実」、「子育て支援に関する情報提供(区報、子育てガイド、子育て応援メールマガジンなど)」及び「経済的援助(児童手当の給付や利用料免除など)」が3割を超えている。

小学生の保護者は「子どもたちだけで安心して遊ぶことができる公園や児童遊園の整備」が43.8%と最も多く、次いで「育成室(学童保育)・児童館などの放課後・休日に児童が利用できる施設の充実」が37.5%、「経済的援助(児童手当の給付や利用料減免など)」が30.1%の順となっている。

中学生の保護者は「経済的援助(児童手当の給付や利用料減免など)」が38.9%と最も多く、次いで「男性も女性も仕事と子育てが両立しやすい環境の整備」と「確かな学力、豊かな人間性、体力を育成する教育環境の整備」がともに31.3%の順となっている。



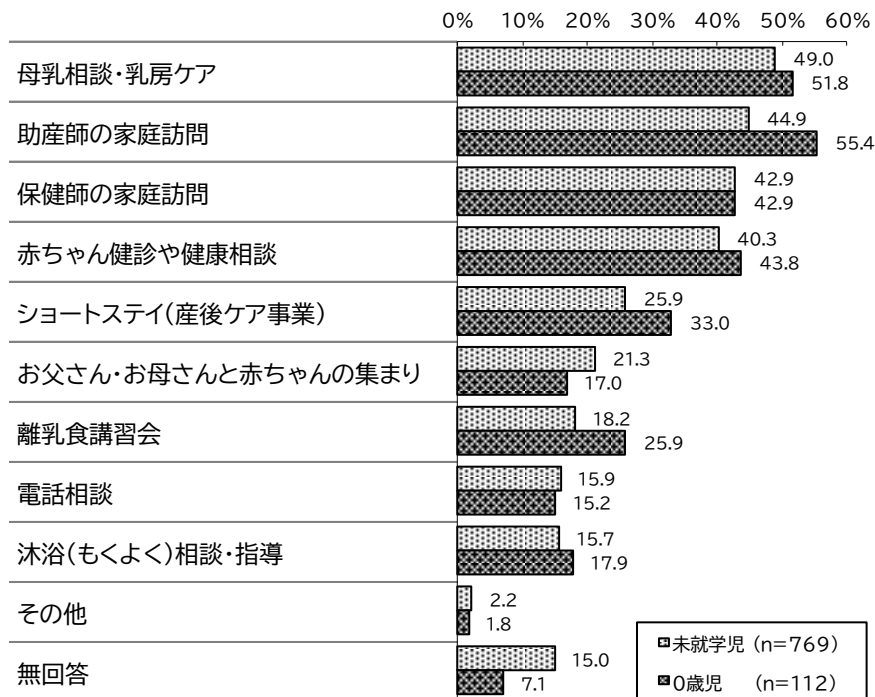
※選択肢内[]は、小学生、中学生で表現が異なる。

(6) 出産時から4か月健診までの間に受けてみたい保健サービス(複数回答)

未就学児

未就学児の保護者に対し、出産時から4か月健診までの間に受けてみたい保健サービスを尋ねたところ、「母乳相談・乳房ケア」が49.0%と最も多く、次いで「助産師の家庭訪問」44.9%、「保健師の家庭訪問」42.9%の順となっている。

4か月までの対象に最も近い0歳児の保護者のみでみると、「助産師の家庭訪問」が55.4%と最も多く、次いで「母乳相談・乳房ケア」51.8%、「赤ちゃん健診や健康相談」43.8%の順となっている。

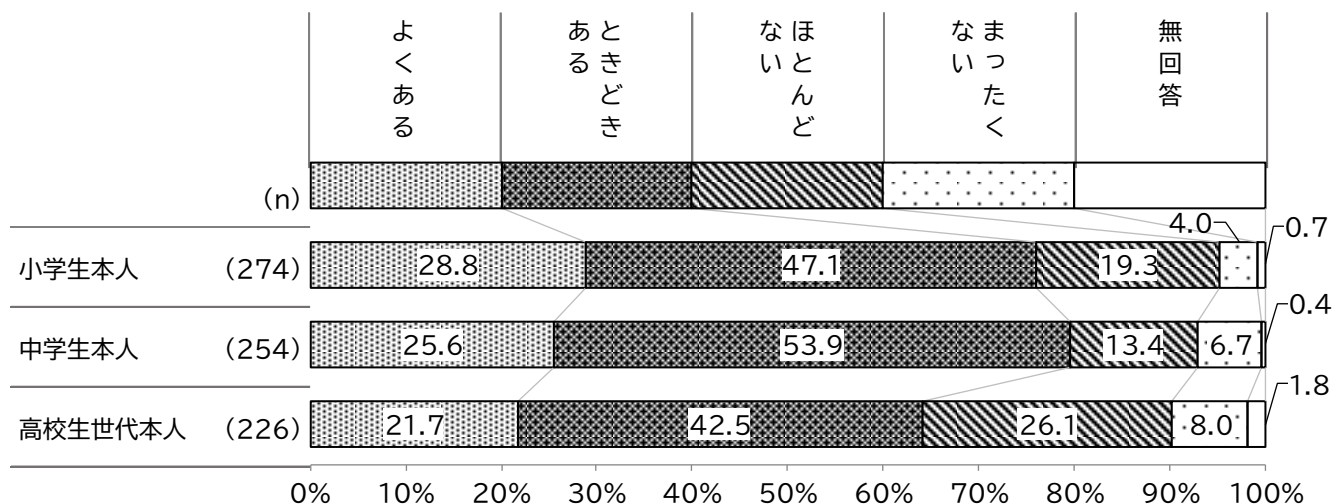


14 近所や地域との関わり方について

(1) 近所の人とのあいさつ・会話の程度

小学生本人 中学生本人 高校生世代本人

(子どもと)近所の人とのあいさつや会話の程度について尋ねたところ、小学生本人は「よくある」28.8%、「ときどきある」47.1%、中学生本人は「よくある」25.6%、「ときどきある」53.9%、高校生世代本人は「よくある」21.7%、「ときどきある」42.5%となっている。「よくある」と「ときどきある」の合計では小学生本人が75.9%、中学生本人が79.5%となっており、高校生世代本人の64.2%に比べて多くなっている。

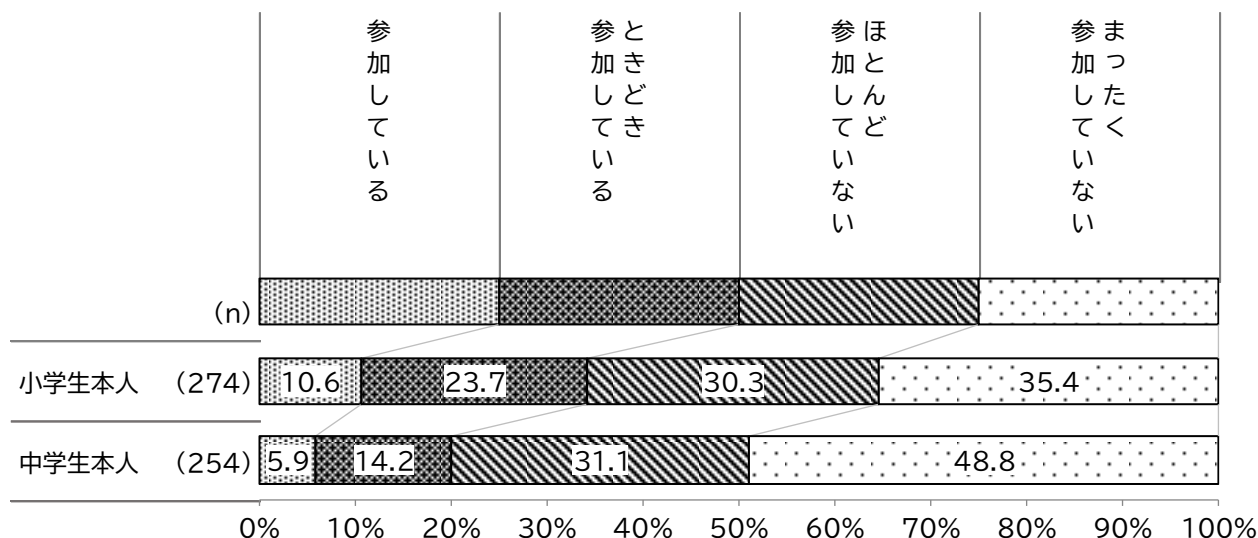


(2)地域活動・ボランティア活動の参加状況

小学生本人 中学生本人

地域活動・ボランティア活動の参加状況を尋ねたところ、小学生本人は「参加している」10.6%、「ときどき参加している」23.7%であり、これらの計が 34.3%となっている。中学生本人は「参加している」5.9%、「ときどき参加している」14.2%であり、これらの計が 20.1%となっている。

一方、「ほとんど参加していない」、「まったく参加していない」の計は、小学生本人が 65.7%、中学生本人が 79.9%となっている。

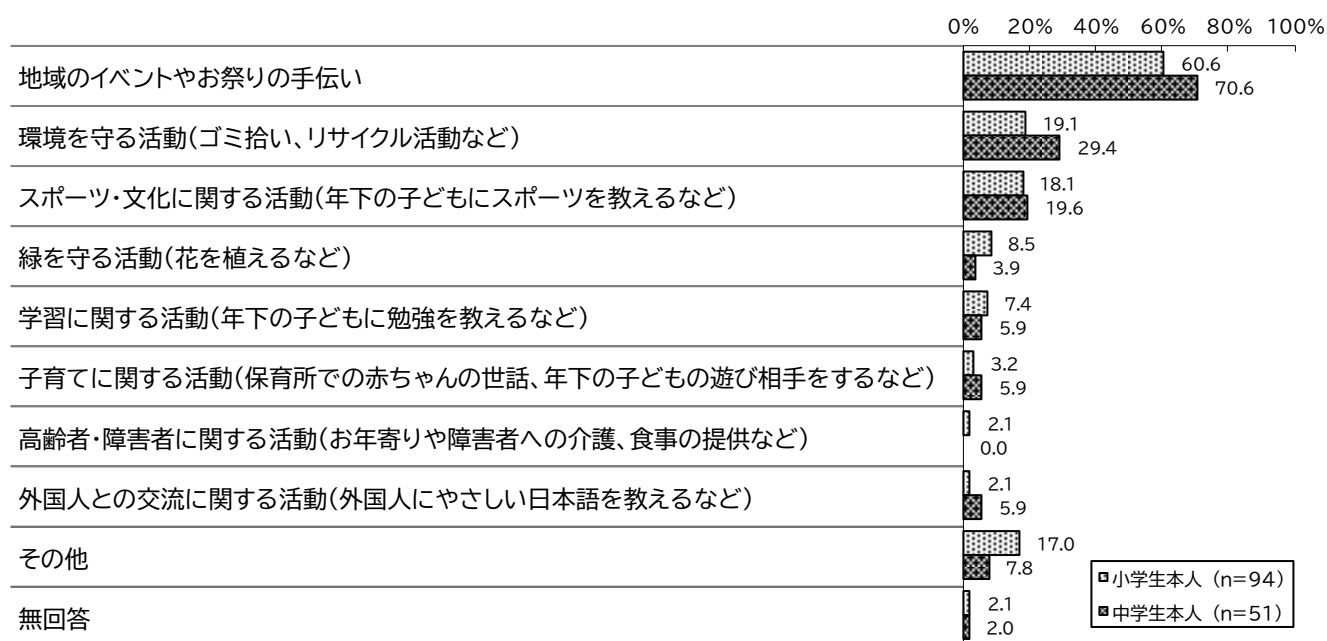


小学生本人 中学生本人 高校生世代本人

(3)参加している・参加してみたい地域活動・ボランティア活動(複数回答)

①小学生本人、中学生本人

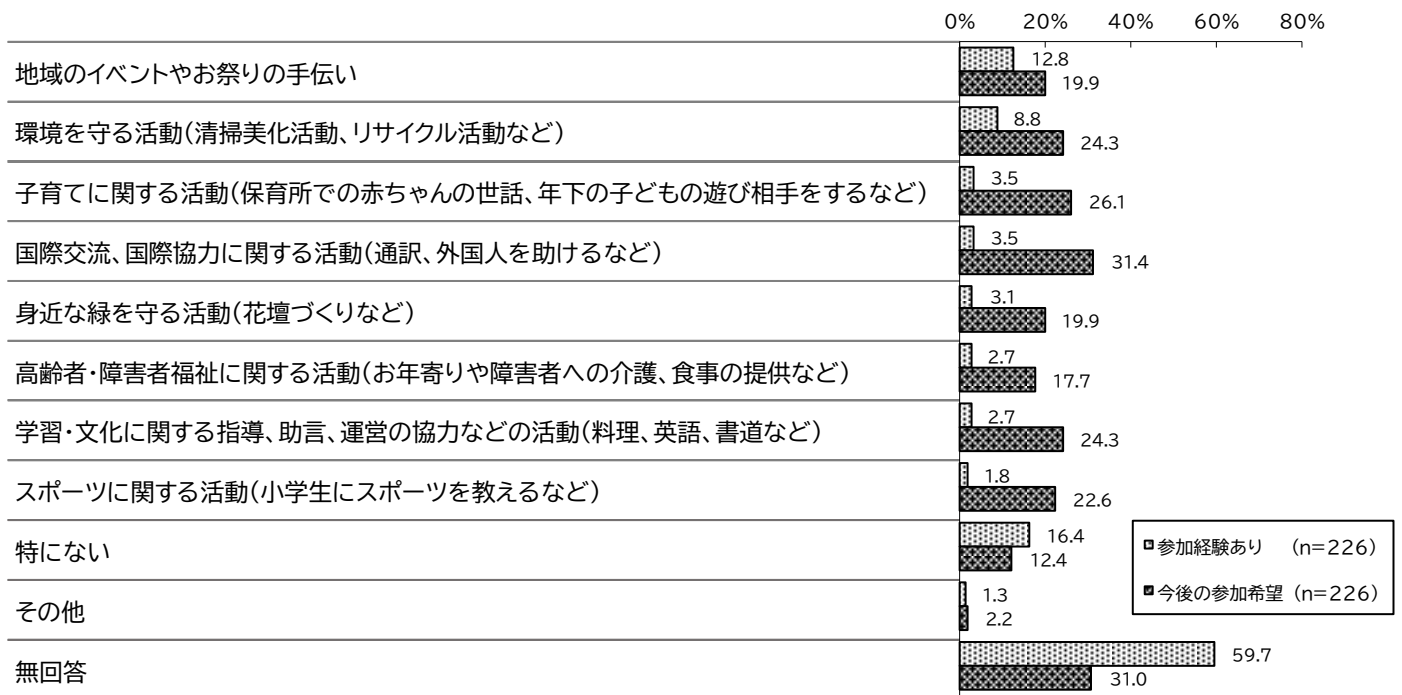
地域活動・ボランティア活動に「参加している」「ときどき参加している」と回答した小学生本人と中学生本人に、参加している活動内容について尋ねたところ、「地域のイベントやお祭りの手伝い」がそれぞれ 60.6%、70.6%で最も多く、次いで「環境を守る活動(ゴミ拾い、リサイクル活動など)」がそれぞれ 19.1%、29.4%となっている。



②高校生世代本人

高校生世代本人に地域活動・ボランティア活動への参加について尋ねたところ、「特にない」が現在の参加状況で16.4%と最も多くなっている。

今後の参加希望では「国際交流、国際協力に関する活動(通訳、外国人を助けるなど)」が31.4%と最も多くなっている。



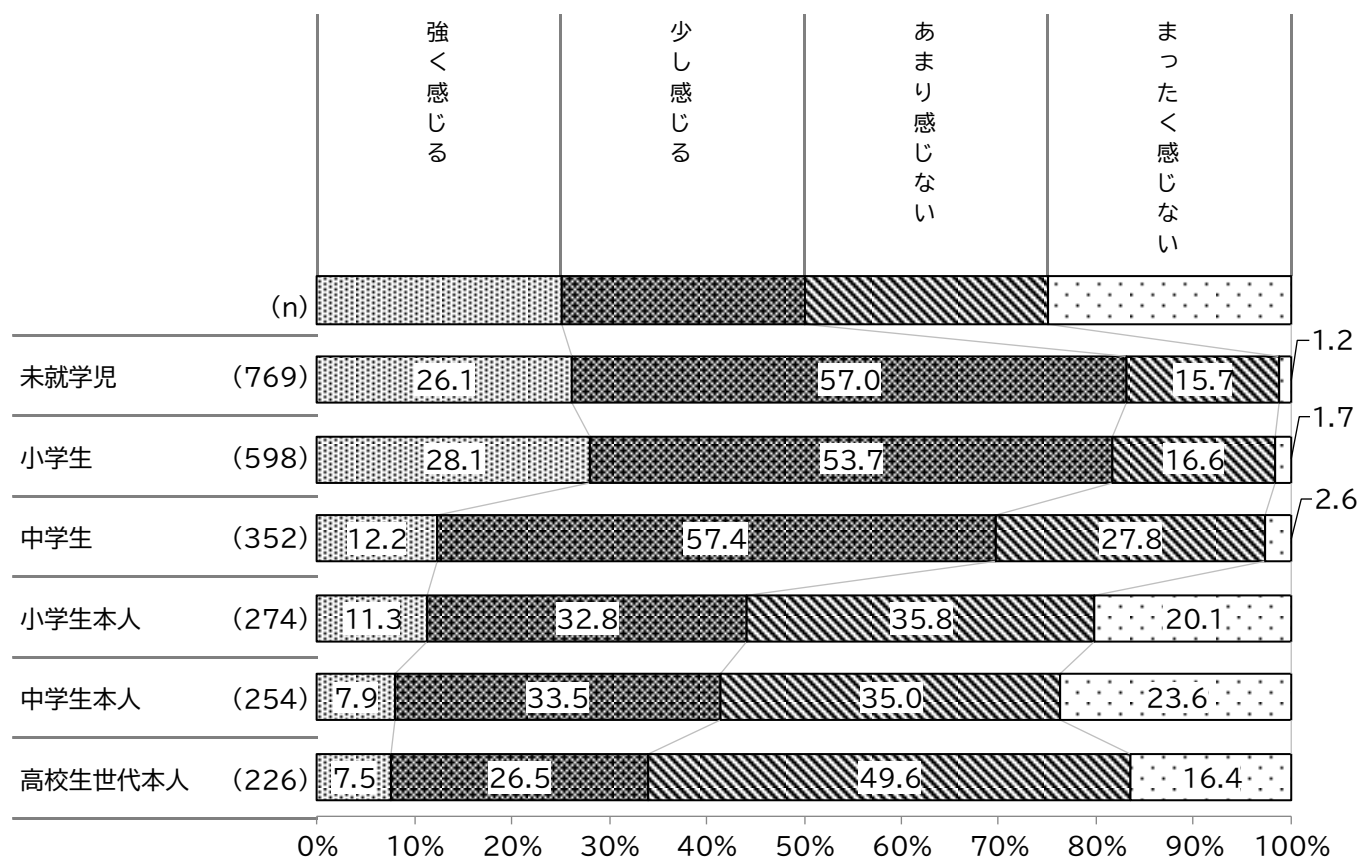
15 生活の安全・安心について

(1)子どもが事故や犯罪に巻き込まれる不安 未就学児 小学生 中学生 小学生本人 中学生本人 高校生世代本人

子どもが事故や犯罪に巻き込まれる不安については、未就学児の保護者は「強く感じる」26.1%、「少し感じる」57.0%と、「不安を感じる」計で 83.1%となっている。小学生の保護者では「強く感じる」28.1%、「少し感じる」53.7%と、「不安を感じる」計で 81.8%となっている。中学生の保護者では「強く感じる」12.2%、「少し感じる」57.4%と、「不安を感じる」計は 69.6%となっている。

一方、小学生本人は「強く感じる」11.3%、「少し感じる」32.8%と、「不安を感じる」計は 44.1%となっており、小学生の保護者と比較して不安を感じる割合が少なくなっている。

中学生本人は「強く感じる」7.9%、「少し感じる」33.5%と、「不安を感じる」計は 41.4%となっており、中学生の保護者と比較して不安を感じる割合が少なくなっている。高校生世代本人では「強く感じる」7.5%、「少し感じる」26.5%と、「不安を感じる」計は 34.0%となっている。



(2)【事故や犯罪に巻き込まれる不安「強く感じる」「少し感じる」回答者】

小学生本人 中学生本人

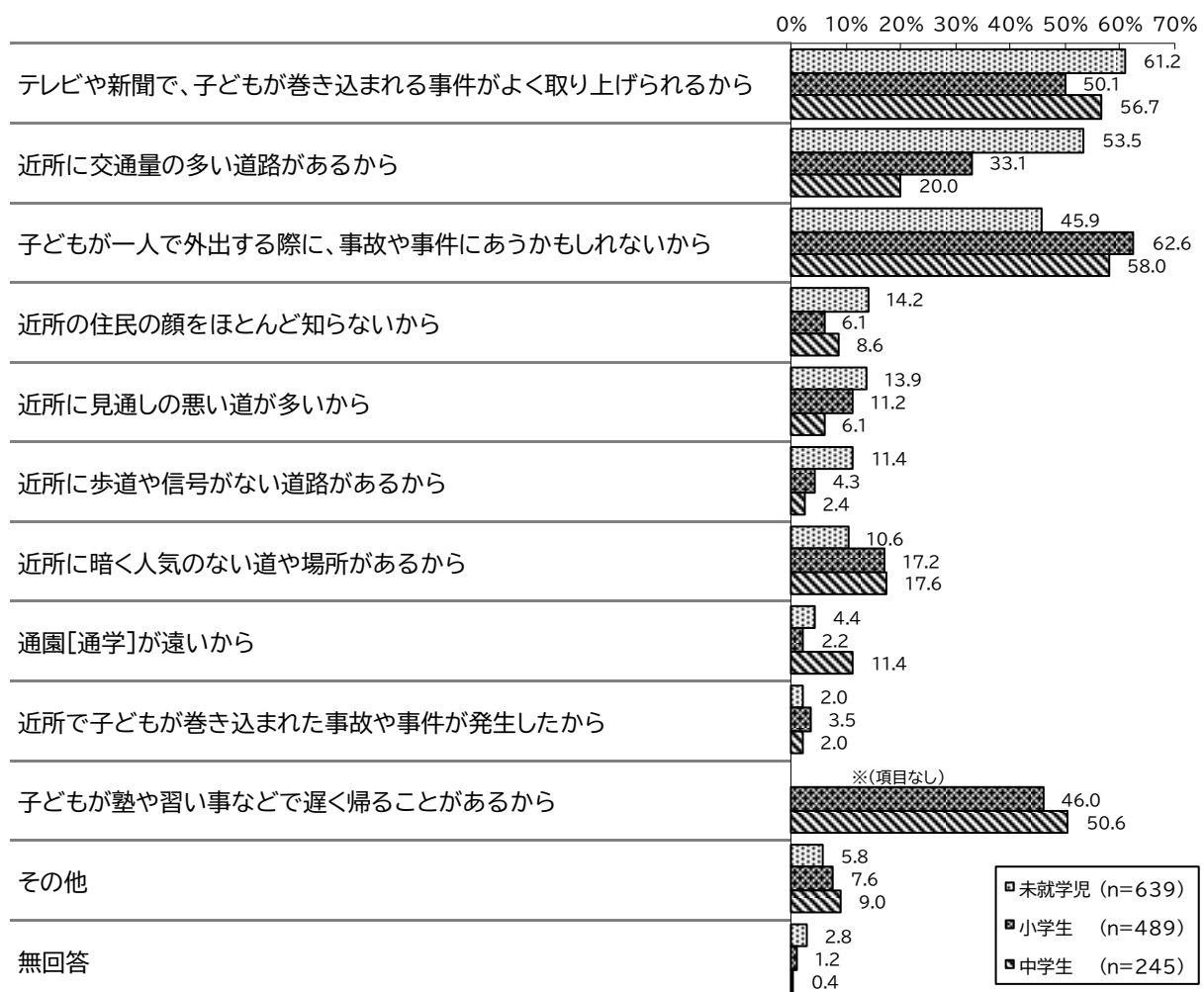
子どもが事故や犯罪に巻き込まれる不安を感じる理由(複数回答)

高校生世代本人

子どもが事故や犯罪に巻き込まれる不安を感じている人に、不安を感じる理由を尋ねたところ、未就学児の保護者は「テレビや新聞で、子どもが巻き込まれる事件がよく取り上げられるから」が61.2%と最も多く、次いで「近所に交通量の多い道路があるから」53.5%、「子どもが一人で外出する際に、事故や事件にあうかもしれないから」45.9%の順となっている。

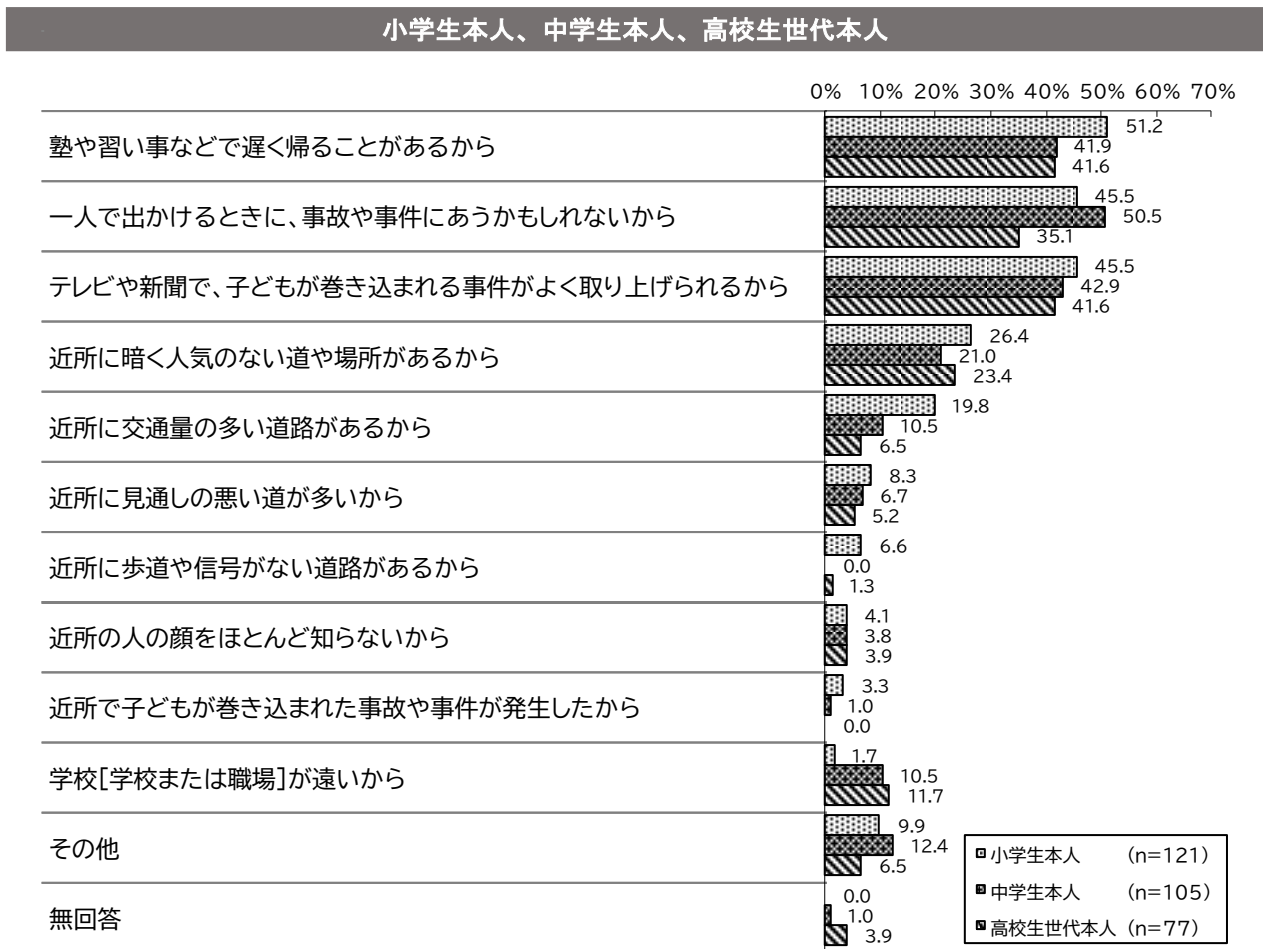
小学生、中学生の保護者は「子どもが一人で外出する際に、事故や事件にあうかもしれないから」がそれぞれ62.6%、58.0%と最も多く、「テレビや新聞で、子どもが巻き込まれる事件がよく取り上げられるから」がそれぞれ50.1%、56.7%、「子どもが塾や習い事などで遅く帰ることがあるから」がそれぞれ46.0%、50.6%の順となっている。

未就学児、小学生、中学生の保護者



※選択肢内[]は、小学生、中学生で表現が異なる。

小学生本人、中学生本人及び高校生世代本人においても、「塾や習い事などで遅く帰ることがあるから」「一人で出かけるときに、事故や事件にあうかもしれないから」「テレビや新聞で、子どもが巻き込まれる事件がよく取り上げられるから」が上位を占めている。



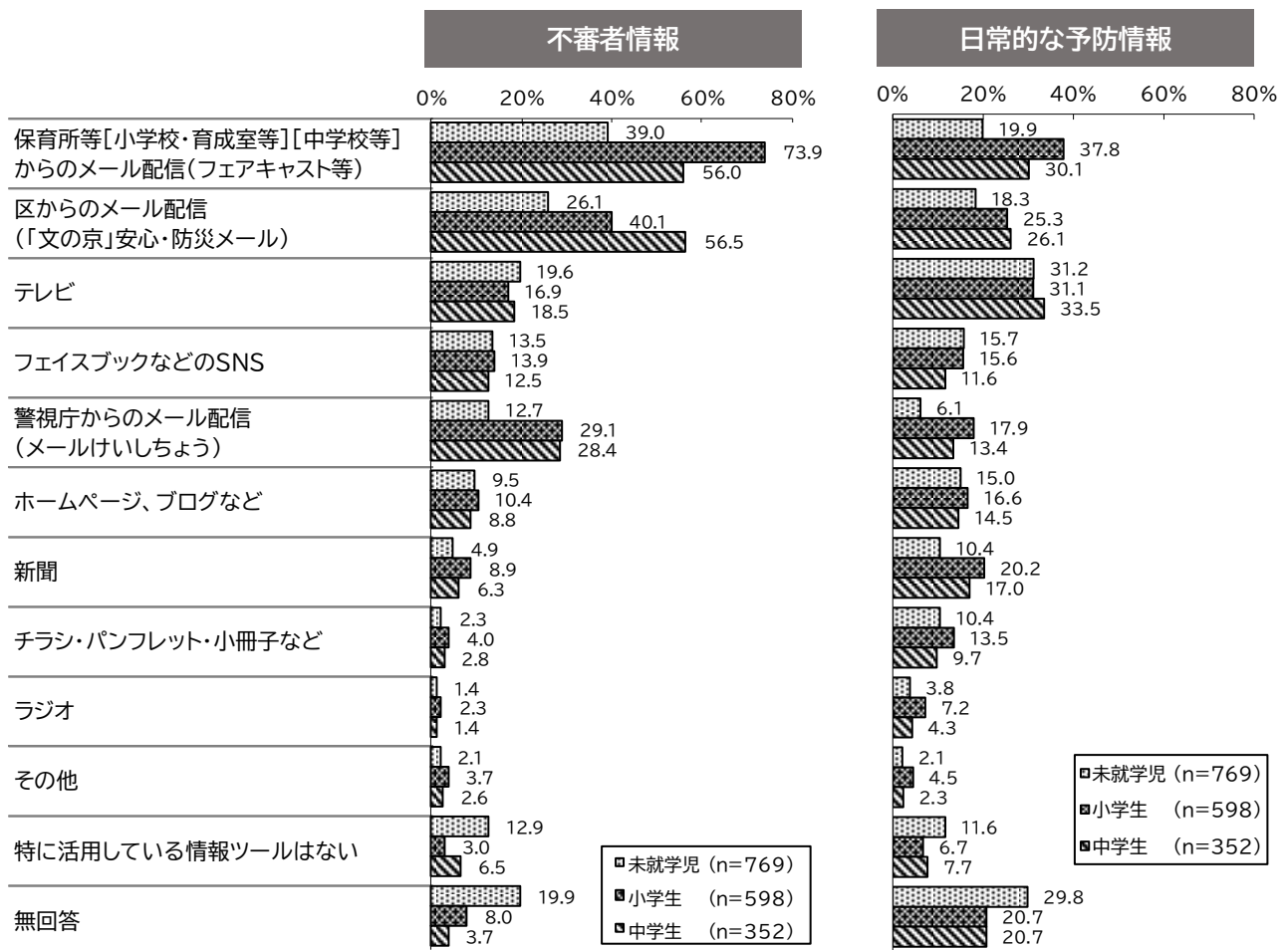
※選択肢内[]は、高校生世代本人で表現が異なる。

(3)子どもの安全や犯罪防止についての情報入手(収集)方法(複数回答)

未就学児 小学生 中学生

子どもの安全や犯罪防止についての情報入手(収集)方法を尋ねたところ、不審者情報は未就学児の保護者、小学生の保護者及び中学生の保護者ともに「保育所等[小学校・育成室等][中学校等]からのメール配信(フェアキャスト等)」「区からのメール配信(「文の京」安心・防災メール)」「警視庁からのメール配信(メールけいしちょう)」が上位を占めており、メールの活用が多いことがうかがえる。

一方、日常的な予防情報は、未就学児の保護者、小学生の保護者及び中学生の保護者ともに「保育所等[小学校・育成室等][中学校等]からのメール配信(フェアキャスト等)」「区からのメール配信(「文の京」安心・防災メール)」「テレビ」が上位を占めており、メールの活用に加え、マスメディアの活用率が相対的に高い傾向となっている。



※選択肢内[]は、小学生と中学生で表現が異なる。

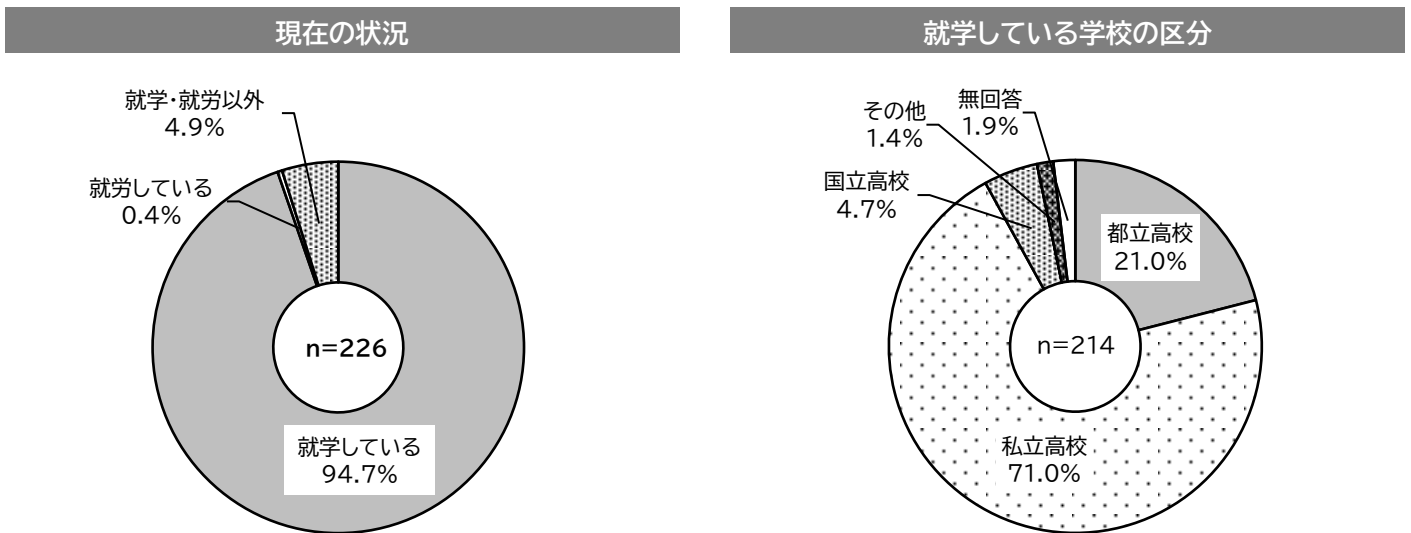
16 現在の就学・就労の状況、通学状況、進路に対する考え、困りごと

(1) 就学・就労の状況

高校生世代本人

高校生世代本人に現在の就学・就労の状況を尋ねたところ、「就学している」が 94.7%となっている。

また、「就学している」と回答した方の就学している学校の区分は、「私立高校」が 71.0%で最も多く、次いで「都立高校」が 21.0%となっている。なお、「専門学校」と「フリースクール」は 0.0%となっている。



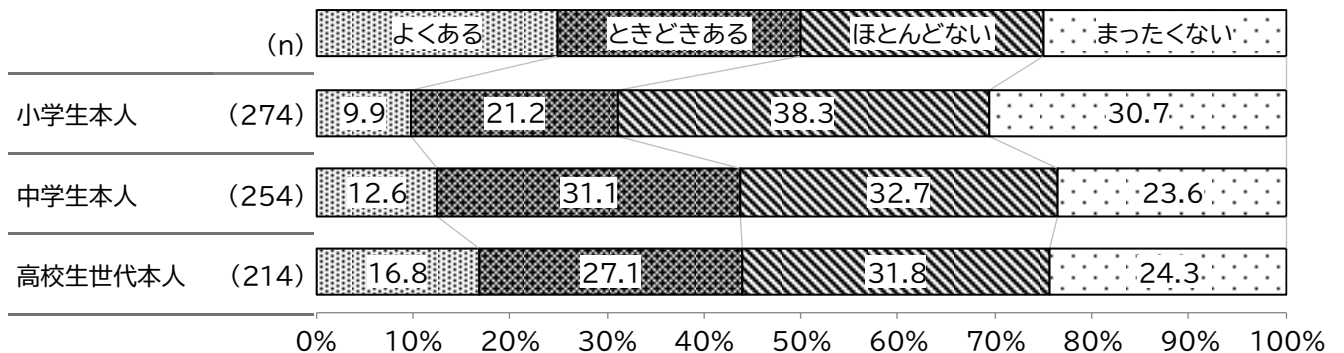
※就学・就労以外の内訳

- 「働いていないが、求職活動をしている」0.0%
- 「働いていないが、自分の趣味や用事などで外出している」2.7%
- 「外出はほとんどせず、自宅で過ごしている」1.3%
- 「自室からはほとんど出ずに過ごしている」0.0%
- 「その他」0.9%

(2) 【「就学している」人】学校に行きたくないと思ったことの有無

小学生本人 中学生本人 高校生世代本人

小学生本人、中学生本人及び就学している高校生世代本人に、「学校に行きたくないと思ったことの有無」について尋ねたところ、小学生本人では「よくある」9.9%、「ときどきある」21.2%と、「思ったことがある」の計は 31.1%となっている。中学生本人では「よくある」12.6%、「ときどきある」31.1%と、「思ったことがある」の計は 43.7%となっている。高校生世代本人では「よくある」16.8%、「ときどきある」27.1%と、「思ったことがある」の計は 43.9%となっている。



(3)【学校に行きたくないと考えたことが「よくある」「ときどきある」人】

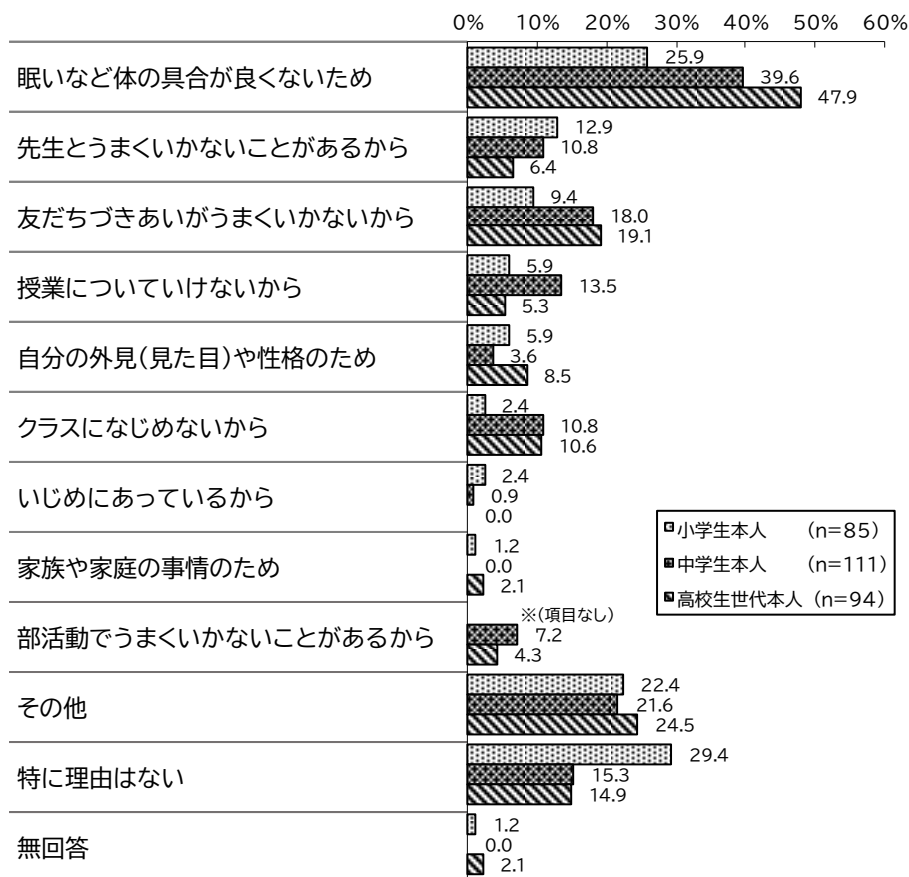
学校に行きたくないと考えた理由(複数回答)

小学生本人

中学生本人

高校生世代本人

学校に行きたくないと考えたことが「よくある」「ときどきある」と回答した方に、学校に行きたくないと考えた理由を尋ねたところ、小学生本人では「特に理由はない」が29.4%と最も多く、次いで「眠いなど体の具合が良くないため」が25.9%となっている。中学生本人と高校生世代本人では「眠いなど体の具合が良くないため」がそれぞれ39.6%、47.9%と最も多く、次いで「友だちづきあいがうまくいかないから」がそれぞれ18.0%、19.1%となっている。



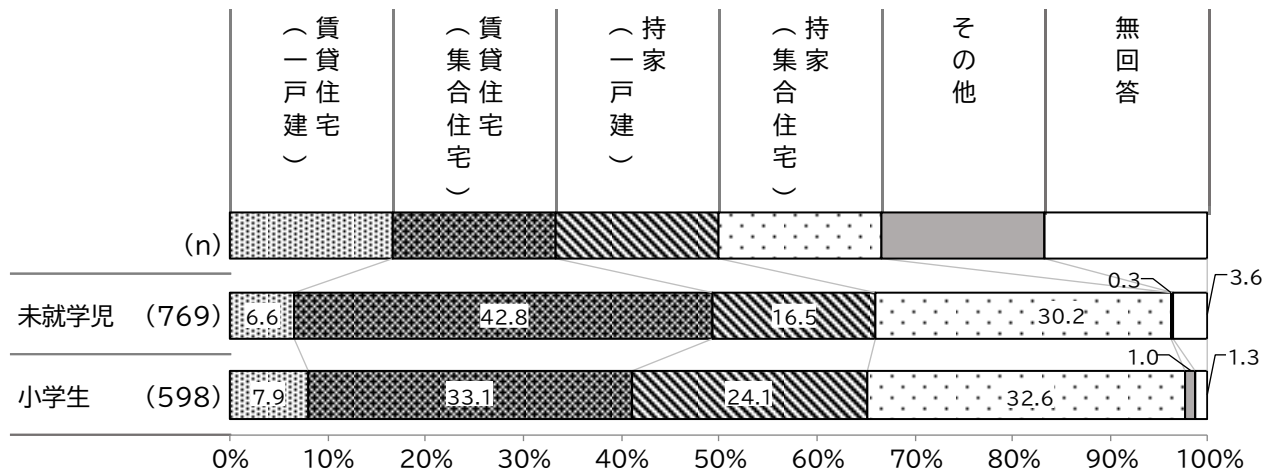
※その他: 疲れる、面倒、寝ていたい、勉強をしたくない、学校が遠いなど

17 住環境について

(1)現在の住まい

未就学児 小学生

現在の住まいについては、未就学児の保護者は「賃貸住宅(集合住宅)」が42.8%と最も多く、「持家(集合住宅)」30.2%、「持家(一戸建)」16.5%となっている。小学生の保護者は、「賃貸住宅(集合住宅)」33.1%、「持家(集合住宅)」32.6%、「持家(一戸建)」24.1%の順となっている。

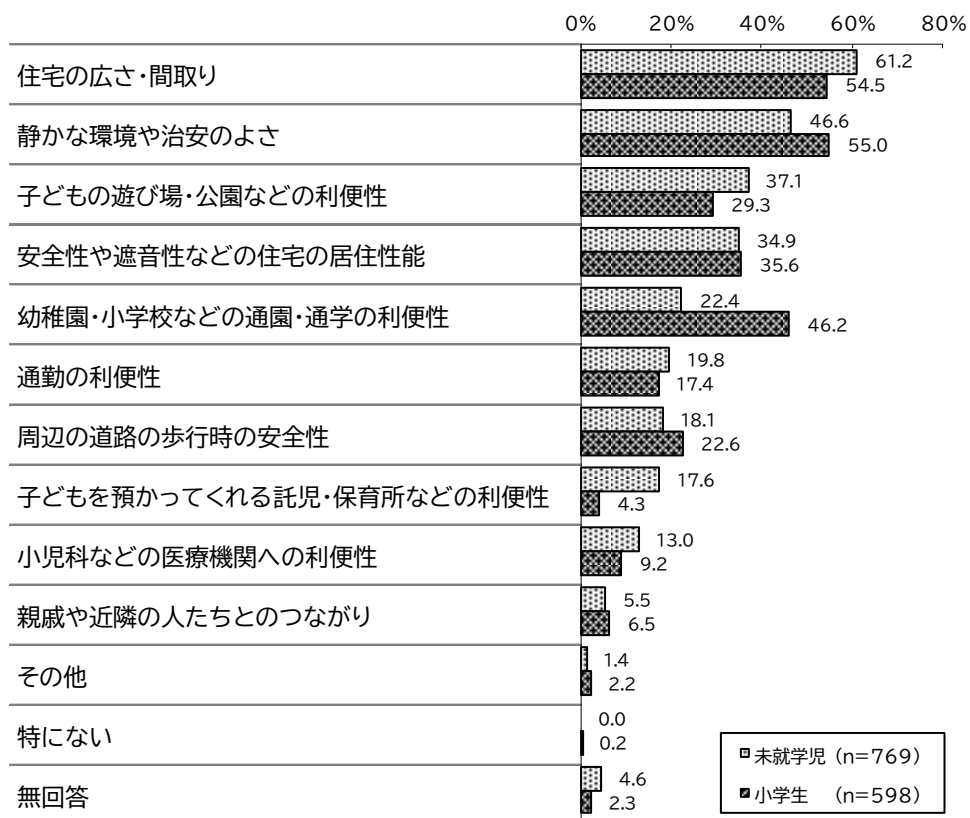


(2)子育てに重要と思う住宅や住宅周辺環境(3つ回答)

未就学児 小学生

子育てをする上で重要と思う住宅や住宅周辺環境について尋ねたところ、未就学児の保護者は「住宅の広さ・間取り」が61.2%と最も多くなっている。小学生の保護者は「静かな環境や治安のよさ」が55.0%と最も多くなっている。

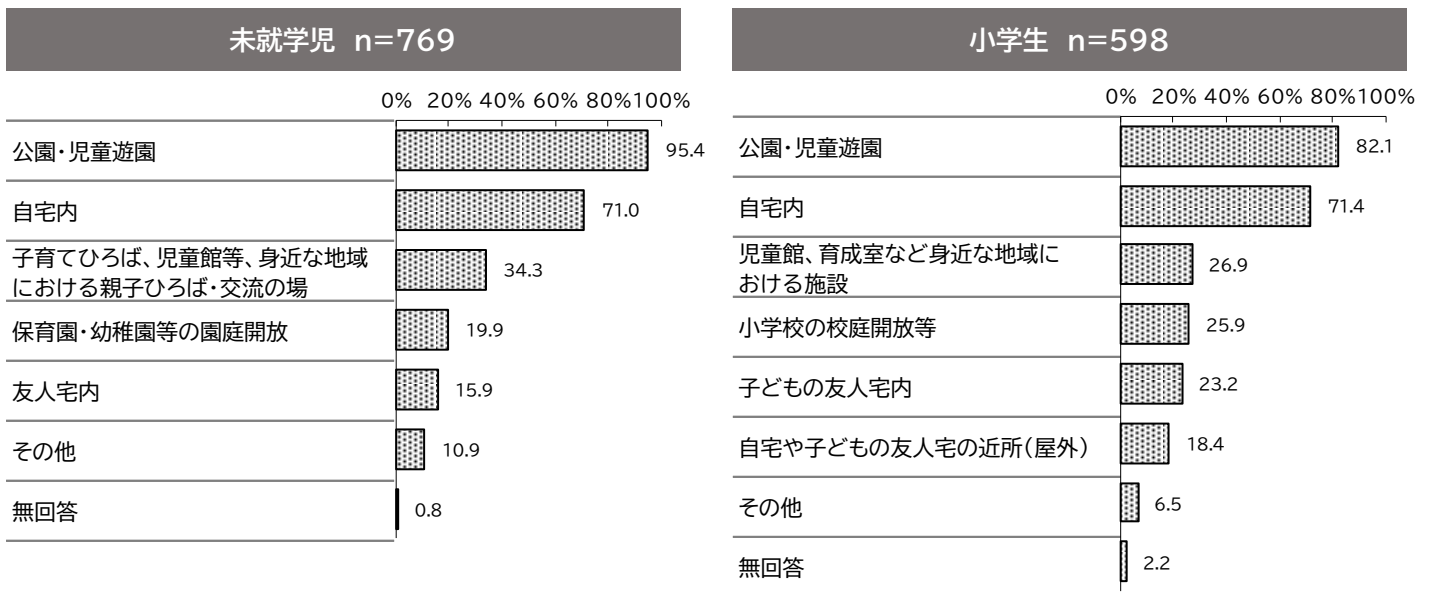
未就学児の保護者では次いで、「静かな環境や治安のよさ」46.6%、「子どもの遊び場・公園などの利便性」37.1%の順となっている。小学生の保護者では次いで「住宅の広さ・間取り」54.5%、「幼稚園・小学校などの通園・通学の利便性」46.2%の順となっている。



(3)子どもの遊び場としての利用場所(複数回答)

未就学児 小学生

子どもの遊び場としての利用場所を尋ねたところ、未就学児の保護者及び小学生の保護者は「公園・児童遊園」がそれぞれ 95.4%、82.1%と最も多く、次いで「自宅内」がそれぞれ 71.0%と、71.4%となっている。また、子育てひろば、児童館、育成室等の身近な地域における場や施設はそれぞれ 34.3%、26.9%となっている。



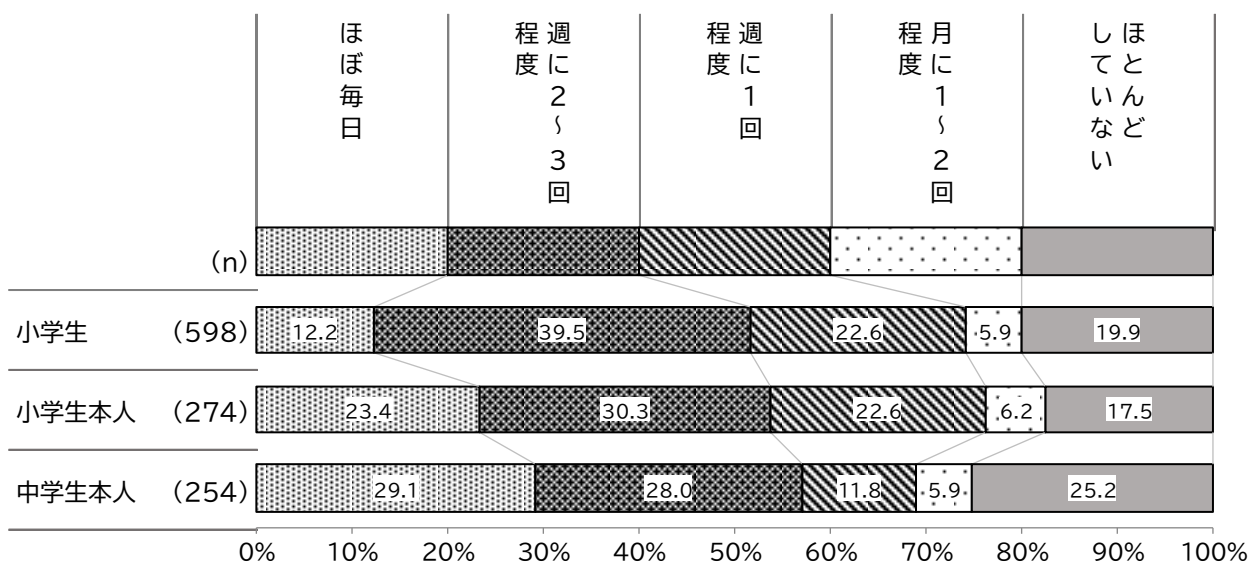
18 運動について

(1)運動する頻度

小学生 小学生本人 中学生本人

子どもが運動をする頻度について、小学生の保護者、小学生本人、中学生本人に尋ねたところ、小学生の保護者は「ほぼ毎日」12.2%、「週に2~3回程度」39.5%、「週に1回程度」22.6%、「月に1~2回程度」5.9%と「運動をしている」の計は 80.2%となっている。小学生本人は「運動をしている」の計が 82.5%となっている。

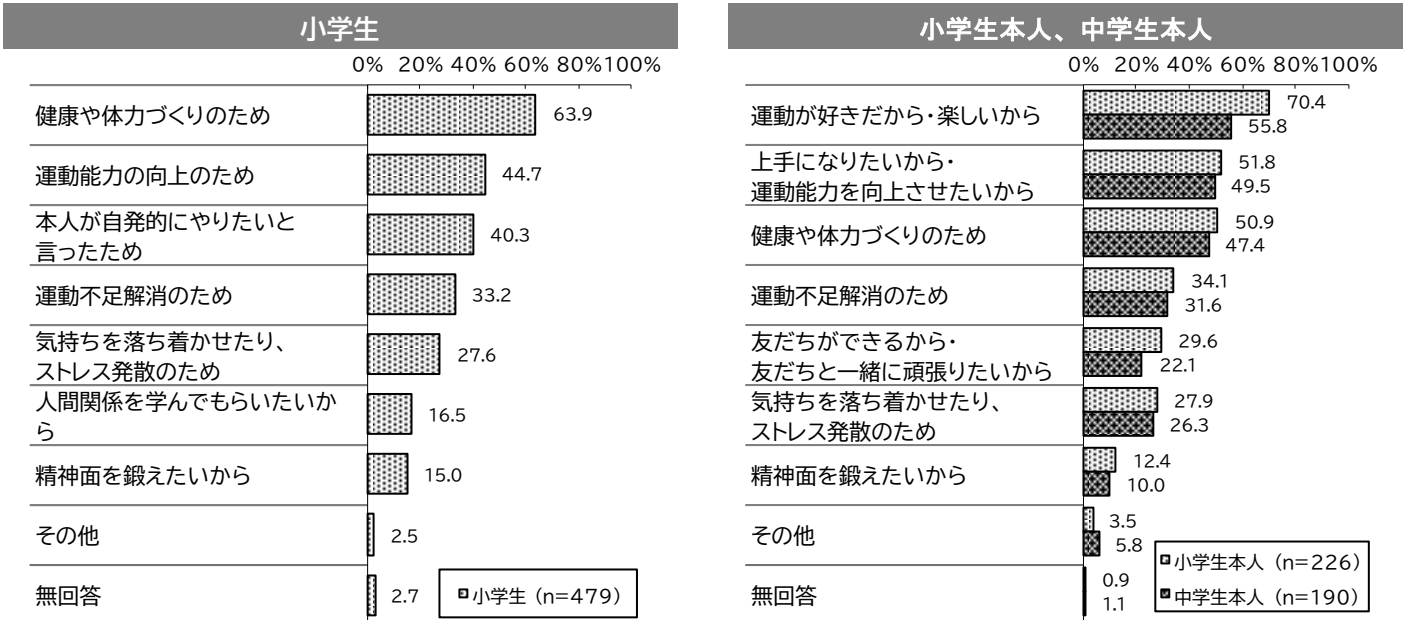
中学生本人は「ほぼ毎日」が 29.1%と小学生の保護者及び小学生本人に比べて多くなっているが、「運動をしている」の計では 74.8%と小学生の保護者及び小学生本人よりやや少なくなっている。



(2)【運動をする頻度「ほぼ毎日」～「月に1～2回程度」回答者】運動する理由(複数回答)

運動を「ほぼ毎日」～「月に1～2回程度」していると回答した小学生の保護者、小学生本人及び中学生本人に、運動する理由について尋ねたところ、小学生の保護者では「健康や体力づくりのため」が63.9%で最も多く、次いで「運動能力の向上のため」44.7%となっている。

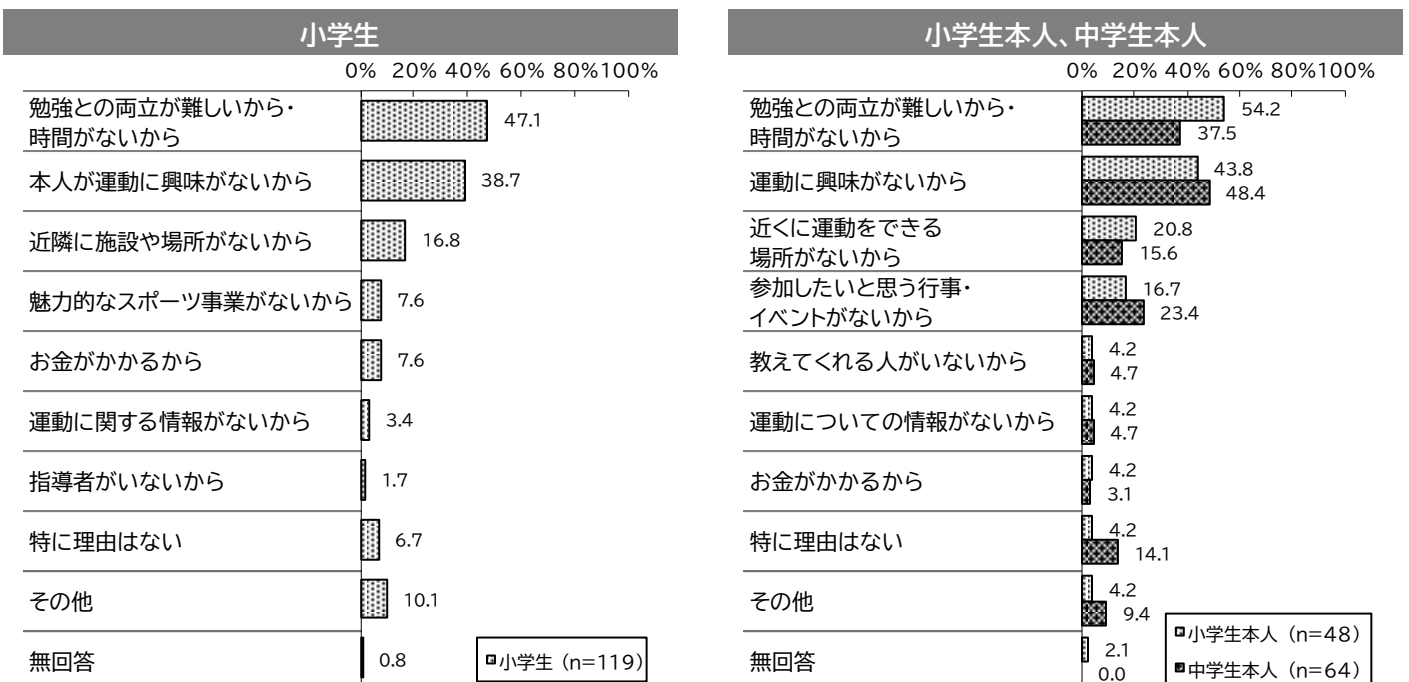
小学生本人と中学生本人では、「運動が好きだから・楽しいから」がそれぞれ70.4%、55.8%で最も多く、次いで「上手になりたいから・運動能力を向上させたいから」がそれぞれ51.8%、49.5%となっている。



(3)【運動「ほとんどしていない」回答者】運動をしていない理由(複数回答)

運動を「ほとんどしていない」と回答した小学生の保護者、小学生本人及び中学生本人に、運動しない理由を尋ねたところ、小学生の保護者では「勉強との両立が難しいから・時間がないから」が47.1%と最も多く、次いで「本人が運動に興味がないから」が38.7%となっている。小学生本人においても同様の項目が上位となっている。

中学生本人は「運動に興味がないから」が48.4%と最も多く、次いで「勉強との両立が難しいから・時間がないから」が37.5%となっている。



19 相談窓口について

小学生本人 中学生本人 高校生世代本人

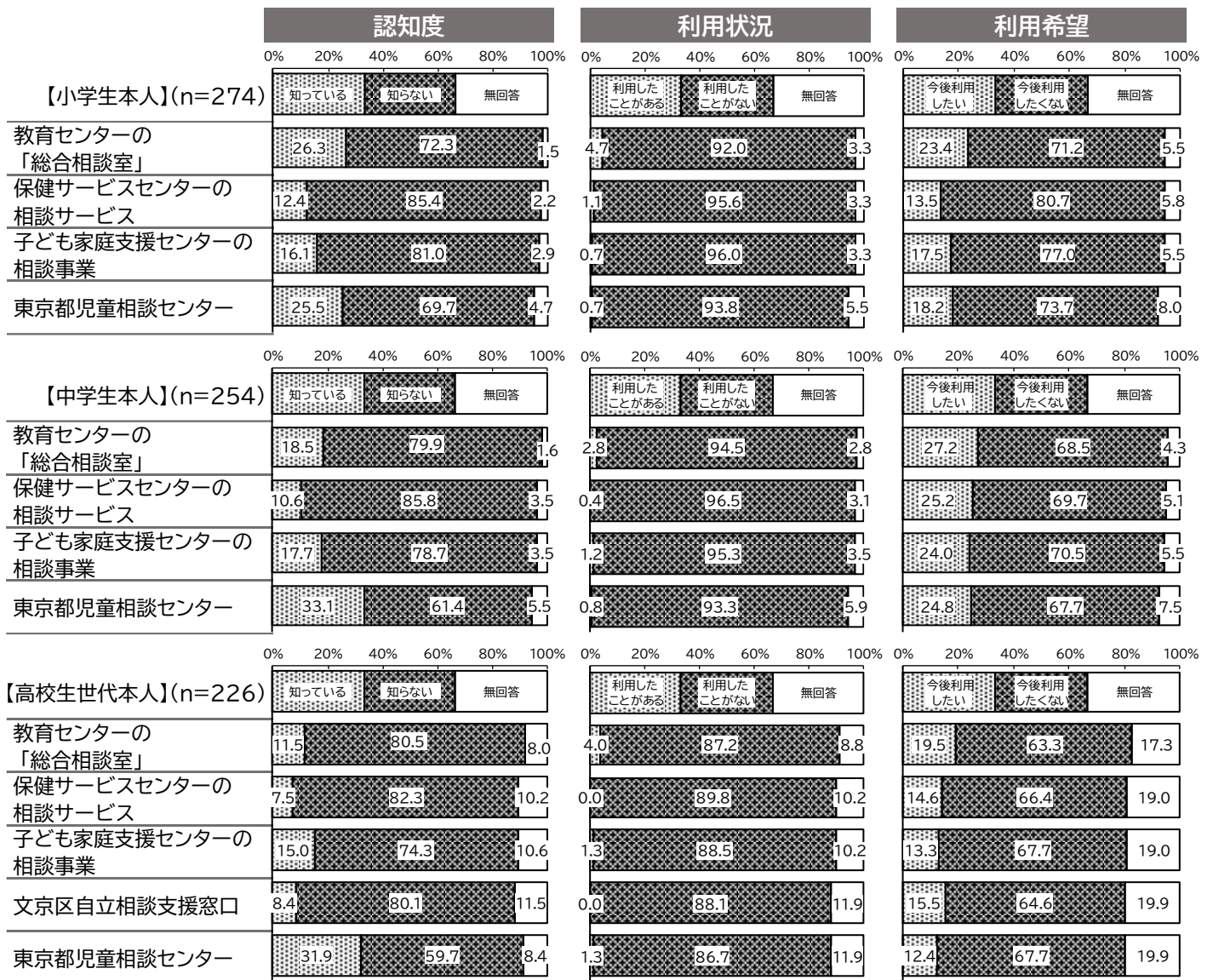
(1)相談窓口の認知度/利用状況/利用希望/利用したくない理由 就学援助小学生本人 就学援助中学生本人

①小学生本人、中学生本人、高校生世代本人

困ったときの相談窓口の認知度を尋ねたところ、「知っている」は、小学生本人で「教育センターの「総合相談室」」が26.3%と最も多く、「東京都児童相談センター」が25.5%と続いている。中学生本人と高校生世代本人で「東京都児童相談センター」がそれぞれ33.1%、31.9%と最も多くなっている。

これまでの利用状況を尋ねたところ、「利用したことがない」は、小学生本人と中学生本人で全ての窓口で9割以上、高校生世代本人では8割以上となっている。

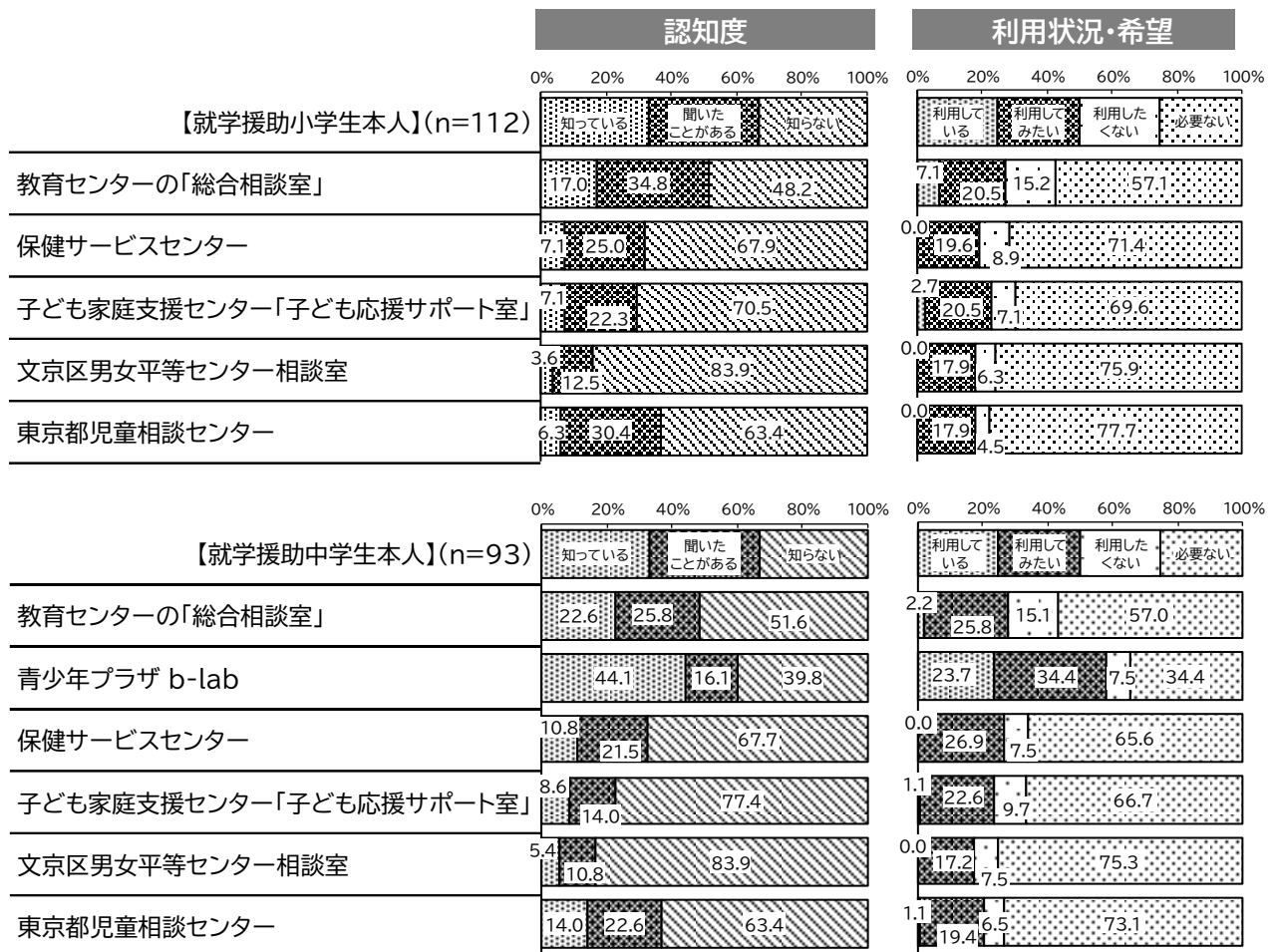
今後の利用希望を尋ねたところ、「今後利用したい」は、小学生本人で「教育センターの「総合相談室」」が23.4%と最も多くなっている。中学生本人と高校生世代本人では全ての窓口でそれぞれ3割未満、2割未満となっている。



②就学援助受給世帯小学生本人、就学援助受給世帯中学生本人

困ったときの相談窓口の認知度を尋ねたところ、「知っている」は、就学援助受給世帯小学生本人で「教育センターの「総合相談室」」が 17.0%と最も多くなっている。就学援助受給世帯中学生本人では「青少年プラザ b-lab」が 44.1%と最も多くなっている。

利用状況及び今後の利用希望を尋ねたところ、「利用してみたい」は、就学援助受給世帯小学生本人は全ての窓口で約2割となっている。就学援助受給世帯中学生本人では「青少年プラザ b-lab」が 34.4%と最も多くなっている。



就学援助受給世帯小学生本人が相談窓口を利用したくない理由としては、知らない人と話したくない、わからない、特になし等が挙げられ、回答数はそれぞれ教育センターの「総合相談室」が7件、保健サービスセンターが4件、子ども家庭支援センター「子ども応援サポート室」が3件、文京区男女平等センター相談室が2件、東京都児童センターが1件であった。

就学援助受給世帯中学生本人が相談窓口を利用したくない理由としては、よく知らないから、話しても変わらない、よくわからない等が挙げられ、回答数はそれぞれ教育センターの「総合相談室」が8件、青少年プラザ b-lab が2件、保健サービスセンターが2件、子ども家庭支援センター「子ども応援サポート室」が3件、文京区男女平等センター相談室が3件、東京都児童センターが3件であった。

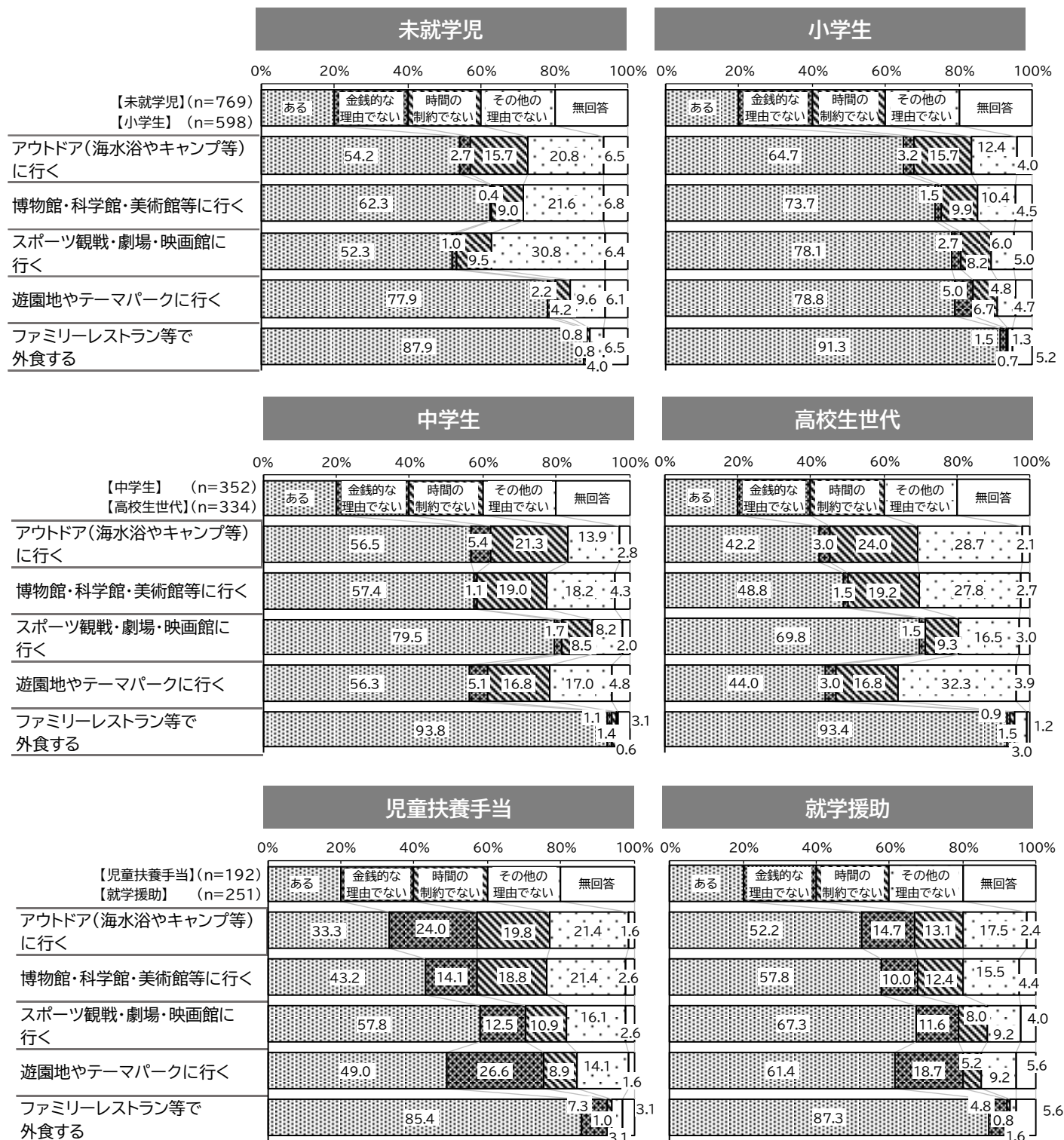
20 体験や経済的にできないこと・ないことについて

(1) 過去1年における家庭での体験

未就学児 小学生 中学生 高校生世代 児童扶養手当 就学援助

家庭での体験について尋ねたところ、「金銭的な理由でない」は未就学児、小学生、中学生及び高校生世代の保護者でいずれも1割未満となっている。一方で、児童扶養手当受給保護者と就学援助受給世帯保護者においては、「ファミリーレストラン等で外食する」以外の項目で1～2割以上となっている。

また、「時間の制約でない」は、小学生、中学生、高校生世代と年齢が上がるほど多くなる傾向がみられる。

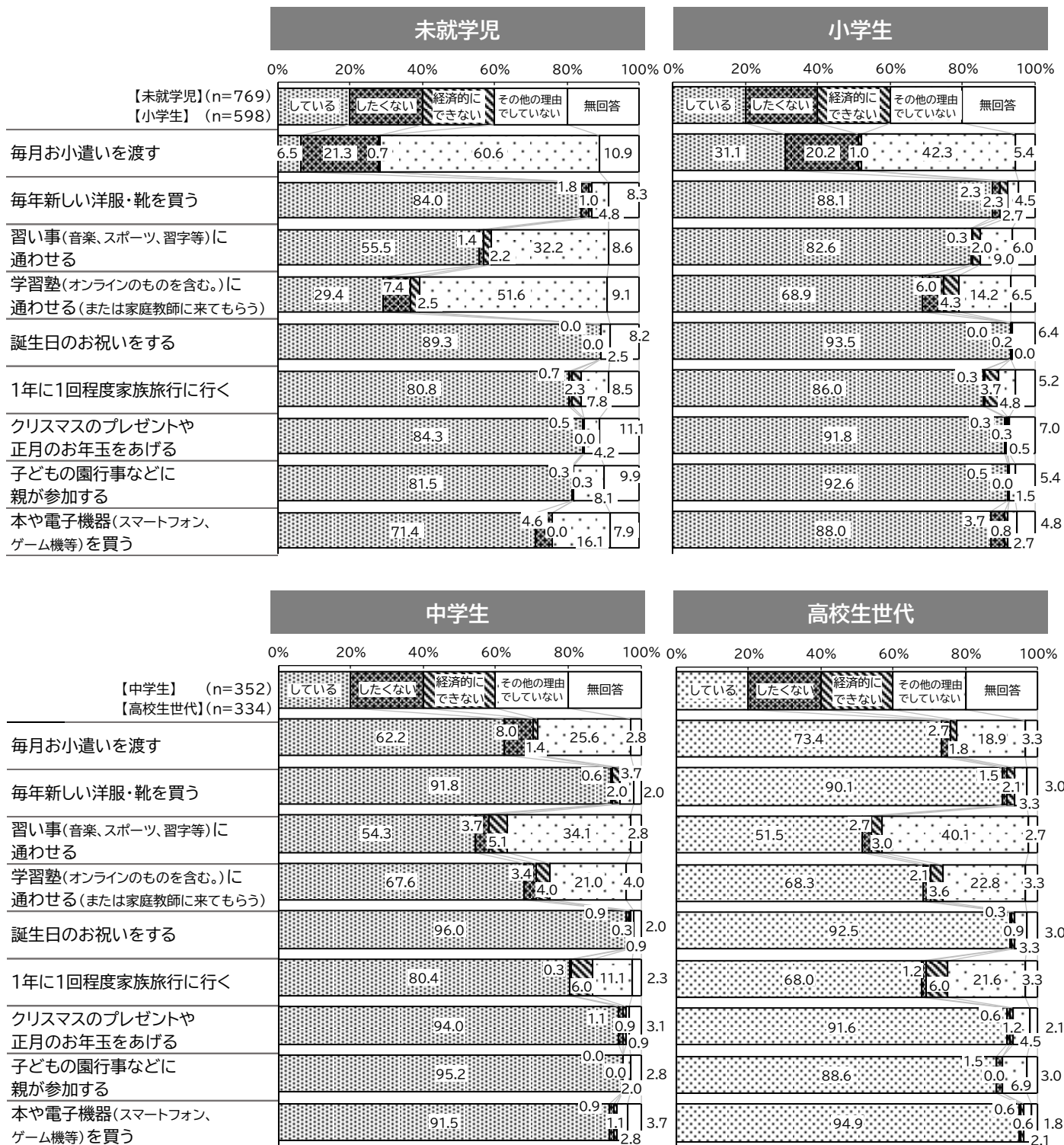


(2)家庭において経済的にできないもの

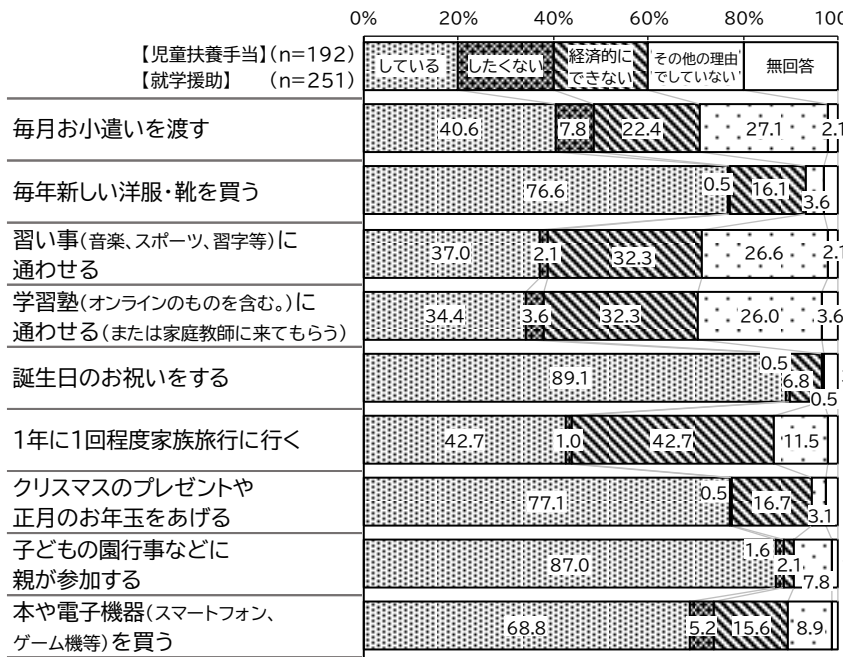
未就学児 小学生 中学生 高校生世代 児童扶養手当 就学援助

家庭においてできないものを尋ねたところ、未就学児、小学生、中学生及び高校生世代の保護者で「経済的にできない」と答えた方は、いずれの項目でも1割未満となっている。

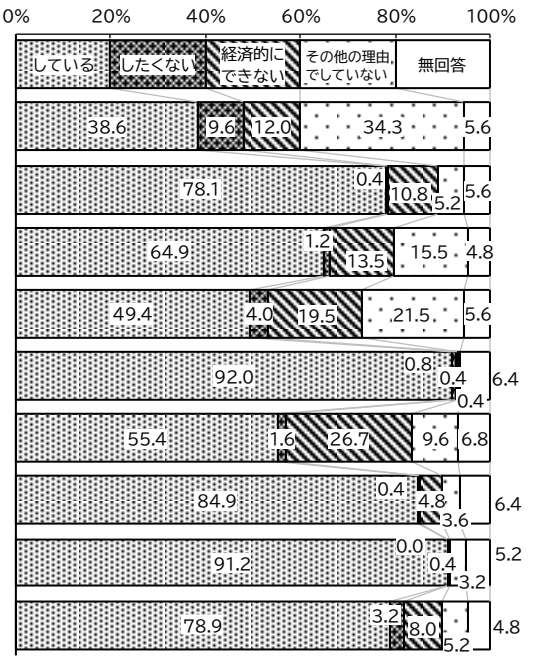
また、児童扶養手当受給保護者と就学援助受給世帯保護者で「経済的にできない」と回答があった項目としては、「1年に1回程度家族旅行に行く」がそれぞれ 42.7%、26.7%で最も多く、次いで「学習塾(オンラインのものを含む。)通わせる(または家庭教師に来てもらう)」がそれぞれ 32.3%、19.5%となっている。加えて、児童扶養手当受給保護者では「習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる」も同率で 32.3%となっている。



児童扶養手当

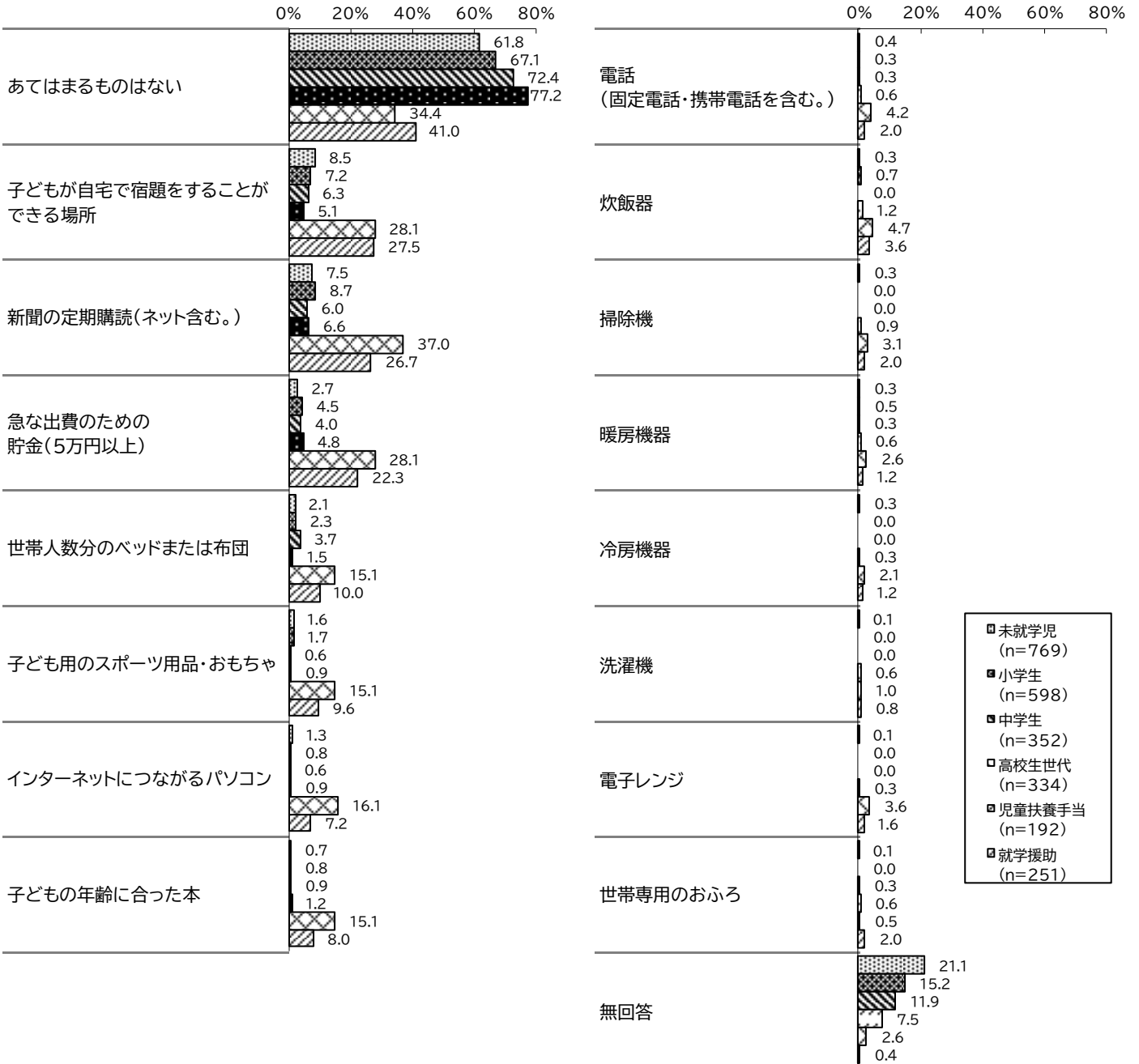


就学援助



(3)家庭において金銭的理由のためでないもの(複数回答)

家庭にないものを尋ねたところ、未就学児、小学生、中学生、高校生世代の保護者と就学援助受給世帯保護者ともに「あてはまるものはない」が多くなっている。一方、児童扶養手当受給保護者では「新聞の定期購読(ネット含む。)」が多くなっている。次いで、未就学児、中学生の保護者と就学援助受給世帯保護者は「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」、小学生と高校生世代の保護者は「新聞の定期購読(ネット含む。)」、児童扶養手当受給保護者は「あてはまるものはない」が多くなっている。



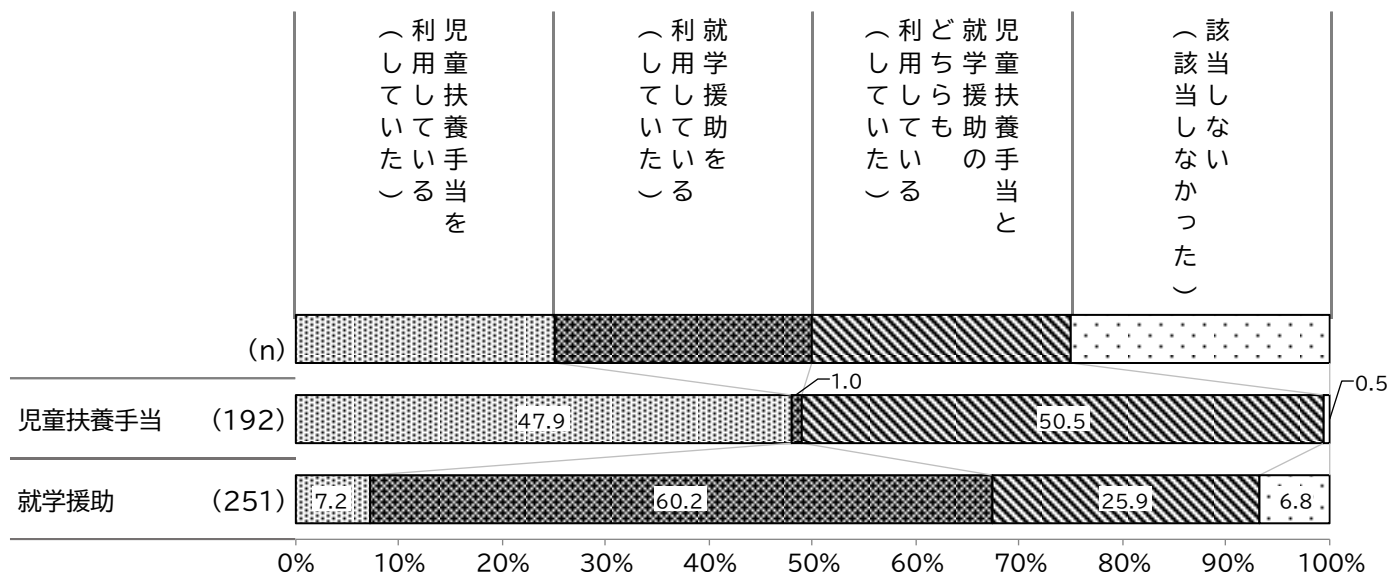
21 体験や経済的にできないこと・ないことについて

(1) 児童扶養手当または就学援助の利用状況

児童扶養手当 就学援助

利用している制度について尋ねたところ、児童扶養手当受給保護者は「児童扶養手当を利用している(していた)」と「児童扶養手当と就学援助のどちらも利用している(していた)」が約5割となっている。

就学援助受給世帯保護者は「就学援助を利用している(していた)」が60.2%、「児童扶養手当と就学援助のどちらも利用している(していた)」が25.9%となっている。



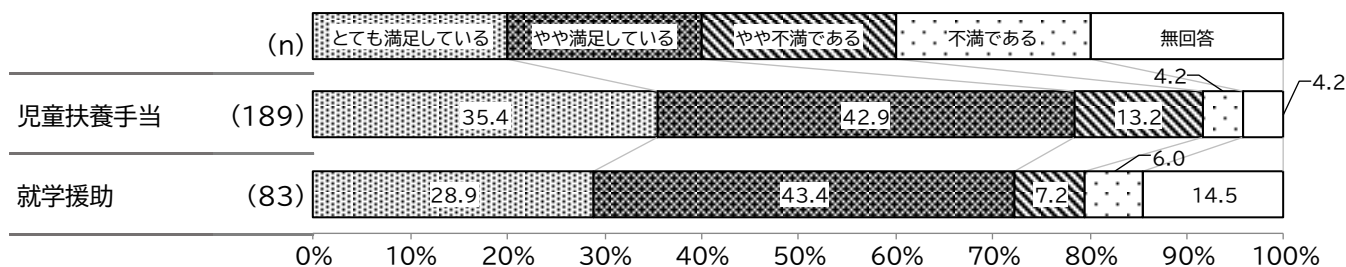
(2) 児童扶養手当または就学援助の満足度

児童扶養手当 就学援助

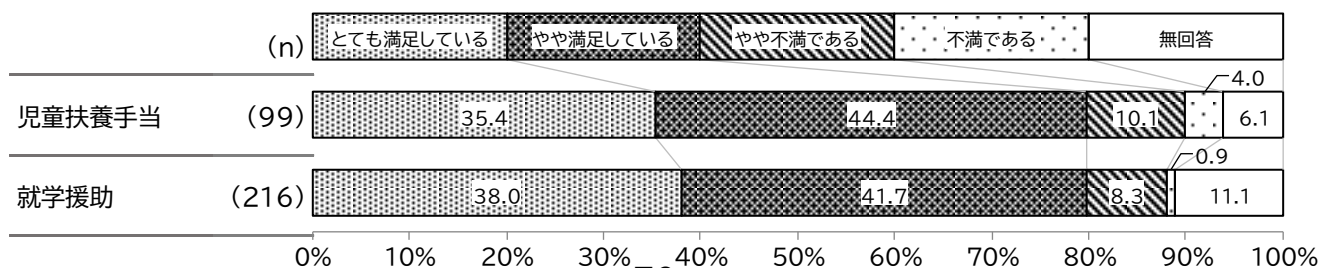
児童扶養手当の満足度について尋ねたところ、児童扶養手当受給保護者及び就学援助受給世帯保護者は「やや満足している」がそれぞれ42.9%、43.4%と最も多く、次いで「とても満足している」がそれぞれ35.4%、28.9%となっている。

就学援助の満足度については、児童扶養手当受給保護者及び就学援助受給世帯保護者は「やや満足している」がそれぞれ44.4%、41.7%と最も多く、次いで「とても満足している」がそれぞれ35.4%、38.0%となっている。

【児童扶養手当の満足度】



【就学援助の満足度】



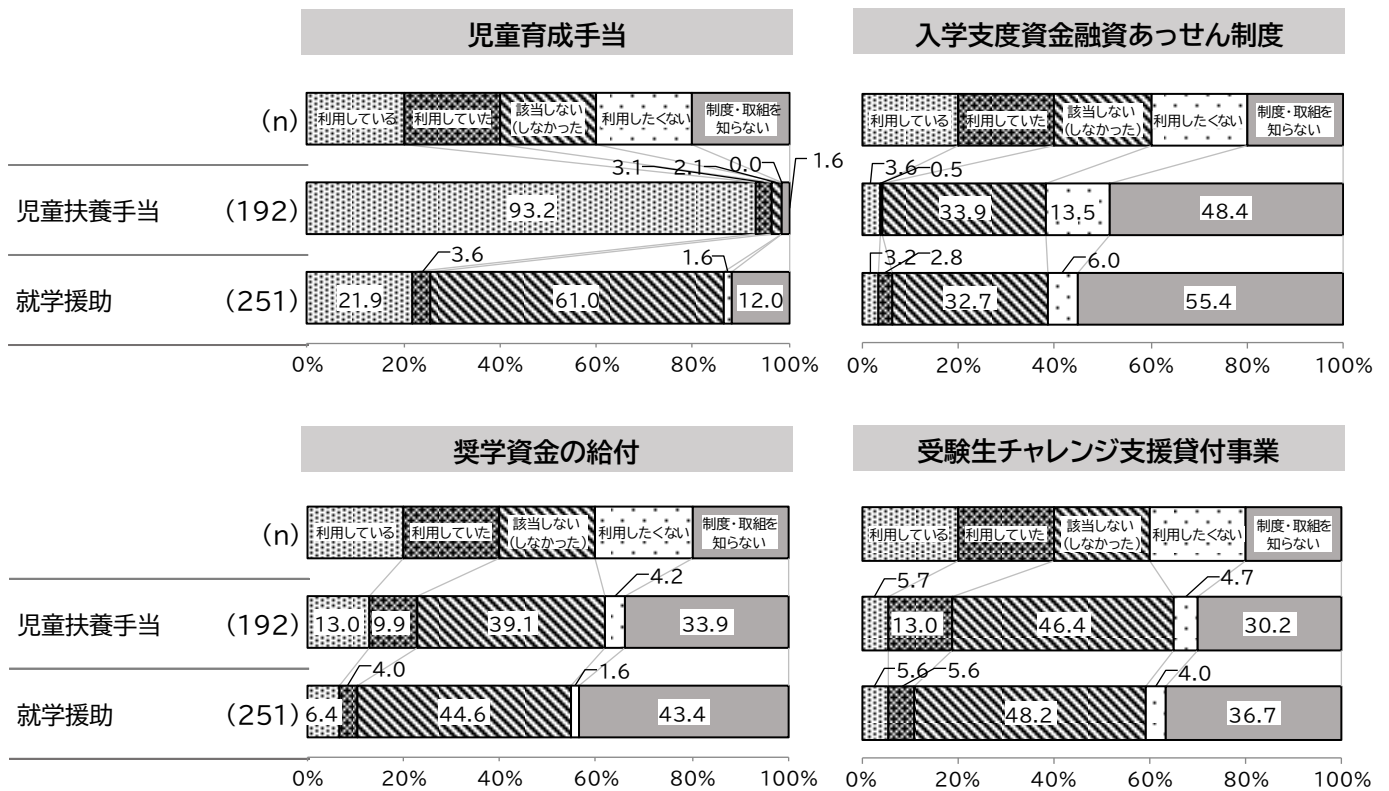
22 区の事業の利用状況

(1)利用状況

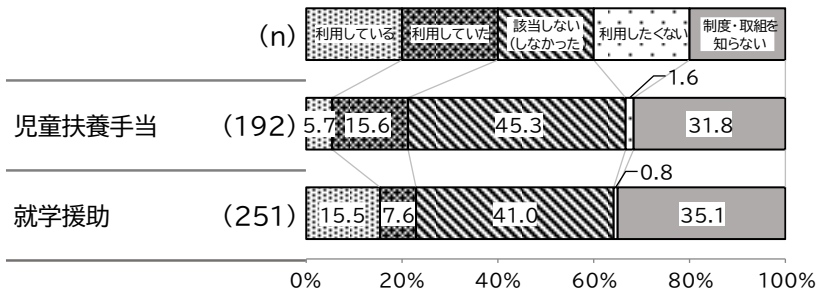
児童扶養手当 就学援助 就学援助小学生本人 就学援助中学生本人

児童扶養手当受給保護者に区の事業の利用状況について尋ねたところ、利用している事業では、児童育成手当が93.2%で最も多くなっている。次いで、子ども宅食が70.8%、奨学資金の給付が13.0%が続いている。一方、制度・取組を知らない事業では、母子および父子福祉資金が58.9%と最も多くなっている。次いで、入学支度資金融資あっせん制度が48.4%、母子家庭及び父子家庭自立支援事業が42.2%となっている。利用したくない事業では、自立相談支援事業が83.3%、子ども食堂が57.8%となっている。

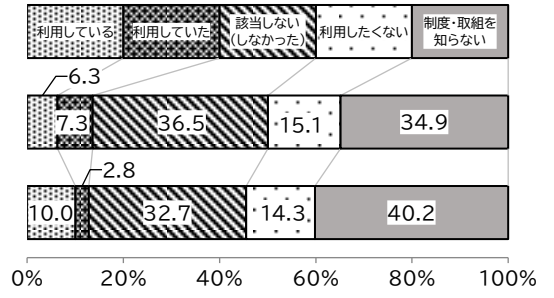
また、就学援助受給世帯保護者は、利用している事業では、子ども宅食が66.1%で最も多くなっている。次いで、児童育成手当が21.9%、中学生学校外学習費用の助成が15.5%となっている。一方、制度・取組を知らない事業では、入学支度資金融資あっせん制度が55.4%と最も多くなっている。次いで、奨学資金の給付が43.4%、学習支援が40.2%となっている。利用したくない事業では、自立相談支援事業が89.6%、子ども食堂が61.8%となっている。



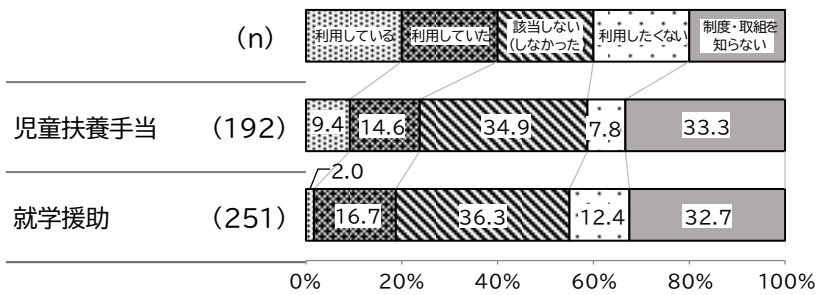
中学生学校外学習費用の助成



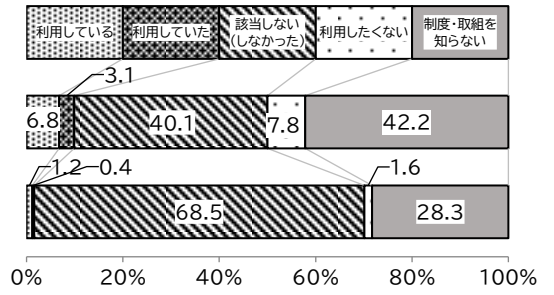
学習支援



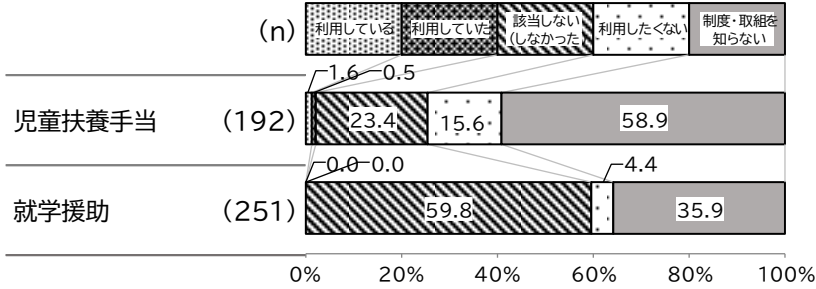
子育て支援サービスの利用料等助成



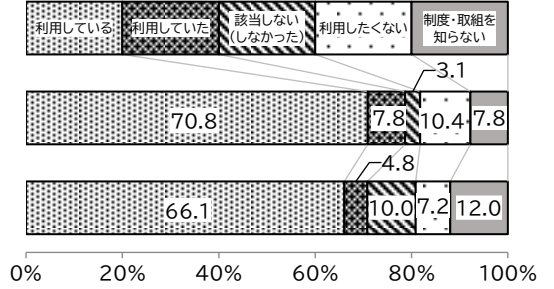
母子家庭及び父子家庭自立支援事業



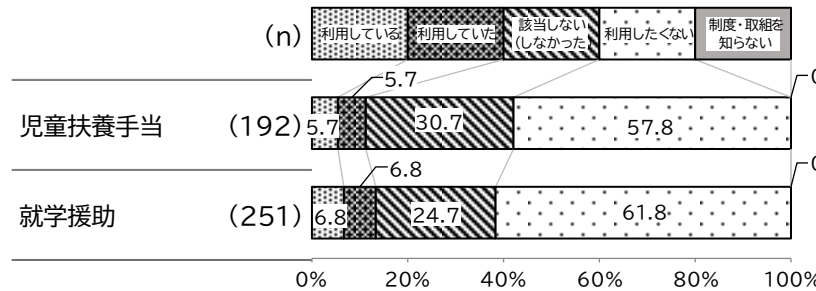
母子および父子福祉資金



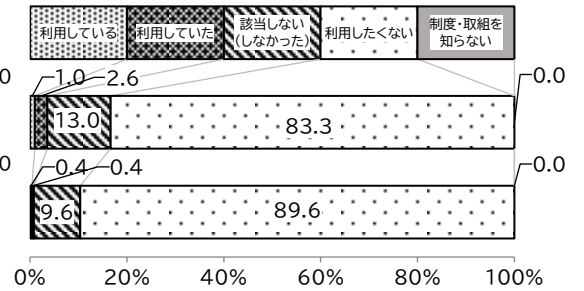
子ども宅食



子ども食堂

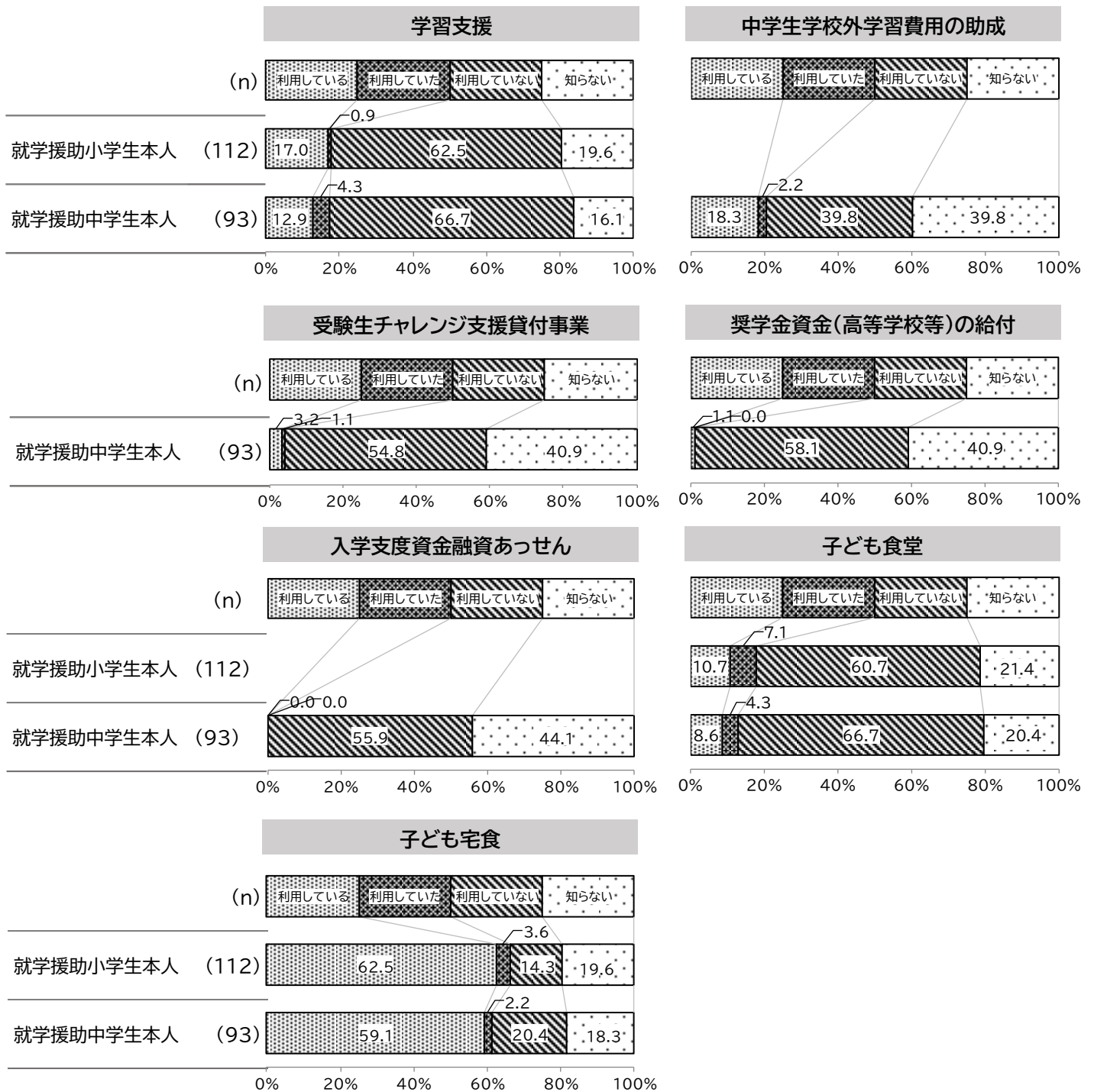


自立相談支援事業



就学援助受給世帯小学生本人に区の事業の利用状況について尋ねたところ、利用している事業では、子ども宅食が62.5%で最も多くなっている。次いで、学習支援が17.0%、子ども食堂が10.7%が続いている。一方、制度・取組を知らない事業では、子ども食堂が21.4%と最も多くなっている。

また、就学援助受給世帯中学生本人は、利用している事業では、子ども宅食が59.1%で最も多くなっている。次いで、中学生学校外学習費用の助成が18.3%、学習支援が12.9%が続いている。一方、制度・取組を知らない事業では、入学支度資金融資あっせんが44.1%と最も多く、次いで受験生チャレンジ支援貸付事業と奨学金資金(高等学校等)の給付がともに40.9%となっている。

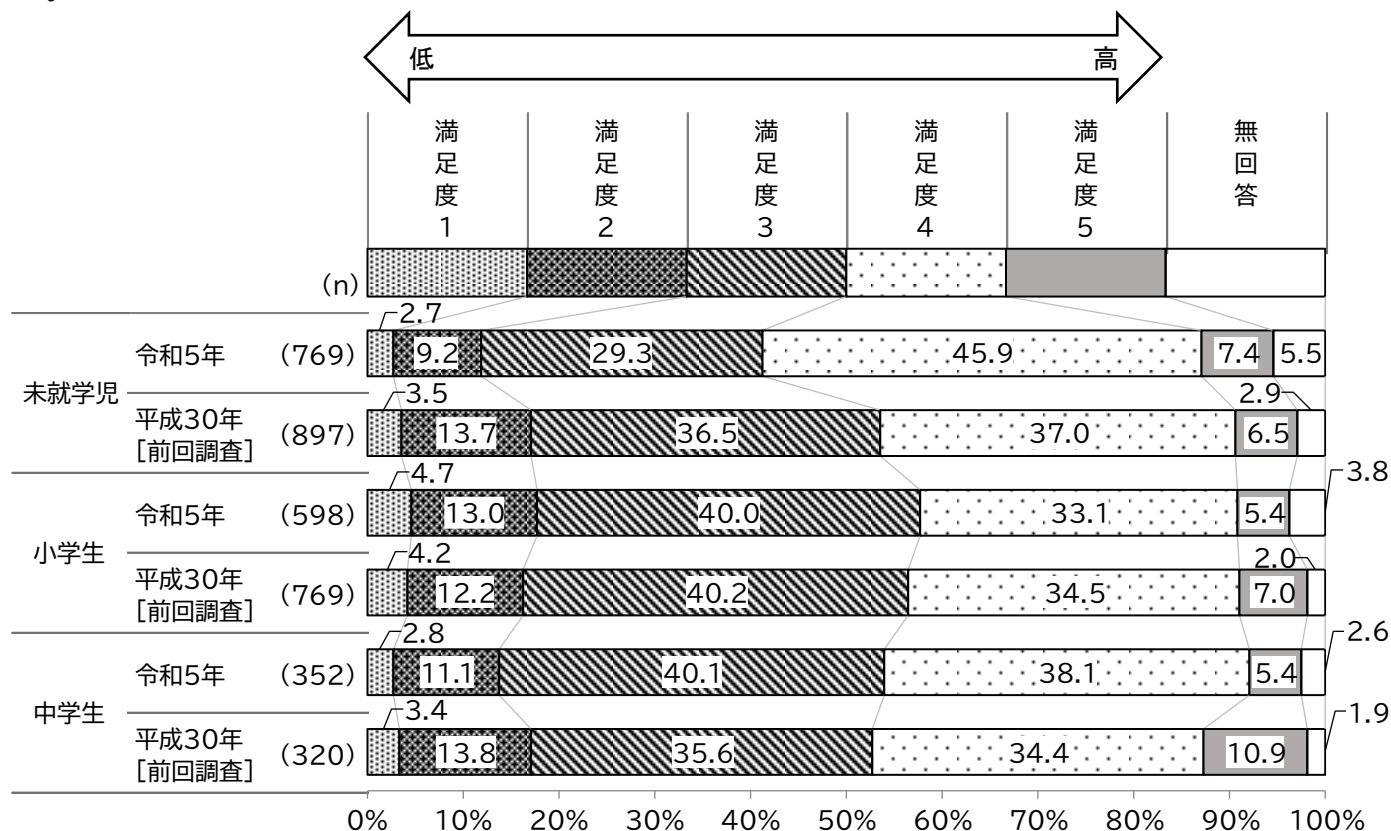


23 子育て環境や支援への満足度について

未就学児 小学生 中学生

区の子育ての環境や支援について、満足度を5段階評価で尋ねたところ、未就学児の保護者、小学生の保護者及び中学生の保護者ともに満足度が高い「満足度4」「満足度5」が満足度の低い「満足度1」「満足度2」の割合を上回っている。

平成30年の調査結果と比較すると、「満足度4」「満足度5」の計は未就学児の保護者で9.8ポイント増加している一方、小学生の保護者で3.0ポイント、中学生の保護者で1.8ポイント減少している。



《満足度1と2の合計》		《満足度4と5の合計》	
未就学児	11.9%	未就学児	53.3%
小学生	17.7%	小学生	38.5%
中学生	13.9%	中学生	43.5%

文京区こども・子育て支援に関する実態調査 報告書

～ 概要版 ～

令和6年3月発行

発行 文京区子ども家庭部子育て支援課

文京区春日1丁目16番21号

電話 03-3812-7111(代表)

印刷物番号 F0123016

資源有効利用のため再生紙を使用しています。

